関西外国語大学大学院外国語学研究科

博士学位申請論文　平成 29 年度

新聞見出しに関する研究

――構文的な特徴を中心として

関西外国語大学大学院

外国語学研究科　言語文化専攻

914302

劉　吉香

目　次

第一章 序論 1
1. 研究背景 1
2. 研究の対象・目的・方法・意義 1
2.1 研究対象と目的 1
2.2 一面の見出しに絞った理由 1
2.3 研究方法 5
2.4 研究意義 6
3. 先行研究と問題点 6
3.1 朱(1992) 6
3.2 田中(1997, 1998) 7
3.3 野口(2002) 7
3.4 水内(2001, 2002b) 8
3.5 寺川(1991) 8
3.6 森山(2009) 9
3.7 問題点 9
4. 本論文の構成 9
第二章 新聞見出しの特徴 10
1. 新聞見出しの定義 10
2. 新聞見出しの構成 10
3. 新聞見出しとニュースの価値判断 15
4. 新聞見出しの役割・機能 17
4.1 選択性 20
4.2 誘引性 20
4.3 代行性 20
4.4 要約性 20
4.5 暗示性 21
4.6 速報性 21
4.7 予告性・予測性 21

5. まとめ……22
第三章 新聞見出しにみられる表現形式……23
1. はじめに……23
2. 先行研究……23
3. 新聞見出しの止め方……24
3.1 名詞止め……26
3.2 助詞止め……30
3.3 動詞止め……33
3.4 形容詞止め……34
3.5 形容動詞止め……35
3.6 副詞止め……35
3.7 その他……36
4. 臨時一語の多用……36
4.1 漢語の組み合わせによってなった臨時一語……37
4.2 他の語種を含む臨時一語……38
5. テンスとアスペクトの形式の不明示とその要因……38
5.1 テンスとアスペクトの形式の不明示……38
5.2 その要因……44
6. モダリティの形式の欠如とその要因……46
6.1 モダリティの形式の欠如……46
6.2 その要因……46
7. まとめ……48
第四章 新聞見出しの構文的な特徴……49
第一節 「へ」で終わる新聞見出し……50
1. はじめに……50
2. 先行研究とその問題点……50
3. 新聞見出しにおける「へ」の使用状況……51
4. 「へ」で止める見出し……51
4.1 通常の場合の「へ」の用法……52

4.2　見出し末の「へ」の使い方……53
4.3　「動作性名詞＋へ」で止める見出しと「へ」なしの動作性名詞止めの見出しとの比較……58
4.3.1　「動作性名詞＋へ」で止める見出し……58
4.3.2　「へ」なしの動作性名詞止めの見出し……71
5.　まとめ……80
第二節　「に」で終わる新聞見出し……81
1.　はじめに……81
2.　先行研究とその問題点……81
3.　通常の場合の格助詞「に」の用法……82
4.　見出し末の「に」の用法……86
4.1　「に」の前に現れる語の分類およびその用法……86
4.2　例外的な使い方……98
4.3　見出し末の「に」と本文の「と」……99
4.4　「に」は「既定」か「未定」か……103
5.　まとめ……110
第三節　「を」で終わる新聞見出し……111
1.　はじめに……111
2.　先行研究とその問題点……111
3.　新聞見出しにおける客観的な「へ」、「に」と主観的な「を」……112
4.　二重的構造……114
5.　「を」で止める見出しの分類および意味解釈……115
5.1　［ニツイテ・ニ対シテ　ヲ］型……116
5.2　［ガ　ヲ］型……124
5.3　［デ／二／カラ　ヲ］型……124
5.4　［ヲ］型……131
5.5　［複文・二文的］型……132
6.　ヲ格の前の名詞の特徴……134
7.　まとめ……135

第四節　名詞句と名詞句のみの組み合わせの新聞見出し……136
1.　はじめに……136
2.　名詞句に現れる助詞に注目……137
3.　名詞句の名詞の意味的タイプに注目……144
3.1　同じ助詞を伴った名詞句の型……144
3.2　助詞が付いていない型……147
4.　知識を利用……149
4.1　言語知識……149
4.2　背景知識・常識……150
5.　まとめ……150
第五章 全体のまとめと今後の課題……151
1.　全体のまとめ……151
2.　今後の課題……153
付記……158
調査資料……158
参考文献……158

第一章　序論

本章では、まず、本研究を行った背景と本研究の研究対象、目的、方法、意義を述べた後で、先行研究をまとめ、問題点を示す。そして、本論文の構成を示していく。

1.　研究背景

高度な情報化の進展につれて、われわれは職場や家にいながらにして世界のことを知ることができる。ニュース報道は一国の言語生活の状態をうまく反映することができる。情報化の進展と人々の生活リズムの加速化に伴って、今の世界は「見出しを読む時代」に入っている。見出しはニュースとしての事実と中心的な内容や意見が高度に凝縮されたものである。新聞の見出しは、少ない字数という制約の中で伝達力の高い表現が求められ、通常の文と違う表現形式が多く見られる。

新聞見出しに関する先行研究の内、メディア研究の視点や見出しの出現及び通時的変化の視点や日本語教育の視点や修辞的な角度、また、文章論の観点など、既に色々な角度から数多くの研究が蓄積されている。一方、言語学の範囲内の研究では、省略の視点からのアプローチが多数である。このような背景を踏まえ、本稿では、新聞見出しに用いられる言語表現を言語学、特に語彙論、統語論、語用論の知見を用いて分析を行うことを目標とする。

2.　研究の対象・目的・方法・意義

この部分では、研究対象と目的、また、研究対象を絞った理由、そして、研究方法と研究意義にも触れる。

2.1　研究対象と目的

本研究では、以上のような研究背景で、日本の代表的な新聞社『読売新聞』のデータベース[1]を利用して、『読売新聞』(読売新聞社　東京　朝刊のみ)[2]の 2014 年一年分の一面の主見出し(その「編集手帳」と「解」のコラムの見出しを除く)を取り出し、考察対象とし、実例の分析を通して、新聞見出しの構文的な特徴を究明することにする。

2.2　一面の見出しに絞った理由

一面の見出しに絞った理由としては、一面は新聞の顔と言えるからである。内容のバリエーションは豊富であり、2014 年一年分の一面の主見出しを分類である表 1-1[3]に基づいて、考察した結果としては、次の表 1-2 と図 1-1 のようになる。

表 1-1　一面の主見出しの内容による分類

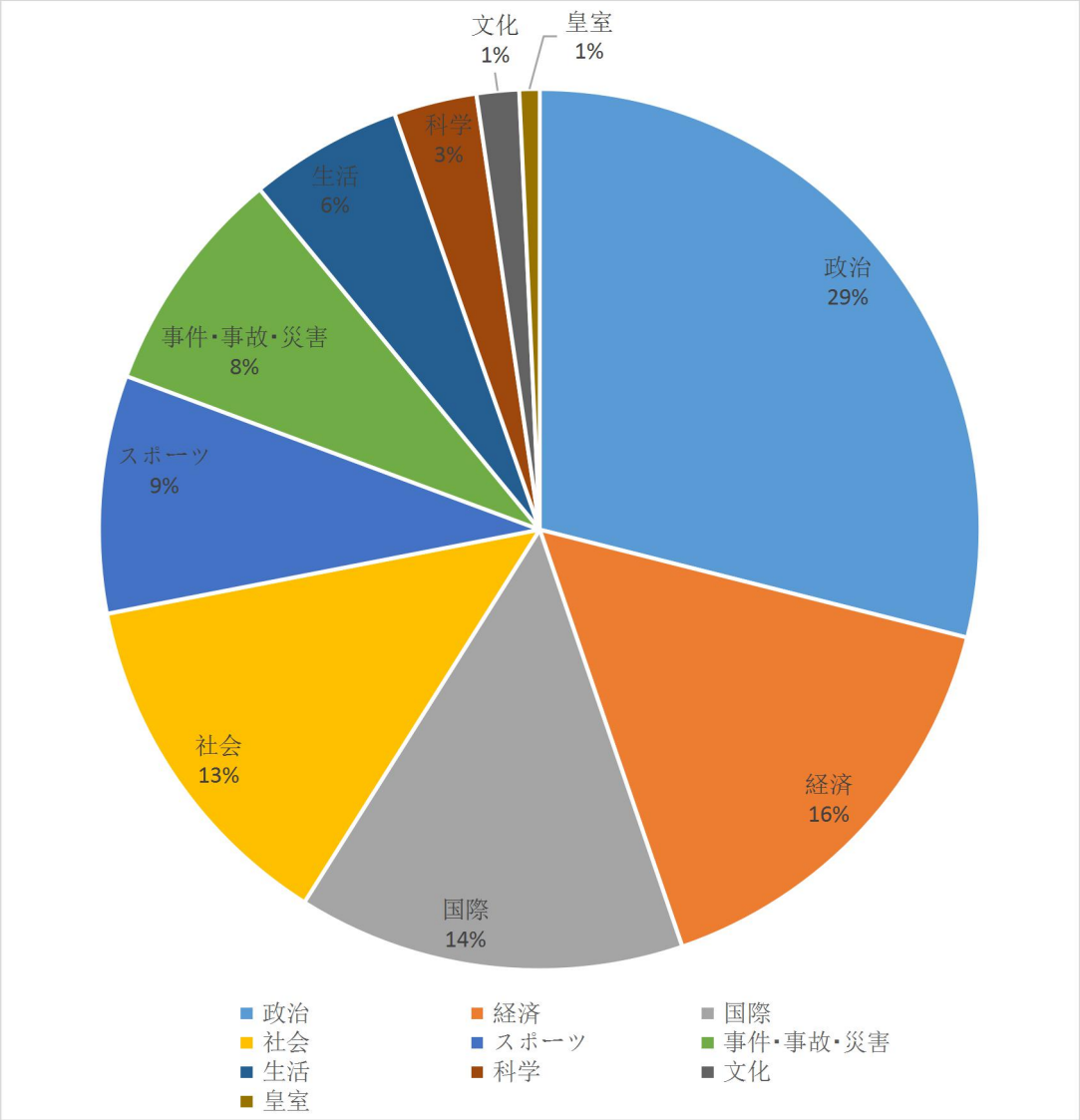
分類	詳細分類
皇室	皇室
政治	右翼左翼、選挙、行政 、地方自治、司法、警察、外交、軍事、戦争など
経済	財政、 金融、 企業 、技術、 情報、 サービス 、貿易、 国土・都市計画、 鉱工業、資源・エネルギー 、農林水産など
社会	市民運動、 社会保障、環境 、女性、 子供、中高年、 勲章・賞、労働、教育など
スポーツ	スポーツ
文化	学術、美術、映像 、文学、 音楽、演劇、 芸能、舞踊、宗教など
生活	健康、衣・食・ 住、余暇、行事など
事件・事故・災害	犯罪、殺人、窃盗、地震、津波、台風など
科学	宇宙、地球、理工学、生命工学、動植物など
国際	アジア・太平洋、南北アメリカ、西欧、旧ソ連・東欧、中東、アフリカなど

表 1-2　2014 年の一面の主見出しの内容分布の内訳

分類	本数
政治	428
経済	234
国際	210
社会	192
スポーツ	129
事件・事故・災害	124

生活	83
科学	45
文化	23
皇室	11
合計	1479

図 1-1　2014 年の一面の主見出しの内容分布



以下、それぞれ例を挙げておく。

＜政治＞

(1) 首相、デフレ脱却に全力　　（東京朝刊・ 2014.01.07）

(2) 舛添氏[4]　都知事選出馬へ　　（東京朝刊・ 2014.01.08）

＜経済＞

(3) 景気　全9地域「回復」　　（東京朝刊・ 2014.01.17）

(4) 消費税10%「年内に判断」　　（東京朝刊・ 2014.01.20）

＜国際＞

(5) エジプト改正憲法案　承認へ　　（東京朝刊・ 2014.01.17）

(6) イラン核縮小　履行開始　　（東京朝刊・ 2014.01.21）

＜社会＞

(7) 新幹線談合　強制捜査へ　（東京朝刊・ 2014.02.04）

(8) 東京海上未払い12万件か　（東京朝刊・ 2014.02.06）

＜スポーツ＞

(9) 東洋大　往路Ｖ　（東京朝刊・ 2014.01.03）

(10) 41歳葛西　最年長Ｖ　（東京朝刊・ 2014.01.12）

＜事件・事故・災害＞

(11) 農薬混入　49歳男を逮捕　（東京朝刊・ 2014.01.26）

(12) 記録的大雪　10人死亡　（東京朝刊・ 2014.02.16）

＜生活＞

(13) ご当地名物ずらり　（東京朝刊・ 2014.01.11）

(14) 頼みの県道　除雪に5日　（東京朝刊・ 2014.02.20）

＜科学＞

（15） ｉＰＳ　臨床へ手続き　（東京朝刊・ 2014.02.27）

（16） ＳＴＡＰ存在「有力」　（東京朝刊・ 2014.04.17）

＜文化＞

（17）歌舞伎座１年　ずらり 170 人　（東京朝刊・ 2014.04.29）

（18）新竜王　糸谷七段　（東京朝刊・ 2014.12.05）

＜皇室＞

（19）「昭和天皇実録」完成　（東京朝刊・ 2014.08.22）

（20）皇后さま 80 歳　（東京朝刊・ 2014.10.20）

以上で分かるように、一面の新聞は、政治、経済、国際情勢、社会、スポーツ、事件や事故など、社会で起こっているさまざまなニュースを伝える。本稿では、このような役割を果たしている一面の新聞主見出しを研究対象としている。

2.3　研究方法

本研究は主に次の三つの研究方法を採用する。具体的にいえば、次のようになる。

(1) コーパスを利用して研究する。定量的な分析及び定性的な分析との組み合わせ。先述したように、本研究では、読売新聞のデータベースを利用して、『読売新聞』の 2014 年一年分の一面の主見出しを取り出し、考察対象とする。まず、その一年分の主見出しについて分類し、データを統計する。それから、その統計した結果にも基づいて、注目すべき現象について本質的に分析していく。

(2) ケーススタディー。ケーススタディーは新聞見出しを研究するのに不可欠な研究方法の一つである。新聞見出しについての研究は大量の事例研究の上で行われているわけである。数多くの新聞見出しについての研究を通じて、新聞見出しの特徴を明らかにし、研究を続けていく。

(3)「まとめ」として。ケーススタディーの後で総合的な考察を行う。大量の新聞の見出しを分析した後、新聞見出しの特徴を系統的、全面的に取り出す。

2.4　研究意義

本研究は、日本語の新聞見出しについての研究を通して、新聞見出しの構文的な特徴を明らかにし、日本語学習者に対して、新聞見出しを理解するためにヒントを与え、語学学習にも役立つ情報を提供する。

3.　先行研究と問題点

この部分では、主に言語学の範囲で日本語の新聞見出しを分析した代表的な研究をまとめ、今までなされてきた先行研究の全体像を把握する。また、先行研究を紹介した後、それらの問題点を示す。そして、他の各章・節では更にそれぞれの焦点にあわせて、関連する先行研究を紹介する。

3.1　朱(1992)

朱(1992)は、日本語の新聞見出しが字数、字種、止め方などの面で独特な構成を見せているとし、1987年(昭和62年)一月、一ヶ月分の『朝日新聞』(朝刊)を調査の対象としている。その中の総合面(1・2・3ページ)、国際面(6・7ページ)、経済面(8・9ページ)、スポーツ面(18・19ページ)、社会面(22・23ページ)の各面にある計2386本の主見出しを資料に、量的構造の視点から調査を行っている。結論としては、次の5点にまとめられる[5]。(1)新聞見出しは主として漢字、ひらがな、かたかなで構成されている。この他、ローマ字、アラビア数字と記号類なども一部使われている。助詞類が新聞見出しに使われた平仮名の半分ほど(49.5%)を占め、漢字の比率が6割を超え、平仮名が2割強を、片仮名が約1割ほどを占めている。(2)新聞見出しの中で、もっとも多く使われるのは一段見出しで、つづいて、三段抜き見出し、横見出し、四段抜き見出し、二段抜き見出し、五段抜き、六段抜き見出しの順となっている。(3)新聞見出しの字数については、普通、八字の見出し、九字の見出し、十字の見出しがもっともよく使われるが、一段見出しだけは、他の見出しがもっともよく使われるが、一段見出しだけは、他の見出しと違って、十二字の見出しがもっとも多い。(4)新聞の本見出しは、一行と二行に配列するのが基本である。今回の調査によって、九字までの見出しは一行のものが主流で、十字～十三字の見出しでは、一行のものも二行のものもあるが、十四字以上の見出しとなると、二行のものが圧倒的に多い。(5)名詞止めの見出しが総数の7割以上を占め、次は助詞止めと動詞止めで、この

三つで総数の9割を超える。助詞止めは「に」、「へ」、「も」、「を」、「か」の順に多く、名詞止めと同様に文末に省略があると考えられるとしている。

3.2　田中(1997, 1998)

田中(1997, 1998)は、朱(1992)を引き継いで更に研究を進めている。田中(1997)は、「止め方」によるより詳しい分析を行うため、1996年7月1日と2日の朝日新聞東京版の朝・夕刊に掲載された社説やコラムを除く一般記事のすべての見出し693例について調べた。結果としては、最後に「名詞で終わるもの」が圧倒的に多く、次が「名詞＋ヲを除く格助詞」、そして「動詞で終わるもの」となっており、この三つを合わせると全体の95%を超えるとしている。

また、田中(1998)は、田中(1997)の調査結果[6]を提示した上で、「名詞で終わるもの」、「名詞＋ヲを除く格助詞」、「動詞で終わるもの」、この三つが新聞見出しの基本的な形態だと考えられると指摘し、更に、「名詞で終わる」見出しにおいても、「動作性名詞」や「名詞＋ヲを除く格助詞」も、「動詞で終わるもの」と同様、ある事象を表現しているとし、新聞見出しの特徴として、名詞止めはもちろん動詞止めにおいてもテンスとアスペクトを明示せず、モダリティ形式の欠如したものが普通であると指摘している。見出しは、新聞という形式、発行日、記事などに従属しており、客観報道というメディアの特質から真偽判断を明示する必要がなく、基本的に過去の事象を報告するということからテンスも明示されないと分析している。

3.3　野口(2002)

野口(2002)は、本文の内容を予測するのに有力な手がかりとなる見出しの省略方法のルールと見出しの解読の際の問題点を指摘している。見出しに見られる省略方法は、大きく二種類に分けられるとしている。一つは、表現の工夫による省略である。もう一つは、記号による省略である。また、表現の工夫による省略には、助詞の省略、名詞止め、助詞止め、略語省略の使用が含まれる。そして、記号による省略には、読点(,)、中点(・)、半角の空白、矢印(→)、三角印(▲)、カギ(「　」)、ヒゲ（“　”)、疑問符／感嘆符(？　！　！?)などが含まれる。見出しには、これらの省略方法がいくつか組み合わせされていることが多いと指摘している。見出しの解読で生じる問題点に、助詞、動詞の復元、連体修飾語、

テンス・ムードなどのことを挙げている。名詞止めではテンスが分かりにくい。動詞の場合、過去のことでも現在形を使うとしている。

3.4　水内(2001, 2002b)

水内(2001)は、2000 年 4 月 1 日から 10 まで 9 日間の『読売新聞』の新聞の 5 語で構成された主見出しを資料として研究がなされている。水内の研究によると、次のようなことが分かった。比較的省略しやすいのが、形容詞・副詞などの修飾語や陳述を細かく限定する助動詞である。次いで、助詞の省略が可能だが、語と語、句と句との間の関係を限定する助詞は、見出しの潤滑油の役目を果たす。省略しすぎると意味が通じなくなり、使いすぎるとまどろこしくなる。新聞見出しは、極めて限られた字数で、的を得た簡潔に抽出した最も重要なニュース要素を短句組み立て、文法に従って再構成しているが、その組み立てに当たって、述語の機能はもちろん、助詞や記号などの機能も最大限に取捨選択して活用し、一字の無駄もないような省略文法を構成していることが言えると指摘している。

また、水内(2002b)は、2000 年 4 月 1 日～7 日一週間の広告面を除く一面、政治、経済、社会面など 12 種類面に掲載された主見出し 1037 本について、その止め方を分類した上で、述語と主語が存在するかどうか、の視点から検証している。結論としては、述語の整わない見出しは、名詞止めの 20 本、記号止めの 4 本の計 24 本だけであるとしている。そして、主見出しの主語や述語、修飾語に対する組み見出しや関連記事見出しの補完も検証している。そのほか、新聞の見出しを外国人の日本語教育や日本人の国語教育において、読解力や文章表現力、的確な言語使用力の養成に活用できるかどうかの考えで試論をも行われている。結論としては、国語教育の場でも効果的な教育が出来るのではないかとの思いを強くしたと述べている。

3.5　寺川(1991)

寺川(1991)は、見出しの「名詞―動詞」の連体修飾構造の「装定」と[名詞―動詞]の「述定」の配列に注目し、Ⅰ 主題的な一成分、Ⅱ 文から述語部をとったもの、Ⅲ 文から活用語尾をとったもの、Ⅳ 述語が言い切り形をとるもの、Ⅴ 述語が続く形をとるもの、Ⅵ有標の伝達のムードを伴うものと、Ⅶ 装定(連体修飾)の 7 つのタイプに分類して、見出しがとる表現形式を考察している。

3.6　森山(2009)

森山(2009)は、情報の圧縮という観点から，新聞見出しの文法について論述している。格助詞の「が」、「を」や主題の助詞の「は」の省略、動詞の省略を挙げている。また、テンス・アスペクトについて、未来時制が空間的比喩によって「へ」で表示されるという認知言語学的な写像関係が指摘できるとし、モダリティについては、事実報道という特質からモダリティが決定できること、そして、さらに、「福岡市にサミットを」のように述語存在を暗示する助詞終わりの形が要求などのモーダルな意味を予想させることなどを指摘している。

3.7　問題点

以上見てきたように、従来の研究は、量的構造や省略の対象に焦点を合わせ、文の中のどの成分が省略されているかという文構造的な視点からアプローチが多数なされてきた。特に格助詞や主語、目的語、述語などの省略に対する分析が多い。本稿は量的構造だけではなく、そして、省略されたと思われる部分ではなく、見出しに現れる部分に注目して、意味論、統語論、語用論的の知見を用いて、新聞見出しの構文的な特徴を究明することにする。

4.　本論文の構成

本稿は、全体として五章から構成されている。

第一章では、本研究の研究背景、研究対象、目的、方法、意義などについて述べ、先行研究をまとめた後、問題点を示す。そして、本論文の構成を示していく。

第二章では、新聞見出しに関する基本的な概念と新聞見出しの特徴について検討する。

第三章では、収集したデータに基づいて、新聞見出しの表現形式を究明する。

第四章では、収集した実例を通して、まず、「へ」、「に」で終わる新聞見出しについて検討し、それから、「へ」、「に」止めと違うタイプの「を」で終わる見出しについて検討する。そして、名詞句と名詞句のみ組み合わせの見出しについて検討する。

第五章では、本論文における論証を全体的にまとめ、そして、本研究に残された今後の課題について触れる。

第二章　新聞見出しの特徴

本章では、新聞見出しの定義を行い、新聞見出しの構成について説明した後、新聞見出しとニュースの価値判断について触れ、そして新聞見出しの機能・役割を検討していく。

1.　新聞見出しの定義

一般的にいえば、新聞記事は「見出し」と「本文」から成り立っている。菅野謙(1988)では、「新聞の見出し」の項目で、見出しの定義について、次のように述べている。

> 「見出し」と呼ばれるものは、大きく二つのジャンルに分類できるとしている。
>
> 1)たとえば，「見出し」ということば自体の語義を辞典で調べてみたい場合には、五十音順「ま」行の「み」にある索引語の中から「みだし(見出し)」という索引語を探し出すことになる。この索引語のことを「見出し」または「見出し語」と呼ぶ。カードや書類のインデックス，件名別の分類などもこの中に入る。
>
> 2)これに対して，新聞・放送・週刊誌などが，小説・評論その他の署名ものなどを除いて，いわゆるニュース記事的なものにその記事内容を短く要約した形でつける「見出し」がある。
>
> 菅野謙(1988：820－821)

本研究で扱う「見出し」とは、後者に属するものであり、本稿では、新聞の記事において、記事内容の要点を一目で分かるように要約し、本文より大きな字で章や節の最初に置かれる言葉を、「新聞見出し」[7]と呼ぶことにする。日本語の新聞の場合は、一つの記事には複数の見出しを付けるのが普通である。その複数の見出しの中で、最も大きな字で一番伝えたい、記事の中心を具体的に表すものが「主見出し」である。本稿の研究対象となるのが、その主見出しである。

2.　新聞見出しの構成

ここでは、実例を挙げながら、新聞見出しの構成について述べておく。

日本語の新聞見出しは、実例①、②のように一本見出しもあるが、通常、実例③、④、

⑤、⑥、⑦のように、組見出しのスタイルを取るのが普通である。1. で触れたように、最も大きな字で一番伝えたい、記事の中心を具体的に表すものが主見出しである。実例③、④、⑤の「自衛隊　民間船で輸送強化」、「徳田議員　失職へ」、「65 歳以上　初の 25% 超え」などは、主見出しの例である。実例③の「フェリー２隻　長期契約」のように、主見出しの左脇に添えられるものは脇(そで)見出しである。実例④の「徳洲会事件」のように、見出しの全体の頭に添えられるものが頭かぶせ見出しである。実例⑤の「昨年推計」のように、脇見出しの頭に添えられるものは脇頭かぶせ見出しである。実例⑥の「15 年度から」のように、全体の尻に添えられるものが尻かぶせ見出しである。実例⑦の「政治資金収支報告書」のように、主見出しの右に添えられるものが肩見出しである。日本語の新聞見出しは以上のようないくつかの見出しの組み合わせによって構成される。また、実例⑧のように、主見出しを二つ折にする方法もある。[8]

実例①

みんな新代表 浅尾氏選出へ

みんなの党（衆院9人、参院13人）の浅尾慶一郎幹

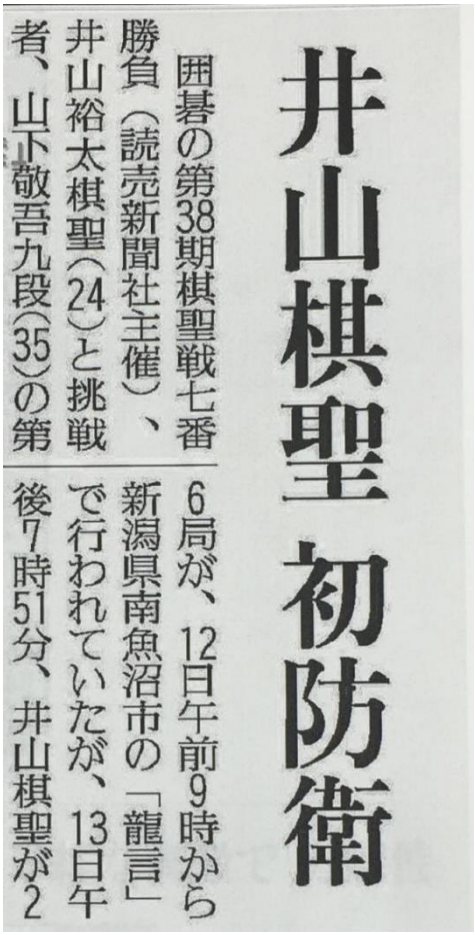
前代表の辞任に伴う代表選（11日告示・投開票）に出馬する意向を表明した。出馬を検討していた松沢成文参院議員(56)は、党の混乱回避を理由に断念する考え

氏が無投票で選出される見通しとなった。

浅尾氏はこの日、国会内で若手議員から出馬要請を受けた。その後、記者会見し、「要請に応えることに

を実現すること
頼回復に努めな
た。党運営に
んなの党の存
立政権を目指す
ック構想」を
表明した。渡辺
た構想であり、
線を踏襲する
ものだ。浅尾氏

実例②



井山棋聖 初防衛

囲碁の第38期棋聖戦七番勝負（読売新聞社主催）、井山裕太棋聖(24)と挑戦者、山下敬吾九段(35)の第6局が、12日午前9時から新潟県南魚沼市の「龍言」で行われていたが、13日午後7時51分、井山棋聖が2

実例③

自衛隊 民間船で輸送強化

フェリー2隻 長期契約

南西諸島での有事や大規模災害などに備え、防衛省は、民間のフェリー2隻を借りて自衛隊員の輸送に活用することを決め、月内に常時借り受けるための長期契約を結ぶ。自衛隊が保有する輸送艦は3隻だが、これまで輸送力不足が明らかに防衛省が一時的に借り、部隊などの輸送に使った例がある。そうした際に借りたのは、総トン数1万トン以上の大型船。過去に使用した約1万700トンのフェリーは約800人を乗せることができ、速度も30ノット（時射実験や自衛隊の演習の際衛省は今回もこれと同クラスを想定しており、普段は船会社が管理し、必要な時に使えるようにする。

自衛隊が現在運用している輸送艦3隻（いずれも約8900トン）は、1隻あたりが運べる隊員が300人ほどで、速度も22ノット（時速月、伊豆大島（東京都）の土石流災害やフィリピンの台風被害が相次いで発生した際には、2隻が整備中などで使えず、残る1隻を連続して現地に出動させた。この影響で、同時期に南西諸島で予定されていた上陸訓練の一部が、隊員を運べなくなったことから中止されるなど、自衛隊の活動に支障も出ていた。

同クラスの輸送艦の建造には約400億円かかるが、フェリーの借り受けは1隻あたり年間10億円程度と見込まれるという。

実例④

徳洲会事件

徳田議員 失職へ

初公判 美千代被告 罪状認める

また、
挙運動を
賞与に
払うこと
いたと
は、職

実例⑤

65歳以上 初の25%超え

昨年推計 総人口3年連続減

総務省は15日、2013年10月1日現在の日本の総人口（外国人を含む）が前年より21万7000人減り、1億2729万8000人（前年比0・17%減）になったとする人口推計を発表した。人口減は3年連続。働き手の中心である15～64歳の生産年齢人口が32年ぶりに8000万人を下回る一方、65歳以上の高齢者の割合が比較可能な統計がある1950年以降、初めて総人口の4分の

和した。

実例⑥

日米サイバー連携強化

自衛官派遣、要員育成

15年度から

日米両政府は、サイバー攻撃への対処能力を高めるため、米軍と自衛隊の専門要員育成に共同で取り組む。自衛官を米軍のサイバー防衛に関する教育課程に派遣するなど日本より対策が進む米国の技術や経験を学ぶ。自衛隊の能力を向上させ、同盟強化につなげるのが狙いだ。サイバー分野での日米協力は情報交換にとどまっていたが、より実務的な連携を進める。

2月に初会合を開くサイバー防衛の日米作業部会で具体案を検討し、2015年度からの実施を目指す。

両政府は、サイバー空間を陸・海・空・宇宙と並ぶ

実例⑦

政治資金収支報告書
14道府県 ネット非公開

今月末までに公開される2016年分の政治資金収支報告書[1]について、インターネット上での公開をしない選挙管理委員会が14道府県に上っていることが読売新聞のまとめで分かった。ネット非公開の

政治資金収支報告書
政治資金パーティーへの寄付、
政都道府県への交通費や
収入支出は
総務省に届け出る。

実例⑧

集団自衛権行使
北岡氏が5要件

政府の「安全保障の法的基盤の再構築に関する懇談会」座長代理を務める北岡

合②放置
に大きな
当該国か
った場合
領海など
を得る⑤
断し国会

3.　新聞見出しとニュースの価値判断

共同通信社(2012)では、記事の書き方として、「六要素と逆三角形」を指摘し、次のように述べている。

> いつ(WHEN)どこで(WHERE)だれが(WHO)なにを(WHAT)なぜ(WHY)どのように(HOW)――ニュースにはこの6要素(5W1H)が原則として含まれる。
>
> この6要素のうちどれが一番重要性を持つかは個々のニュースによって違ってくるし、どんな記事にも6要素が含まれるというわけでもない。最大多数の読者の最大関心は何か、伝えるべき焦点は何かをまず判断することが大切である。
>
> もう一つのW　記事が読者に対して持つ意味・値打ち(WORTH)の検証も大事だ。特に政府・自治体や政党の政策、予算案、審議会の答申、業界団体の提言、発表ものなどを書く場合、記者の明確な視点で対象を綿密に分析し、読者に判断材料として提供する工夫が必要である。一般の文書では結論を最後に書くが、ニュース報道記事はいきなり結論を先に出し、次に経過的に重要なこと、説明的なことを順次書く。この文体を「逆三角形」という。これは読者にまずニュースのポイントを伝えることになるし、文章を簡潔にすることにも役立つ。
>
> 共同通信社(2012：10)

上記で指摘してあるように、この6要素のうちどれが一番重要性を持つかは個々のニュースによって違ってくる。どんな記事にも6要素が含まれるというわけでもない。最大多数の読者の最大関心は何か、伝えるべき焦点は何かをまず判断することが大切である。

水内(2002b)は、その「一番の重要性」「最大多数の最大関心」「伝えるべき焦点」を判断する一応の「物差し」として、①国際性、②記録性(歴史性)、③影響性(発展性)、④社会性(時代性・連続性・多発性)、⑤普遍性(大衆性・一般性・著名性)、⑥人間性(生命性・情緒性・生活性・季節性)、⑦地域性、⑧意外性(異常性・突如性)の八つの要素が考えられるとし、この八つの要素と5W1H、そして、もう一つのWである「記事が読者にたいして持つ意味・値打ち(WORTH)」を総合的に検証して、ニュースの価値判断がなされると分析している。

また、長年にわたり、見出し付けの実務経験を持っている水内氏はその 5W1Hについて、次のように詳しく述べている。

いつ（WHEN）では、敬老の日にお年寄りが自殺すれば、普通の日の自殺に比べて影響性、社会性、人間性などが加わりニュース価値は高い。それは子供の日の事故、あるいは誕生日の事故、連休中の列車事故などでも同様である。

どこで（WHERE）では、有名な場所であればあるほど地域性、社会性、影響性などがたかまりニュース価値が出てくる。同じ規模の列車事故でも外国より国内での方が読者の関心も高い。また、一般住宅での窃盗事件は通常、記事にならないことも多いが、警察官舎での窃盗事件となれれば掲載しないわけにはいかなくなる。

だれが（WHO）も同様で、その人が有名であればあるほど、普遍性、社会性、意外性などがあり、ニュース価値は高くなる。地裁判事が携帯電話の出会いサイトで知り合った 18 歳未満の女性との不純異性行為で逮捕される事件があったが、たとえ有名でなくても、その職業によっても意外性、人間性が加わる上、出会いサイトでも出会いという社会性、影響性もあて、ニュース価値は一段と高い。

なにを（WHAT）はニュース原稿の中核であり、根本的な要素といえる。見出しを付ける上では必要不可欠な要素となる。予算、統計物では数字自体が「何を」であり、記録性も加わる。

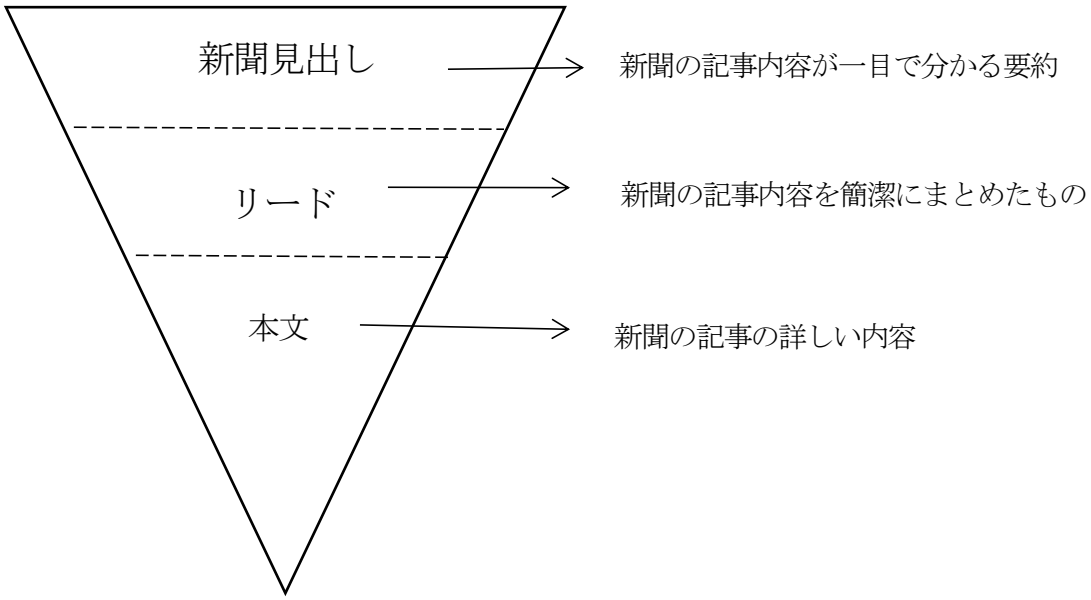
なぜ（WHY）は、そのニュースがなぜ起きたのかという読者の疑問に答える根本的に必要な要素であり、関心も高い。通常、事件・事故の発生物では、取材してすぐにはわからないことが多いが、この「なぜ」を起点に取材することによって影響性、社会性、普遍性、人間性などの面で記事の厚みが生まれるし、再発防止につながる。思わぬストーリーの展開で特ダネに発展することも多い。整理部の編集記者もこの「なぜ」のニュース価値を大切にしないと焦点がぼけてしまう可能性がある。

どんなに（HOW）は、遺書を残して自殺したとか、制服のままビルから飛び降りたとか、その状況を読者に伝える大切な要素。人間性や意外性、影響性などのニュース価値を加わる要素となる。

水内（2002b：20）

先に触れたように、新聞記事は「逆三角形」で作られている。それは新聞記事の大きな特徴である。普通の場合は、「起承転結」で、文章を書くのが普通であるが、新聞記事の場合は、結論が先に書き、その後に詳しく説明する。短い新聞記事の場合は別として、普通の新聞記事には、見出し、リード(前文とも言う)、本文がある。見出しは、記事内容が一目で分かるようにつけられているものであり、いわば新聞記事のタイトルである。見出しは単独な存在ではなく、記事内容とセットで存在する。したがって、その「逆三角形」は図で示すと、次の図 2-1 のようになる。

図 2-1　新聞記事の「逆三角形」



4.　新聞見出しの役割・機能

3. の図 2-1 からも分かるように見出しは新聞記事には重要な地位を占めている。共同通信社(2012)では、「見出し、リード、本文」について、次のように述べている。

> 見出しは読者は読者を本文へ引き付け、いざなう看板、案内標識であるとともに、記事の勘所を前もって知らせ、本文を読み進めやすくする役目を果たす。簡潔な記事の極致でもある。
>
> 記事の中の字句をそのまま使い、客観的なポイントだけを、主観を交えずに的確に抽出して伝える「客観見出し」が多用される。

リードはできるだけ短く、ワンテーク(1段落)内に収め、一読してニュースの内容が分かるように、見出しも取れるように書く。事象が複数多岐にわたる場合などを除き乱用しない。

本文ではニュースの内容を詳しく述べ、補足したり、説明したりすべきものがあればこれを加える。できるだけその内容や表現がリードと重複しないよう工夫する。

記事はその日の紙面の都合やニュース内容の相対的重要度によって、新聞編集者の手で切られ、短くされることが多い。本文が長くなるときは、できるだけワンテーク、1節ごとに記述をまとめ、編集者が記事を切りやすくするよう心掛けたい。逆三角形の文体がまとめられるのは、このためでもある。

共同通信社(2012：10－11)

田中(1998)は、共同通信社に書かれている「読者を本文へ引き付け、いざなう看板、案内標識であるとともに、記事の勘所を前もって知らせ、本文を読み進めやすくする役目を果たす。簡潔な記事の極致でもある。記事の中の字句をそのまま使い、客観的なポイントだけを、主観交えずに的確に抽出して伝える『客観見出し』が多用される。」[9]ということを次のようにまとめている[10]。

(1)記事のインデックス・標識であること

(2)情報を簡潔に伝えること

(3)記事の的確な読解のための情報を提供すること

(4)主観が含まれないこと

田中(1998：72)

このうち、(1)～(3)の三つが新聞見出しの機能、(4)が性質と考えられると田中は指摘している。

また、新聞の見出しの機能(1)～(3)について、次のように説明している。

まず、インデックス・標識であるということは、その記事がどのような記事であるかを表示するということである。最初に述べたように新聞に載る情報は膨大なもので

あり、普通の読者が全部の記事を読むことは、ほとんどありえない。したがって、情報を選択する際には、見出しは非常に重要になる。

次に、どのような記事かということについては、二つの側面が考えられる。一つは何に関する記事なのか、という記事の伝える内容についてである、政治の記事なのか、スポーツの記事なのか。スポーツの記事なら、どのスポーツか、そして誰が何をしたのか。ここには(2)[11]も含まれる。さらに、記事のタイプを知らせることも含まれる。つまり、一般のニュース記事なのか、コラムなのか、あるいは社説なのか、といった情報である。

もう一つの役割は、読解のための情報提供、つまり記事を的確に読みやすくするための情報である。これはテーマを明示することにより、そのテーマの持つフレームワークを利用できるようにしたり、関係する記憶を活性化させたりするということがある。情報の誤読を防ぎ、読解の時間短縮にもつながる。

田中(1998：72－73)

筆者は、田中(1998)の新聞見出しの機能(1)(2)(3)には賛成するが、新聞見出しの性質(4)には賛成できない。共同通信社(2012：10)に述べられているように、「記事の中の字句をそのまま使い、客観的なポイントだけを、主観交えずに的確に抽出して伝える『客観見出し』が多用される」。従って、すべての新聞見出しが主観を含まれない、とはいえない。主観が含まれない「客観見出し」が多用されるが、主観が含まれている見出しもある。客観見出しは言うまでもないが、主観が含まれている見出しとしては、終助詞「か」で終わる見出しや、格助詞「を」で終わる見出しなどは、その典型例である。格助詞「を」で終わる見出しについて、第四章の第三節で詳しく分析する。

また、菅野謙(1988：823)では、見出しには、選択性、誘引性、代行性、要約性、暗示性の5つの役割・効用性があると指摘している。筆者は、この観点に賛成するが、この5つのほかに、速達性と予告性・予測性があると考えられる。

実は、田中(1998)の(1)記事のインデックス・標識であること、というのは、菅野謙(1988：823)の選択性と近い意味であり、(2)情報を簡潔に伝えることと、(3)記事の的確な読解のための情報を提供することと、菅野謙(1988)の要約性に含まれるものであり、要約性は、

簡潔かつ的確に要約することが含意されているのである。

次に、先行研究を踏まえながら、新聞見出しの機能・役割を述べていくことにする。

新聞見出しの役割とその効用性には、次のようなものがある。[12]

4.1　選択性

紙面に配列された記事は多種多様であり、その中に、どんなものがどこにあるか、を一目で分かるように、表示されるのが新聞見出しの基本的な役目の一つである。新聞の読み手は、これによって、自分の興味や関心のあるものを見つけ、選び読みすることができるだろう。

4.2　誘引性

誘引性は新聞見出しのもう一つの大切な約割である。見出しを見た新聞の読み手が、これによって、つい釣り込まれて、本文の中身までを読むように誘う働きがある。

4.3　代行性

代行性は、上述した(1)選択性・(2)誘引性、の二つの役割を十分に果たさせるために、本文に応じて見出しに工夫し、大小、強弱の比重を与え、どれが最も重要な記事なのか、あるいは逆に、たとえ小さくて扱ってあっても、それはそれなりに紙面に載せるだけの意味があることを、編集者が読者に成り代わって価値判断を下し、提供することである。

4.4　要約性

見出しは新聞の目であるといえる。限られた字数で、記事に含まれている最も重要な情報を簡潔かつ的確に、しかも、なるべく分かりやすく伝わるのが見出し作りの生命である。前にも触れたように、「記事の中の字句をそのまま使い、客観的なポイントだけを、主観を交えずに的確に抽出して伝える『客観見出し』が多用される。(共同通信社　2012 :10)」。従って、それは単なる歌い文句や抽象的な美辞麗句ではなく、できるだけ具体的に表現できるよう磨き上げた散文としての短文・表現に仕上げなければならないことになる。記事内容の重点を取り間違えて見出しにすることは言うまでもなく、短い字句のために表現が

紛らわしくなり、新聞の読み手に誤解をもたらせるようなことがあっては、新聞見出しとして失格になる。

4.5　暗示性

マスメディア多重の時代で、情報化の推進と人々の生活リズムの加速化に伴って、見出しだけを読む読み手が数多く増えている。見出しには、読み手に先入主を形作らせる暗示力があり、記事本文を読んだ読み手ですら見出しに釣られて判断してしまう度合いも強い。見出しの暗示性とその影響は、目に見えないことが多いだけに、その大きさははかり知ることができないので、読み手は、新聞見出しの重要さと恐ろしさに注意したほうがいいだろう。

4.6　速報性

新聞は、英語で言うと「newspaper」なので、その英語の名前から分かる通り、ニュースを伝える媒体である。そのため、何よりも速報性が重視されている。日本の新聞は基本的に朝夕の一日に２回しか発行されない。更新しようと思えばいつでもできるインターネットや臨時ニュースを組もうと思えばいつでもできるテレビと比べると、速報性の点では負けているが、記者による取材を通して得た情報のうち、報道に値するものを、どこのメディアよりも早く伝えることが速報の意味である。見出しは新聞の欠かせない重要な一部分として、そういう速報性を持っている。

4.7　予告性・予測性

前述したように、新聞見出しは、記事内容を簡潔かつ的確にまとめるものなので、見出しだけを見ても、記事内容のおよそを知るはずだ。そういう意味では、新聞見出しは、記事本文に対して、予告性・予測性がある。また、自然現象の場合（天気予報などのような未来のことについての予測なども予告性・予測性がある）は、ほとんど過去のことだから別として、人間の意志に関わる場合は未来のことが多い。本稿の第四章の第一節で分析する格助詞「へ」で終わる新聞見出しはその典型例である。そして、ニュースの「その後」を様々な角度から予測できる。新聞見出しは、出来事の「その後」を考える手がかりにもなる。

ただ、すべての新聞見出しは、以上の７つの機能・役割を揃えるのではなく、記事タイプ・記事内容によって、それぞれ違っている。

5.　まとめ

本章では、新聞見出しの構成と機能・役割について検討した。新聞見出しの役割と効用性は、まとめて言うと、(1)選択性、(2)誘引性、(3)代行性、(4)要約性、(5)暗示性、(6)速報性、(7)予告性・予測性、の７つである。

第三章　新聞見出しにみられる表現形式

1.　はじめに

本稿の最初に述べたように、高度な情報化の進展につれて、われわれは職場や家にいながらにして世界のことを知ることができる。情報化の進展と人々の生活リズムの加速化に伴って、今の世界は「見出しを読む時代」に入っている。新聞見出しは、少ない字数という制約の中で伝達力の高い文が求められ、通常の文と違う表現形式が多く見られる。本章では『読売新聞』のデータベースを利用して、『読売新聞』(読売新聞社　東京　朝刊のみ)の 2014 年一年分の一面の主見出しを取り出し、考察対象とし、実例の分析を通して、見出しの表現形式を究明する。

2.　先行研究

見出しの表現形式に関する先行研究として、朱(1992)、田中(1998)と水内(2002b)等があげられる。

朱(1992)は、朝日新聞の朝刊 1987 年 1 月の総合面、国際面、経済面、スポーツ面、社会面に載った主見出し 2386 本について、文字の種類や大きさ、主見出しの止め方などについて分析し、名詞止めが 1712 本で 7 割以上を占めること、助詞止めは 293 本で 1 割強であり、「に」「へ」「も」「を」「か」の順であることを指摘している。

田中(1998)は、田中(1997)[13]の調査結果を掲載した上で、「名詞で終わるもの」、「名詞＋ヲを除く格助詞」、「動詞で終わるもの」、この三つが新聞見出しの基本的な形態だと考えられると指摘し、さらに、名詞で終わる見出しにおいても「動作性名詞」や「名詞＋「名詞＋ヲを除く格助詞」も「動詞で終わるもの」と同様、ある事象を表現しているとし、新聞見出しの特徴として名詞止めはもちろん動詞止めにおいてもテンスとアスペクトを明示せず、モダリティ形式の欠如したものが普通であると指摘している。

水内(2002b)の第三章「見出しに見られる表現形式」では、読売新聞西部本社発行 12 版(朝刊のみの総合版、宮崎地区向け)の 2000 年 4 月 1 日～7 日の 7 日分の主見出し 1037 本を取り上げ、その止め方を分類した上で、「述語にみる文構造の分析」と「主語にみる文構造の分析」の二節に分け、述語と主語が存在するかどうかの視点から、対象の主見出し 1037 本を検証している。検証した結果、「述語にみる文構造の分析」では、述語の整わな

い見出しは、24 本(名詞止め 20 本、記号止め 4 本)だけであり、「主語にみる文構造」では、完全に主語が欠けた推測もつかない見出しは 12 本だけという結論を得た。

本稿では、以上の先行研究に踏まえ、読売新聞のデータベースを利用して、見出しの表現形式を究明する。

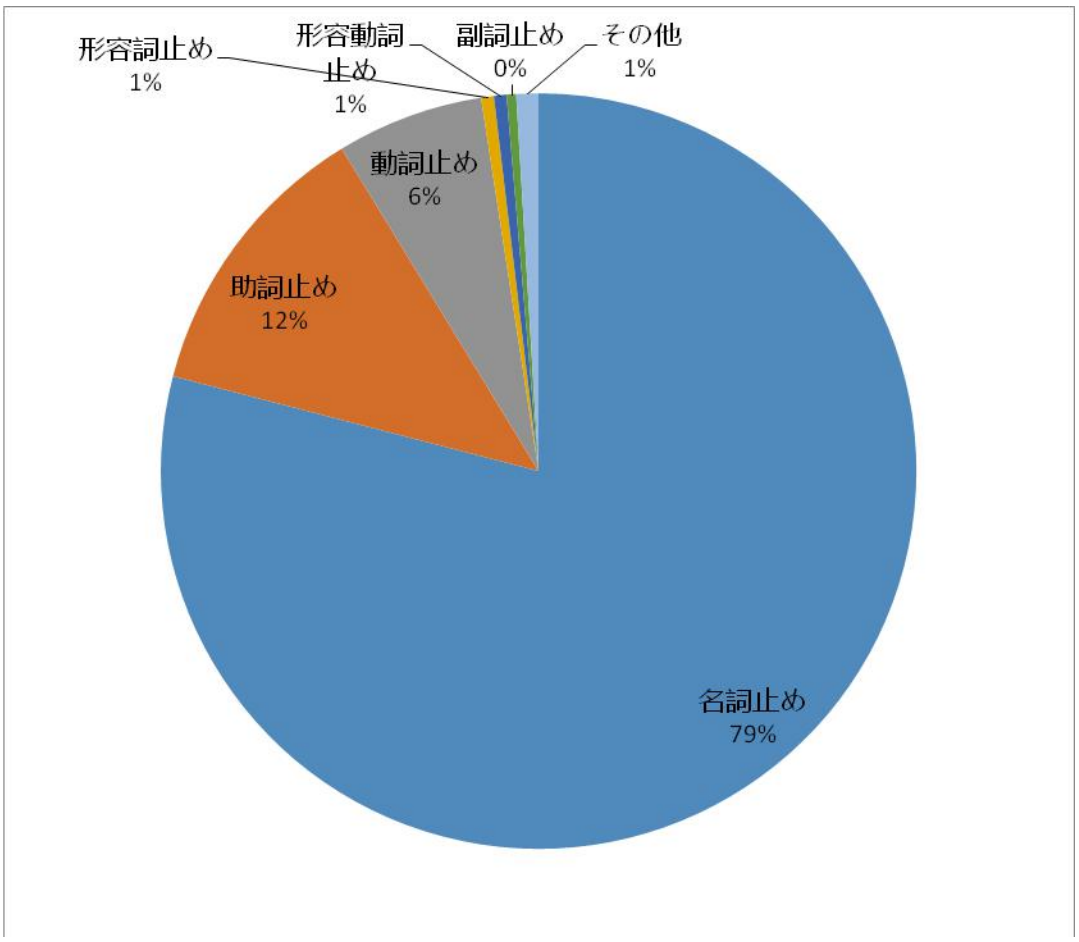
3. 新聞見出しの止め方

表現形式の中で、「止め方」を特に一つの節として立てて、取り上げるのは、主見出しの止め方に通常の文とは異なった特徴が観察されるからである。本稿では先行研究を踏まえ、収集した 2014 年一年分の一面の総本数 1479[14]の主見出しについて、文末に注目して見出し文の止め方について、名詞止め、助詞止め、動詞止め、形容詞止め、形容動詞止め、副詞止めとその他 7 つに分類してみた。考察結果としては次の表 3-1 ・図 3-1 になる。

表 3-1　新聞見出しの止め方

分類	「 」内でない	「 」内	合計
名詞止め	1089	80	1169
助詞止め	174	7	181
動詞止め	77	16	93
形容詞止め	4	4	8
形容動詞止め	5	3	8
副詞止め	6	0	6
その他	14	0	14
合計	1369	110	1479

図 3-1　新聞見出しの止め方



上記の結果からも分かるように、総本数 1479 のうち、名詞止め(「」内＋「」内でない)が 1169 本であり、見出し総数の約 8 割を占める。この名詞止めの多さが日本語の新聞見出しの大きな特徴の一つといえるだろう。また、助詞止めは 181 本で、12%を占める。そして動詞止めは 93 本で、6%を占める。この三つの止め方で総数の約 97%を占めている。残りの約 3%は形容詞止め(8 本)、形容動詞止め(8 本)、副詞止め(6 本)とその他(14 本)である。

使用した資料はそれぞれ違うが、名詞止め、助詞止め、動詞止め、この三つの止め方で総本数の 9 割以上を占めることが朱(1992)と田中(1998)と一致した。

引き続き、タイプごとに例を挙げながら見ていくことにする。

3.1　名詞止め

まず、一番多く割合を占めている名詞止めについて見ていく。少しばかり例を挙げておく。

(1) 正力賞に秋山前監督　(東京朝刊・ 2014.11.06)
(2) 日中　関係改善へ一歩　(東京朝刊・ 2014.11.11)
(3) 岡田氏が出馬表明　(東京朝刊・ 2014.12.26)
(4) 学校襲撃　141 人死亡　(東京朝刊・ 2014.12.17)
(5) 野党　緊急法案には協力　(東京朝刊・ 2014.11.13)
(6) 法人税　2 年で 3.3%下げ　(東京朝刊・ 2014.12.29)

名詞止めは、上に挙げた例のような名詞で見出しを止めるものである。その名詞の中に、例(1)(2)「前監督」「一歩」のような名詞もあれば、例(3)(4)(5)「表明」「死亡」「協力」などのようなサ変動詞の語幹もある。そして、例(6)「下げ」のような和語の動詞の連用形のものもある。

仁田(1997)では名詞・名詞文について次のように述べている。

> 従来の日本語文法の研究にあっては、動詞や動詞文の分析・記述に比して、名詞や名詞文の分析・記述が立ち遅れている。このことは、文法研究書を開いてみれば明らかであろう。動詞に割かれている頁数に比べて、名詞に割かれている頁数は、かなり少ない。これは、これで、既に述べてきた研究進展の在り方からして、故あることであり、また、動詞の果たしている文法的役割の重要性から見て、日本語の文法組織の解明化にとって、意味のあることでもある。日本語の名詞は、動詞に比して、見やすい形で現われる下位的タイプ化や、文法的意味が顕在的な表示形式の支えを受けている、といった場合が多くない。しかし、このことは、日本語の名詞への文法分析・文法記述が困難でありあまり重要でない、といった感を抱かせはするものの、名詞への分析・記述が不必要である、といったことを意味はしない。分析・記述が不必要でないだけではなく、日本語文法の解明・研究全体に対する底上げのためには、研究の立

ち遅れていた名詞への分析・記述を推進させることが、重要な要件になってくる。名詞への分析・記述が進むことで、新しい分析の視点が生まれてきたり(新しい視点が分析を可能にする、といった逆の関係も、当然存在する)、今まで手つかずであった現象への解明化の途が開けてくる、といったことが起こってこよう。

仁田(1997：47)

以上のように、仁田(1997)では、従来の日本語文法の研究にあっては、動詞や動詞文の分析・記述に比べて、名詞や名詞文の分析・記述が立ち遅れていると指摘し、名詞・名詞文への分析・記述性の必要性と重要性も強調している。

ここでは、仁田(1997)の論点に基づいて、見出し文の一番多く割合を占めている名詞止めの見出しに注目し、見出し文を止める名詞について次のような下位分類をしてみる。

【1】モノ名詞：モノ名詞の中には人名詞と物名詞を含ませる。

①人名詞：新聞記事における出来事の人を表わす名詞。

(7)ガニ氏　アフガン大統領　(東京朝刊・ 2014.09.22)

(8)消費税 10%　揺れる首相　(東京朝刊・ 2014.09.06)

(9)沖縄知事に翁長氏　(東京朝刊・ 2014.11.17)

の下線部の名詞が、人名詞の例である。

②物名詞：新聞記事における出来事の物を表わす名詞、具体的な物も抽象的な物も含まれる。

(10)遺志継ぐ校舎　(東京朝刊・ 2014.05.01)

(11)東京五輪と日本の未来　(東京朝刊・ 2014.03.20)

(12)定員外保育で裏金　(東京朝刊・ 2014.08.14)

の下線部の名詞が、物名詞の例である。

【2】時名詞[15]：新聞記事における出来事の時間を表わす名詞。

(13)内閣改造　来月 3 日　(東京朝刊・ 2014.08.17)

(14)集団自衛権　閣議決定は来月　(東京朝刊・ 2014.05.09)

(15)衆院選　来月 14 日　(東京朝刊・ 2014.11.15)

の下線部の名詞が、時名詞の例である。

【3】場所名詞[16]：新聞記事における出来事の場所を表す名詞。

(16)惑星　誕生の現場　（東京朝刊・ 2014.11.07）

(17)噴火 1 か月　祈りの御嶽　（東京朝刊・ 2014.10.28）

の下線部の名詞が、場所名詞の例である。

【4】動作性名詞：新聞記事における出来事の行為を表し、「～スル」という形にできる名詞。

(18)開腹手術でも 10 人死亡　（東京朝刊・ 2014.12.22）

(19)腹腔鏡　死亡検証せず継続　（東京朝刊・ 2014.12.18）

(20)中小企業　来年度見送り　（東京朝刊・ 2014.10.05）

の下線部の名詞が、動作性名詞の例である。

【5】状態名詞：新聞記事における出来事行為の結果や状態を表し、「～ハ～ダ／ニナル」の形で捉えられる名詞。

(21)高梨 17 勝　日本人最多　（東京朝刊・ 2014.01.20）

(22)「正恩氏映画」満員　（東京朝刊・ 2014.12.26）

(23)御嶽山噴火　重傷多数　（東京朝刊・ 2014.09.28）

の下線部の名詞が、状態名詞の例である。

【6】形式名詞：それ自身では実質的意味を表さず、ある実質的を持つ品詞を受けて名詞としての機能を果たす名詞。

(24)「8 人に 1 人」75 歳以上　（東京朝刊・ 2014.09.15）

の下線部の名詞が、形式名詞の例である。

【7】自然現象名詞：新聞記事における出来事の自然現象を表す名詞。

(25)巨大台風　命奪う雨・風・波　（東京朝刊・ 2014.03.14）

(26)近畿・北陸など豪雨　（東京朝刊・ 2014.08.18）

(27)台風　広範囲で大雨　（東京朝刊・ 2014.07.11）

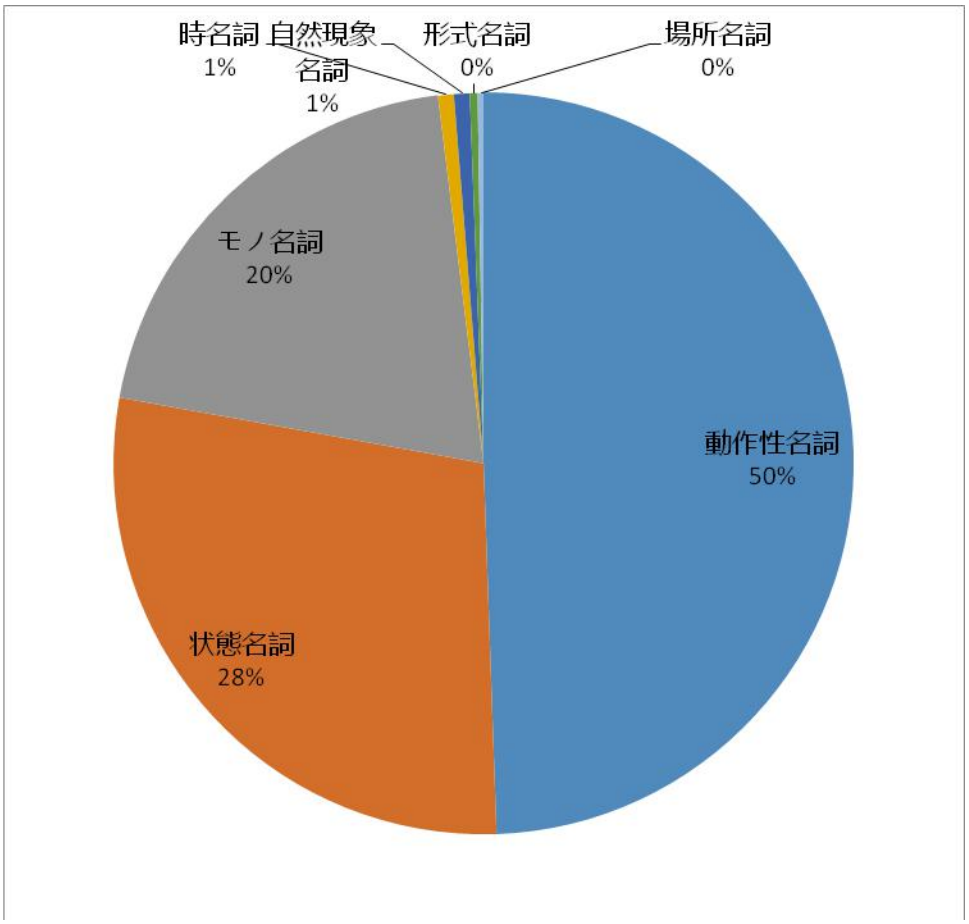
の下線部の名詞が、自然現象を表す名詞の例である。

以上の分類によって、考察結果は次のようになる。

表 3-2　新聞見出しを止める名詞の下位類

分類		本数
動作性名詞		578
状態名詞		332
モノ名詞	物名詞	212
	人名詞	24
時名詞		8
自然現象名詞		8
形式名詞		4
場所名詞		3
合計		1169

図 3-2　新聞見出しを止める名詞の下位類



上記の結果を見て、分かるように、名詞の中で動作性名詞が 581 で約 5 割を占め、次は状態名詞、332 で約 3 割を占め、モノ名詞は 236 で 2 割を占める。この三つ種類の名詞で総数の 98%を占めている。残りの時間名詞(3 本)、自然現象名詞(8 本)、形式名詞(4 本)、場所名詞(3 本)などは、合わせてわずか 2%しか占めていない。

動作性名詞と状態名詞は通常の文では述語になりうる名詞である。その二つの種類の名詞あわせて約 8 割を占めている。

3.2　助詞止め

次に、助詞止めの見出しを取り上げておく。

助詞止めとは助詞で見出しを止めるものである。その助詞の中に「へ」「に」などのような格助詞もあれば、「か」のような助詞もあれば、「のみ」「にも」「とは」などのような取り立て助詞や複合助詞もある。 そして、見出しには「」が多く用いられるが、助詞によって「」内に現れやすいか否かにも違いがあるので、それぞれの数を示す。

表 3-1 の 181 本の助詞止めについて詳しく分けると表 3-3 ・図 3-3 のようになる。

表 3-3　助詞止めの内訳

助詞	「　」でない	「　」内	計
へ	92	0	92
に	44	5	49
か	7	0	7
で	6	0	6
を	4	2	6
も	6	0	6
にも	5	0	5
から	4	0	4
でも	2	0	2
のみ	1	0	1

は	1	0	1
と	1	0	1
とは	1	0	1
計	174	7	181

図 3-3　助詞止めの内訳

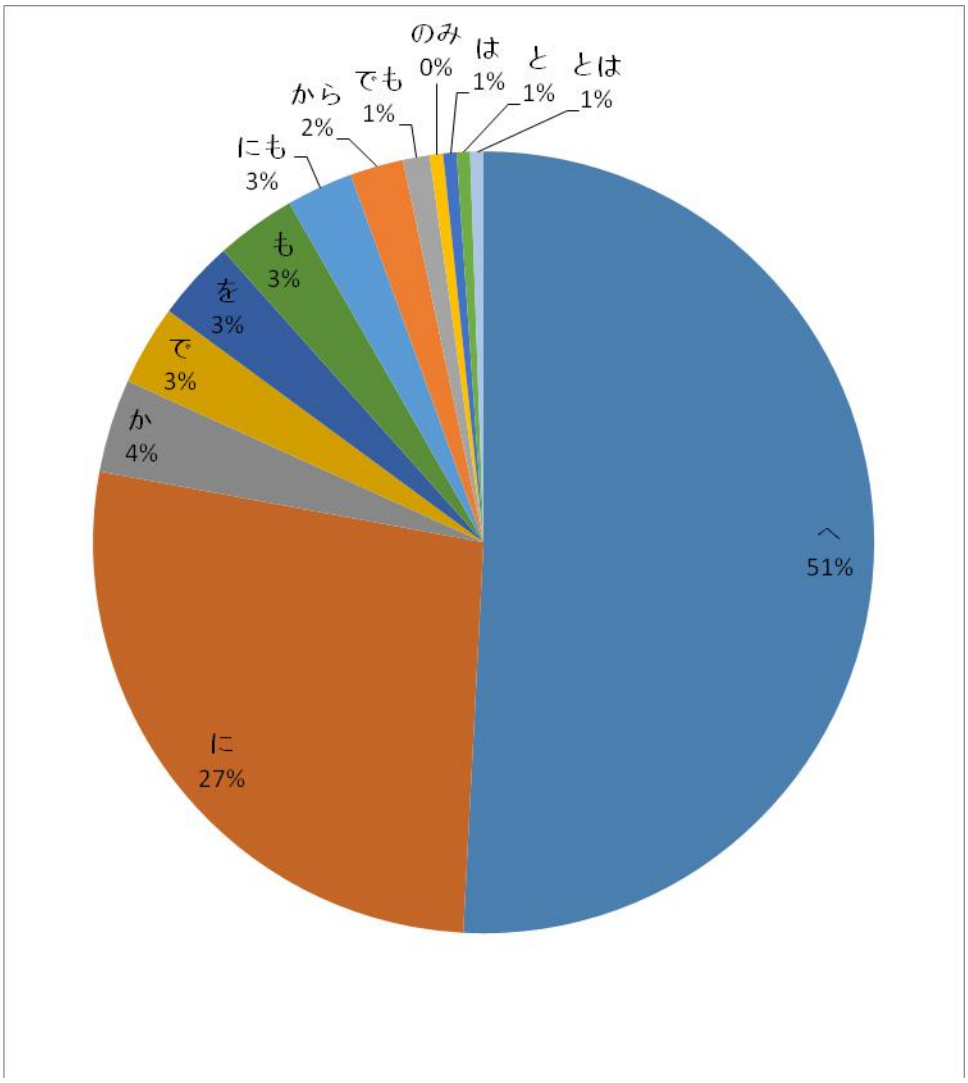


表 3-3 ・図 3-3 から見ると分かるように、助詞止めの見出しの 181 本の内、「へ」で止める見出しは 92 本で、約 50%を占めている。「に」で止める見出しは 49 本で、約 3 割を占めている。これは朱(1992)の結果とずれているが、「へ」、「に」で終わる見出しの数

が上位の2位という点は同じである。以上の結果で分かるように「へ」と「に」で終わる見出しはあわせて、助詞止めの見出しの約8割を占めている。その多さが見出しの特徴だと言えるだろう。

次に、具体的な例をそれぞれ挙げておく。

(1) a エボラ熱　4000万ドル支援へ　(東京朝刊・2014.09.26)
　b エジプト改正憲法案　承認へ　(東京朝刊・2014.01.17)
(2) a ユーロ圏利下げ0．05%に　(東京朝刊・2014.09.05)
　b 川内原発「合格」　16日に　(東京朝刊・2014.07.08)
(3) a 東京海上未払い12万件か　(東京朝刊・2014.02.06)
　b 日朝政府　拉致協議か　(東京朝刊・2014.03.04)
(4) a 認知症国家戦略　全省庁で　(東京朝刊・2014.11.07)
　b 混合診療　患者の合意で　(東京朝刊・2014.05.29)
(5) a バランスよく議論を　(東京朝刊・2014.01.15)
　b 安保　現実踏まえ議論を　(東京朝刊・2014.12.04)
(6) a 低所得者給付　来年度も　(東京朝刊・2014.12.11)
　b 台風きょう九州上陸も　(東京朝刊・2014.10.13)
(7) a 新大学入試　20年にも　(東京朝刊・2014.12.23)
　b 川内再稼働　年明けにも　(東京朝刊・2014.11.08)
(8) a 年金抑制　来年度から　(東京朝刊・2014.12.27)
　b 地域再生策　地元から　(東京朝刊・2014.09.11)
(9) a デング熱感染　新宿でも　(東京朝刊・2014.09.06)
　b 体外受精　事実婚でも　(東京朝刊・2014.01.06)
(10) 仮設用地確保16道県のみ　(東京朝刊・2014.01.11)
(11) 単一争点　熱狂の後は　(東京朝刊・2014.01.25)
(12) 郵政上場　傘下2社と　(東京朝刊・2014.12.24)
(13) 真に国民を守るとは　(東京朝刊・2014.07.02)

上の(1)～(13)の用例は、それぞれ「へ」、「に」、「か」、「で」、「を」、「も」、「にも」、「から」、「でも」、「のみ」、「は」、「と」、「とは」で止める新聞見出しの用例である。

本稿では、数の多い「へ」止め、「に」止め、そして、少し特徴の違う「を」止めについて具体的に考察した。それぞれの特徴は、次のようになる。

「へ」で終わる見出しは、「動作性名詞+へ」という見出しは圧倒的に多い。そして、「動作性名詞+へ」という見出しは、「～に／へ向けて事態が進む」「～に／へ向けて事態を進める」のように意味解釈ができる。つまり、「動作性名詞＋へ」の場合は「へ」のはたらきによりテンス的に未来を読み取らせ、予定を表すことになる。

また、「に」で終わる新聞見出しでは、「に」の意味役割はその前に現れる語に深く関わっている。見出しで使われ方としては、「に」の中心的な使い方である変化の結果を表すものがほとんどである。人間の意志の場合は「未定」のことが多い。それに対して、自然現象の場合は「既定」のことがほとんどである。自然現象か、人間の意志にかかわるか、によって、「既定」か「未定」かに分かれる。

それに対して、「を」で終わる新聞見出しは、客観的な情報伝達ではなく、提言を表すのがほとんどである。その見出しのヲ格はほとんど動作性名詞であり、見出しは、その動作性名詞の表している動作と動作を求めていることとの二つの部分から意味的には成り立っている。その二つの部分からなっている二重構造の中の部分が見出しとして現れる。提言されている内容の動作主体は特定されなく、個人的ではなく、政府や団体、公的機関などがほとんどである。そして、見出しに現れていない提言者は提言できるなんらかの資格を持った存在である。

このことについては、第四章で詳しく分析を行う。

3.3　動詞止め

次に動詞止めについて見ていく。

動詞止めは、動詞で見出しを止めるものである。動詞止めの中には動詞の終止形で終わるものあれば、動詞の連用形、否定形、命令形などのものもあれば、そして、書き括弧の中で、引用のような形のものも含まれている。

以下、動詞止めの見出しの例をすこしばかり挙げておく。

(1) 仮設入居始まる　(東京朝刊・ 2014.12.30)

(2) 「翠玉白菜」　海越えて　(東京朝刊・ 2014.06.24)

(3) 原発に「熱狂」なじまぬ　(東京朝刊・ 2014.02.10)

(4) ＳＴＡＰ再現できず　(東京朝刊・ 2014.08.28)

(5) 真夏の五輪　東京冷やせ　(東京朝刊・ 2014.08.05)

(6) 錦織「悔しさ忘れない」　(東京朝刊・ 2014.09.10)

動詞止めの場合は、文の中核である述語が存在しているので、普通の文に近いので、見出しで表している事態を推測・理解するのはさほど難しくないだろう。ただ、見出しを止める動詞はテンスとアスペクトなどを表さないのがほとんどである。このことについて、あとでもう少し説明していく。

3.4　形容詞止め

引き続き、形容詞止めについて触れておく。

形容詞止めは、形容詞で見出しを止めるものである。その中には形容詞の基本形で終わるものもあれば、形容詞の連用形で終わるものもある。そして、書き括弧の中で、引用のような形のものも含まれている。

以下、形容詞止めの見出しの例をすこしばかり挙げておく。

(1) 月の中心　今も熱い　(東京朝刊・ 2014.07.29)

(2) 健康寿命　1年長く　(東京朝刊・ 2014.07.11)

(3) 「健康」企業　負担少なく　(東京朝刊・ 2014.05.18)

(4) 予防接種歴　確認しやすく　(東京朝刊・ 2014.05.12)

(5) 「ＳＴＡＰ　証拠ない」　(東京朝刊・ 2014.06.17)

(6) 田中「粘って貢献、うれしい」　(東京朝刊・ 2014.04.06)

形容詞止めの場合は、(5)(6)のような引用内以外、(1)のように基本形で終わる見出しは稀である。(2)(3)(4)のように形容詞の連用形「ク形」で終わるのがほとんどである。

3.5　形容動詞止め

引き続き、形容動詞止めについて見ておく。

形容動詞止めは、形容動詞で見出しを止めるものである。その中には書き括弧の中に現れるものも含まれている。

少しばかり例を挙げておく。

(1) ＳＴＡＰ存在「有力」　(東京朝刊・ 2014.04.17)

(2) ＳＴＡＰはＥＳ細胞　濃厚　(東京朝刊・ 2014.12.26)

(3) エネ政策　バランス大事　(東京朝刊・ 2014.11.29)

(4) 「過去の調査　不十分」　(東京朝刊・ 2014.11.01)

(5) 「研究不正　明らか」　(東京朝刊・ 2014.05.09)

形容動詞止めの場合は、見出しを止める形容動詞は語幹のみであるのがほとんどである。それは述語に相当するので、ほとんど「だ」をつけるだけで、十分意味解釈ができるだろう。

3.6　副詞止め

次に、副詞止めについて触れておく。

副詞止めは、副詞で見出しを止めるものである。

すこしばかり例を挙げておく。

(1) 都心ぽかぽか　(東京朝刊・ 2014.03.13)

(2) ＯＮら名選手ズラリ　(東京朝刊・ 2014.11.27)

(3) 長嶋ＶＳ金田　再び　(東京朝刊・ 2014.07.05)

(4) ソチ感動再び　(東京朝刊・ 2014.03.07)

(5) 有名私大　値上げ続々　(東京朝刊・ 2014.01.22)

副詞止めの場合は、述語に相当するものは何らかの形で存在している。たとえば、例(3)

の「ＶＳ」は「対」や「対戦」のように読み取れるし、例(4)と例(5)の「感動」と「値上げ」はそれぞれ述語の働きをしているものである。また、(1)と(2)の「ぽかぽか」と「ズラリ」のような状態を表すものである場合は、容易に意味解釈ができるだろう。

3.7　その他

以上のような分類に含まれていないものは「その他」に入れておく。

次に少しばかり例を挙げておく。

(1) 来月まで待ってね　(東京朝刊・ 2014.11.20)

(2) 長期政権　考えるな　(東京朝刊・ 2014.09.04)

(3) 内村V5　(東京朝刊・ 2014.10.10)

(4) 駅前で１票OK　(東京朝刊・ 2014.05.25)

例(1)と例(2)はそれぞれ「待って」と「考える」という動詞が見出しの後ろに来ているが、「ね」「な」などといったモダリティ表現が入っているので、動詞止めからはずした。また、例(3)の見出しを止める「V5」という表現は「5回連続優勝」のように読み取れるので、意味的には動作性名詞に値するが、表現形式が違うので、名詞止めからはずした。同じように、例(4)の見出しの最後に来る「OK」という表現は、意味的には状態名詞に相当するが、表現形式としては名詞ではないので、「その他」に入れておいた。

4.　臨時一語の多用

私たちの言語生活の中では、通常の意味での単語のほかに、臨時に、その場限りでの一単語というものが生じている。特に新聞記事の中には、それが多く見られる。これを臨時一語と称する(林1997：268)。実は、新聞記事の中だけではなく、新聞見出しにも、臨時一語が多く使用されている。仁田(1997：204)では臨時一語について、「通常、語は、基本的・一次的な語であればあるほど、語彙といった倉庫の中に予め材料として保存・所有されており、それを、文構成の場において、倉庫から取り出してきて、文構成の材料・要素として使用するのであるが、つまり、出来合い的であるとか規格品的であるとかいったことが、語の重要な一つの特徴であるのだが、いわゆる臨時一語と呼ばれるものは、出来合

い的・規格品的ではなく、文構成の現場で組み立てられ一語化された、といった、臨時性・一時性・現場性を帯びながら、文構成の材料・要素たる語として機能しているものである。」と述べている。そして、仁田(1997)は臨時一語の構造について、臨時一語には、漢語の組み合わせによってなったものが圧倒的に多く、他の語種を含む臨時一語もあると指摘している。

以下、仁田(1997)の観点を援用し、漢語の組み合わせによってなった臨時一語と他の語種を含む臨時一語の例をすこしばかり挙げておく。

(1)日韓局長協議　開催へ　(東京朝刊・ 2014.03.27)
(2)成長重視　1380 億円減税　(東京朝刊・ 2014.12.31)
(3)自衛隊出動　規定見直し　(東京朝刊・ 2014.12.30)
(4)確定拠出年金　対象拡大　(東京朝刊・ 2014.12.28)
(5)岡田氏が出馬表明　(東京朝刊・ 2014.12.26)
(6)4 号機核燃料　取り出し完了　(東京朝刊・ 2014.12.21)
(7)年金運用　国内株に 25%　(東京朝刊・ 2014.11.01)
(8)交通事故訴訟　10 年で 5 倍　(東京朝刊・ 2014.10.25)
(9)難民申請急増　就労目的か　(東京朝刊・ 2014.10.18)
(10)大飯原発　再稼働差し止め　(東京朝刊・ 2014.05.22)
(11)商船三井船舶差し押さえ　(東京朝刊・ 2014.04.21)
(12)コメ　関税ゼロ回避へ　(東京朝刊・ 2014.04.17)
(13)憲法解釈見直し意欲　(東京朝刊・ 2014.03.21)
(14)露、クリミア掌握強化　(東京朝刊・ 2014.03.03)
(15)ウクライナ連立政府発足　(東京朝刊・ 2014.02.28)
(16)歩行者狙い車突入　(東京朝刊・ 2014.02.24)
(17)ＯＰＥＣ減産見送り　(東京朝刊・ 2014.11.28)

4.1　漢語の組み合わせによってなった臨時一語

先に述べたように、仁田(1997)は、漢語の組み合わせによってなったものが圧倒的に多いと指摘している。以上の用例から漢語の組み合わせによってなった臨時一語をぬきだす

と、次のようになる。

例(1)の「日韓局長協議」、例(2)の「成長重視」、「1380 億円減税」、例(3)の「自衛隊出動」、例(4)の「確定拠出年金」、「対象拡大」、例(5)の「出馬表明」、例(6)の「4 号機核燃料」、例(7)の「年金運用」、例(8)の「交通事故訴訟」、例(9)の「難民申請急増」、「就労目的」は、漢語の組み合わせによってなった臨時一語である。

4.2　他の語種を含む臨時一語

次に、他の語種を含む臨時一語を見ておく。

例(3)の「規定見直し」、例(6)の「取り出し完了」、例(10)の「再稼働差し止め」、例(11)の「商船三井船舶差し押さえ」、例(16)の「歩行者狙い車突入」などは、漢語の中に和語を含むものである。

また、例(12)の「関税ゼロ回避」、例(14)の「クリミア掌握強化」、例(15)の「ウクライナ連立政府発足」などは、外来語と漢語を含む臨時一語である。

さらに、例(17)の「ＯＰＥＣ減産見送り」のような、ローマ字による頭文字略語を含むものもある。

以上のような臨時一語の語構造は、さらに詳しく分析する必要があるが、ここでは、詳しく分析する目的ではないので、詳細は割愛する。

5.　テンスとアスペクトの形式の不明示とその要因

先行研究にも指摘されているように、テンスとアスペクトの形式の不明示は新聞見出しの大きな特徴の一つである[17]。

次に、それについて触れておく。

5.1　テンスとアスペクトの形式の不明示

まず、いくつか例を挙げ、その見出しを記事本文と照らし合わせながら見ていく。

(1)a 海江田代表　辞任表明　(東京朝刊・ 2014. 12. 16)

［民主党の海江田代表は 15 日、党本部で記者会見し、衆院選での落選を受けた代表

辞任を正式に表明した。民主党は15日夜、緊急役員会を開き、代表選日程や実施方法を協議したが、結論は出なかった。16日の常任幹事会でも引き続き協議する。早ければ年内にも新代表を選出する方向だ。……][18]

b 不明機の残骸発見　（東京朝刊・ 2014.12.31）

［【ジャカルタ＝池田慶太】インドネシア捜索救助庁は30日、カリマンタン島南西沖の海上で、飛行機の機体の残骸を発見し、28日に消息を絶った同国スラバヤ発シンガポール行きのエアアジア機の一部と断定した。インドネシア海軍は周辺で、遺体3体を見つけて収容した。付近の海底に飛行機の機体とみられる影を確認しており、同庁は、エアアジア機がこの辺りで墜落し、海底に沈んだとみて確認作業を進める。……］

(2)a 海洋教育を充実　（東京朝刊・ 2014/08/13）

［政府は、小中高校で教える内容を定める学習指導要領で、領土・領海や海洋資源に対する国の主権などへの理解を深める「海洋教育」を充実させる方針を固めた。沖縄県の尖閣諸島などへの中国の海洋進出を踏まえ、海洋や離島に関する知識のほか海洋での実習などを各教科に盛り込み、体系的に知識を習得できるようにすることを目指す。……］

b 小保方氏あす会見　（東京朝刊・ 2014.04.08）

［ＳＴＡＰ(スタップ)細胞の論文が不正とされた問題で、理化学研究所の 小保方(おぼかた)晴子ユニットリーダー(30)は7日、大阪市内で9日午後に記者会見すると、代理人を通じて発表した。捏造(ねつぞう)や改ざんを認定 した理研調査委員会の最終報告書に対して8日に不服を申し立て、会見で一連の問題について説明する。小保方氏の会見は、1月末の論文発表後初めて。……］

(3)a 所有者不明の土地増加　（東京朝刊・ 2014/07/25）

［地方からの人口流出などに伴い、不動産登記上の所有者が変更されずに「所有者不明」となる土地が増えている。相続人が名義変更しなかったり、都会に出た所有者

が土地を放置し、周辺住民とのつながりも途切れたために誰の土地かわからなくなったりすることが原因だ。土地所有者がわからないため、災害復旧工事や公共事業を行う了解が得られず、事業が進まない問題が出ている。……]

b 豪軍受け入れ協定　検討　（東京朝刊・ 2014/07/05）

［日本とオーストラリア両政府が、自衛隊と豪州軍のそれぞれの国での活動を受け入れやすくする協定の締結を検討していることが 4 日、明らかになった。災害救援や共同訓練などの機会を増やす狙いがあり、「訪問部隊地位協定」（ＶＦＡ）を締結する案が有力だ。豪州を訪問する安倍首相は 8 日に日豪首脳会談を行い、協定締結に向けた協議開始を念頭に、両国の安全保障協力の強化を盛り込んだ共同文書を発表する。……]

例(1)ａとｂ、例(2)ａとｂ、例(3)ａとｂ、は、すべて動作性名詞で終わる見出しであり、それぞれの見出しを止める動作性名詞である「表明」、「発見」、「充実」、「会見」、「増加」、「検討」などが名詞の形で現れているが、実は動詞と同じような働きをしていることが分かる。しかし、名詞なので、テンスやアスペクトは明示不可能である。そして、前で考察した結果から分かるように、名詞止めが見出しの中で一番割合を占めている。記事本文と照らし合わせると分かるように、例(1)ａとｂは、過去の事象を表現している見出しであり、例(2)ａとｂは、未来の事象を表現している見出しであり、そして、例(3)ａとｂは、現在の事象を表している見出しである。このことについては第四章の第一節でもう少し詳しく説明する。

また、動詞で見出しを止める場合でもテンスやアスペクトの形式が現れにくい。次の例を見てみよう。

(4) a 仮設入居始まる　（東京朝刊・ 2014. 12. 30）

［最大震度 6 弱を観測した長野県北部地震で大きな被害を受けた白馬村に仮設住宅が完成、29 日から入居が始まった＝写真、佐々木紀明撮影＝。仮設住宅は、雪が自然と落ちる急傾斜の屋根で窓も二重の雪国仕様になっている。被災者はボランティアに

手伝ってもらい荷物を運び込んだ。寺川寿和さん(67)は「落ち着いて、これからのことを考えられます」と話していた。33 世帯 76 人が入居を予定している。……]

b 大型連休　花を渡る　(東京朝刊・ 2014.04.27)

[茨城県ひたちなか市の国営ひたち海浜公園で、北米原産の一年草ネモフィラが満開となり、園内の丘を青く染め上げている。ゴールデンウィーク初日の 26 日は、開園直後から大勢の家族連れらでにぎわった＝写真、中村光一撮影＝。

3.5 ヘクタールに 450 万本が群生し、直径 2〜3 センチの花を咲かせている。菜の花も咲き、青と黄色のコントラストも楽しめる。さいたま市から友人と訪れた中野和子さん(50)は「青いネモフィラが青空に溶けこむように見え、きれいですね」と話していた。5 月 6 日までのゴールデンウィーク中は見頃が続く。……]

c タイ軍、対話解決探る　(東京朝刊・ 2014.08.03)

[【バンコク＝永田和男】タイで 20 日未明に戒厳令を発令したプラユット陸軍司令官は同日午後の記者会見で、対立するタクシン元首相派と反政府派の双方を招いて、対話による解決を探っていく考えを表明した。……]

例(4)a と b と c、いずれも動詞の基本形で終わるものであるが、記事本文と照らし合わせると、(4a)の記事本文には「最大震度 6 弱を観測した長野県北部地震で大きな被害を受けた白馬村に仮設住宅が完成、29 日から入居が始まった」と書かれており、(4a)の見出しは過去の事象を表している。また、(4b)の記事本文には「茨城県ひたちなか市の国営ひたち海浜公園で、北米原産の一年草ネモフィラが満開となり、園内の丘を青く染め上げている。……5 月 6 日までのゴールデンウィーク中は見頃が続く」と書いてあるように、(4b)の見出しは現在の事象を表している。そして、例(4c)は「対話による解決を探っていく考えを表明した」と書かれているので、例(4c)の見出しは未来の事象を表している。このように過去の事象も現在の事象も未来の事象も動詞の基本形で表されているので、見出しに現れる動詞はテンスやアスペクトを表すものではないと考えられるだろう。

実は、今回の考察で分かるように、記事本文には和語動詞が使われていても、見出しにはそれと対応する漢語動詞の語幹やその和語動詞の連用形が現れるのが普通であり、そし

て、記事本文には漢語動詞が使われている場合は見出しには漢語動詞の語幹だけ使われているのがほとんどである。先ほど挙げた例(1)(2)(3)もこれに当てはまる。

そして、主見出しでは、主見出しの事態のテンスを表すために、「に」止め、「へ」止めの違いが利用されている。以下に、「に」止め、「へ」止めの例を少しばかり挙げておく。

まず、「に」止めの例を挙げておく。

(5)a 広島土砂災害　死者 66 人に　(東京朝刊・ 2014.08.27)

［広島市北部の豪雨に伴う土砂災害の死者は 6 人増え、26 日午後 7 時現在、66 人(うち 53 人の身元が判明)、行方不明者 21 人、重軽傷者 43 人となった。……］

b 御嶽　死者 56 人に　(東京朝刊・ 2014.10.12)

［御嶽山(おんたけさん)(3067 メートル、長野・岐阜県境)の噴火で、警察と消防、陸上自衛隊の合同救助隊は 11 日、山頂にある御嶽神社奥社近くの崖で 2 人を発見、うち 1 人の死亡を確認した。噴火から 11 日で 2 週間が過ぎ、死者は 56 人になった。接近中の台風 19 号の影響に加え、降雪期も迫る。長野県災害対策本部は「残された時間は少ない」と、11 日はこれまでで最多の 552 人を山頂付近の捜索に投入した。……］

(6)a ユーロ圏利下げ 0.05%に　(東京朝刊・ 2014.09.05)

［ベルリン＝五十棲忠史】欧州中央銀行(ＥＣＢ◎)は 4 日、フランクフルトで定例理事会を開き、ユーロ圏 18 か国に適用する政策金利を、これまでの 0.15%から、過去最低の 0.05%に引き下げることを決めた。10 日から適用する。利下げは 6 月以来、3 か月ぶりとなる。……］

b 外国人技能実習　計 8 年に

［政府は、人手不足が深刻な建設業で外国人労働者の受け入れを増やすため、2015

年度から外国人技能実習制度を拡大させる方針を固めた。実習生の在留期間について、現行の実習期間(最長3年)に加え、法相が指定する「特定活動」という資格で最長2年の在留延長を認め、建設現場で働けるようにするのが柱だ。いったん帰国後、再来日して技能向上を目指す外国人の在留も認め、実習制度に基づく在留期間を通算8年まで延ばせる仕組みとする方針だ。……]

例(5)aとb、例(6)aとbはすべて格助詞「に」で終わるものであるが、記事本文と照らし合わせると分かるように、例(5)aとbは過去の事象を表すものである。それに対して、例(6)aとbは未来の事象を表すものである。同じ格助詞「に」で止めるのに、どんな時に過去を表すか、どんな時に未来を表すか、そして、なぜ過去と未来を分けることができるのか、このことについては、第四章の第二節でもう少し詳しく説明する。

では、助詞止めの中一番多くの割合を占めている「へ」止めはどうであろう。
以下、その用例をいくつか挙げておく。

(8)a 福田氏、習主席と会談へ　(東京朝刊・2014.10.25)

[福田元首相が29日に北京で中国の習近平(シージンピン)国家主席と会談することがわかった。関係者が24日、明らかにした。……]

b 腹腔鏡死亡数調査へ　(東京朝刊・2014.11.21)

[群馬大病院(前橋市)で保険適用外で腹腔鏡(ふくくうきょう)を使う高難度の肝臓手術を受けた8人が死亡した問題を受け、肝臓手術の専門家でつくる日本肝胆膵(かんたんすい)外科学会は20日、手術実績の多い全国の医療機関を対象に、腹腔鏡手術の死亡数について実態調査することを決めた。全国的な実態を把握し、安全性を検証する。……]

c 混合診療　大幅拡大へ　(東京朝刊・2014.06.10)

[政府は9日、公的な医療保険を使うことが認められる医療と、認められない医療を併用する混合診療を受けやすくするため、「患者申出療養」(仮称)を来年度にも創

設する方針を固めた。混合診療について〈1〉患者の希望に応じ、幅広い分野の医療を受けられるようにする〈2〉受診できる病院数を全国的に増やす〈3〉申請から2〜6週間以内に受診可能にする―ことが柱。政府は今月決まる新成長戦略に盛り込み、来年の通常国会に関連法案を提出する。……]

d 江渡防衛相　交代へ　(東京朝刊・ 2014.12.24)

[安倍首相は24日に発足する第3次安倍内閣で、政治資金を巡る問題を抱える江渡防衛相を交代させる方針を固めた。後任には中谷元・元防衛長官(57)を充てる。江渡氏は、集団的自衛権の行使を限定容認する安全保障法制を担当する重要な閣僚だが、来年1月26日召集の通常国会で本格化する安保法制の審議への影響を考慮したとみられる。首相は江渡氏を除く閣僚を再任する考えだ。……]

e エボラ熱　4000万ドル支援へ　(東京朝刊・ 2014.09.26)

[【ニューヨーク＝芳村健次】安倍首相は25日午前(日本時間26日未明)、国連本部で開かれたエボラ出血熱に関するハイレベル会合に出席し、新たに4000万ドル相当の支援を行う方針を表明した。現在の為替レートでは44億円程度に当たる。……]

以上の用例をそれぞれ記事本文と照らし合わせると分かるように、「へ」で止める見出しが表している事象はいずれも、過去のことでもなく、現在のことでもなく、すべて未来のことである。見出しを止める格助詞「へ」は、事態の実現が未来であることを表すという点では、テンスを表す形式として働いている。また、事態が実現に向かって動き始め、進行していることを表すという点では、アスペクト的意味をも補う働きもあると言える。このことについては、第四章の第一節で詳しく分析する。

5.2　その要因

5.1で実例を挙げながら、テンスとアスペクトの形式の不明示について見てきた。以下に、その不明示の要因について検討する。

新聞の報道内容は、客観的に事実を、もっと言えば、起こったことを述べるというのが、新聞の基本的な前提としている。そういう前提があるから、逆に言うと、テンスについて、

明示しなくても、テンス形式を抜いても、基本的には大きな違いが生じない。未来のことでも、それは既に予定済みで、まだ行われていないが、既に決まっている。前にあげた「へ」で止める例を一つもう一回取り上げて見てみよう。

例(8a)福田氏、習主席と会談へ　(東京朝刊・ 2014.10.25)

［福田元首相が29日に北京で中国の習近平(シージンピン)国家主席と会談することがわかった。関係者が24日、明らかにした。……］

前に既に触れたように、本文と照らし合わせて分かるように、「福田元首相が29日に北京で中国の習近平(シージンピン)国家主席と会談することがわかった。関係者が24日、明らかにした。」つまり、会談はまだ行われていないが、「関係者が24日、明らかにした。」のように、会談することがもう既に決まっており、29日に会談するということになる。

以上のように、未来のことなのだが、既に決まっているということで、事態そのものが既にテンス性を持って、過去のことという形で、解釈されるし、未来のことでも、そのこと事態は予定の中に、既に入っているというのが普通である。

普通の文章の場合、テンス形式を入れないと、それはいつ起こるか分からない。その文の中に描かれた事態が真実なのか、正しいか、過去のことだったら、客観的に分かるが、未来のことなら、それはどうなるか分からなく、実現しないと分からない。しかし、先に述べたように、新聞の場合はテンス形式を抜いてもかまわない。当然、文字数の制限もするから、助詞や助動詞、形式的なものはなるべく抜きたいというのは分かるが、抜いても、誤解を与えるようなものだったら、文字数の制限があっても、入れるだろう。

新聞の表している事態は過去のことを報道するのが普通だが、通常でないことなら、なんらかの形でマークする。しるしをつけて分かるようにする。その点において、「へ」がすごく働いている。テンス形式を持っていないが、結局、テンスを分かるように「へ」が利用されている。

6.　モダリティの形式の欠如とその要因

モダリティの形式が現れにくいことが、新聞見出しのもう一つの大きな特徴だといえる[19]。ここでは、実例を挙げながら、モダリティの形式の欠如について検証する。そして、更に、その欠如の要因について究明する。

6.1　モダリティの形式の欠如

まず、新聞見出しのモダリティの形式の欠如について述べていく。以下、少しばかり例を挙げておく。

(1)ａ日朝協議は予定通り　（東京朝刊・ 2014.03.27）

ｂ子育て主婦は即戦力　（東京朝刊・ 2014.04.11）

ｃ北の拉致は国家政策　（東京朝刊・ 2014.02.18）

例(1)のａとｂとｃのような名詞止めの新聞見出しにおいて、「断定」を表すと考えられる「だ」は使われない。そして「ます」「です」や「よ」「ね」「だろう」などのようなモダリティ形式もほとんど現れない。

また、前に述べたように、形容詞止めの場合は、新聞見出しを止める形容詞は連用形の「ク形」が使われるのがほとんどである。[20]例えば、

(2) ａ「健康」企業　負担少なく　（東京朝刊・ 2014.05.18）

ｂ予防接種歴　確認しやすく　（東京朝刊・ 2014.05.12）

そして、前に触れたように、形容動詞止めの場合は、新聞見出しの末に来る形容動詞は「ダ」をつけずに、形容動詞の語幹のみであるのがほとんどである。例えば、

(3)ａ日本人７人　なお不明　（東京朝刊・ 2014.02.16）

ｂ３セク 395 法人　清算困難　（東京朝刊・ 2014.02.11）

6.2　その要因

6.1 で実例を挙げながら、モダリティの形式の欠如について見てきた。以下に、その欠如の要因について究明する。

新聞見出しにはモダリティが現れないというのは、その新聞見出しを普通の文に広げた

ら、モダリティ形式が現れる文なのに、モダリティ形式が省略されていることである。新聞というのは、「だろう」のような話し手の主観的な判断内容を報じない。日本の新聞は客観的に起こったことか、起こることか、確実であることを伝える新聞なので、本来的に判断のモダリティが現れない。判断のモダリティを持たない。

日本の新聞は客観報道なので、モダリティが表れとしても、「～スル見込み」とか、「～スル恐れ」とか、のような可能性を表す客観的なモダリティは存在するが、それ以外、話し手の主観的な判断、たとえば、いわゆる個人的な経験、個人的な見方で「これからは曇るだろう」といった表現が、新聞見出しに現れる可能性はないだろう。しかし、気象欄を書いた人間が、天気予報では、「あす曇る見込み」「あす曇る模様」とか、言えるだろう。そういう客観的なモダリティの形式は、既にいろんな専門知識や技術を利用して、確実性、あるいは、可能性が高いことについて述べたものであるからである。したがって、見出しに現れそうなモダリティものはかなり限定されている。出現が限定されている中で、終助詞「か」は出現するものの一つである。たとえば、

(1)エアアジア機　墜落か　(東京朝刊・ 2014. 12. 29)

［【ジャカルタ＝池田慶太】インドネシアのスラバヤからシンガポールに向かっていたエアアジア 8501 便(エアバスA320-200 型)が 28 日午前 6 時 17 分頃(日本時間同 8 時 17 分頃)、インドネシア沖で交信を絶ち、行方不明になった。同社によると、乗客 155 人、乗員 7 人の計 162 人が搭乗していた。直前に、悪天候のため高度変更を管制官に求めていた。インドネシア政府は、墜落事故の可能性が高いとみて現場海域を捜索している。……］

(2)日朝政府　拉致協議か　(東京朝刊・ 2014. 03. 04)

［【瀋陽＝仲川高志、蒔田一彦】日朝両政府は 3 日、中国・瀋陽市内のホテルで行われた日本赤十字社と北朝鮮の朝鮮赤十字会による日朝赤十字会談に合わせ、課長級による非公式の政府間協議を行った。協議は 2 時間弱行われ、北朝鮮による日本人拉致問題のほか、核、ミサイル問題などで幅広く意見交換したとみられる。日朝の政府当局者による協議は 2012 年 11 月以来、約 1 年 4 か月ぶり。今後も赤十字会談に合わせ、政府間の非公式協議が続けられる見通しだ。……］

(3)海自艦　危険回避行動か　（東京朝刊・ 2014.01.17）

［広島県の阿多田(あたた)島沖で海上自衛隊輸送艦「おおすみ」と釣り船「とびうお」が衝突、2 人が死亡した事故で、「おおすみ」が衝突の頃、針路を右側へ切っていたことが、搭載していた船舶自動識別装置(ＡＩＳ)の記録でわかった。同じ頃に急減速しており、「おおすみ」が危険を回避しようとした可能性がある。……］

記事本文と照らし合わせてみるとはっきり分かるように、例(1)(2)(3)の「か」はすべて、不確定の事態を表すものである。言い換えると、不確かな事態を表すときの見出しには「か」をつける。不確かなことに対しては、終助詞「か」はほぼ必須である。「か」を抜いてしまうと、確実になってしまうので、逆の意味を伝えてしまう。本文とずれてしまうだろう。

記述したように、テンス形式、過去、現在、未来、全部抜いてもかまわない。未来のことでも、「へ」を付けても付けなくてもいい。不確実に関しては、「か」をつけないと、確かになってしまうので、モダリティ形式の一つとして「か」が必須である。

要するに、テンスとアスペクトの不明示もモダリティの欠如も新聞の内容のタイプに深く関わっている。

7.　まとめ

本章では、先行研究を踏まえ、収集した 2014 年一年分の一面の総本数 1479 の主見出しについて、見出しの止め方、臨時一語の使用、テンスやアスペクト、そして、モダリティ、の四つの面から新聞見出しに現れる表現形式を検討した。止め方について名詞止め、助詞止め、動詞止め、形容詞止め、形容動詞止め、副詞止めとその他 7 つに分類してみた。そして、更にその中に一番多く占める名詞止めについて、見出しを止める名詞の下位分類を試みた。また、臨時一語の多用についても触れた。そして、記事本文と照らし合わせながら、テンスとアスペクトの不明示、モダリティの欠如についても検証した。それに、テンスとアスペクトの不明示、モダリティの欠如の要因についても究明した。

第四章　新聞見出しの構文的な特徴

第二章で触れたように、日本語の新聞は、基本的には客観報道であり、その事実を記述するのが新聞の機能である。しかし、新聞には、客観報道だけではなく、それと社説や、新聞社あるいは記者の立場、あるいは、その立場に基づく意見表明や提案などもある。つまり、日本語の新聞は、大きく事実報道型と主張型との二つのタイプに分けることができる。今回の考察では、それが見出しの助詞の止め方にも影響することが分かった。例えば、「へ」、「に」止めの見出しは、客観的な事実報道のタイプである。それに対して、「を」で止める見出しは、提言を表すタイプである。そして、第三章での調査結果は、助詞止めの中、上位から「へ」、「に」止めの順である。本章では、まず、第一節と第二節で、このような「へ」、「に」止めの見出しについて検討する。それから、第三節で、それと違うタイプの「を」止めの見出しについて分析する。助詞は、見出しの文末にだけではなく、見出しの文中にも大きな役割を果たしている。本章の最後の第四節では、述語に相当するものが現れない、名詞句と名詞句のみ組み合わせの見出しについて検討することにする。

第一節　「へ」で終わる新聞見出し

本節[21]では、今回の考察で、助詞止めの中に一番多い割合を占める「へ」止めの見出しについて検討する。

1.　はじめに

第三章で既述したように、新聞見出しは通常の文と違う表現形式が多く見られ、助詞止めは見出しの大きな特色と言える。本節では、今回考察した助詞止めの見出しの中で一番多い割合を占める「へ」で終わる見出しに注目し、見出しを止める「へ」の特徴を探ってみたい。

2.　先行研究とその問題点

新聞見出しにおける格助詞「へ」を扱う研究に関して、朱(1992)、野田(2006)と李(2008)があげられる。

朱(1992)は、朝日新聞の朝刊 1987 年 1 月の総合面、国際面、経済面、スポーツ面、社会面に載った本見出し 2386 本について、文字の種類や大きさ、主見出しの止め方などについて分析し、名詞止めが 1712 本で 7 割以上を占めること、助詞止めは 293 本で 1 割強であり、「に」「へ」「も」「を」「か」の順であることを指摘している。

野田(2006)では、見出し末における格助詞及びとりたて助詞の特徴が論じられている。その中で、見出し末の「へ」の特徴について、「へ」の前に来る語に注目し、場所名詞や動名詞が挙げられ、「する」が付加されるとサ変動詞として働く動名詞が最も多いと指摘しているが、「へ」の前に現れる語についての分類はまだ不十分だと思われる。筆者の今回の考察では、次のような見出しも見られる。

〇平和の尊さ　未来へ

〇鶴竜初Ｖ　横綱へ

この二つの見出しの「へ」の前に来る語である「未来」、「横綱」はいずれも場所名詞でもなく、動作性名詞でもない。

また、李(2008)はテンスの視点から、格助詞「へ」と「に」で終わる新聞記事の見出しを分析し、「予定」を表す場合には、見出しの文末に「へ」を使い、「既成」[22]を表す場

合には、見出しの文末に「に」を使う傾向があるという結論に達している。確かに、李が指摘したように「予定」を表す場合は格助詞「へ」を選択し、「既定」を表す場合には格助詞「に」を使う傾向がある。しかし、逆にいえば、「へ」が「予定」を表し、「に」が「既定」を表すというのは成り立ちにくい。「へ」で終わる見出しが「予定」を表すことや「に」で終わる見出しが「既定」を表すことは単純に言えないと思われる。

3. 新聞見出しにおける「へ」の使用状況

第三章の表 3-3 ・図 3-3 に示されているように、助詞止めの見出しの 181 本の内「へ」で止める見出しは 92 本で、約 50%を占めている。「に」で止める見出しは 49 本で、約 3 割を占めている。これは朱(1992)の結果とずれているが、「へ」と「に」で終わる見出しの数が上位の 2 位という点は同じである。以上の結果で分かるように「へ」と「に」で終わる見出しはあわせて、助詞止めの見出しの約 8 割を占めている。その多さが見出しの特徴だと言えるだろう。

見出しでない通常の文では、「へ」に比べて、「に」の使用率が遥かに高いと思われる。同期間内[23]の新聞記事の本文も含め、「へ」と「に」でキーワードとして調べたところ、「へ」の出現数は 33513 回で、「に」の出現数は 92679 回であった。「に」の使用率は「へ」の約 3 倍であった。しかし、今回の考察で「へ」で止める見出しは助詞で止める見出しの内、一番大きい割合を占め、「に」で終わる見出しの約 2 倍であった。見出しではない通常の文では、助詞「に」の使用が助詞「へ」の使用の 3 倍近くあるのに対して、逆に、見出しでは、助詞「へ」の使用が助詞「に」の使用の 2 倍近くあることは、注目してよい。これは、通常の文には見られない、「へ」助詞止め、および助詞「へ」が、見出しだからこそ持つようになった特徴を示している。このことは、また、見出しが持っている一の大きな特徴である。

4. 「へ」で止める見出し

この部分では、「へ」で止める見出しの特徴を明らかにするため、通常の文の格助詞「へ」の使い方と比較し、そして「動作性名詞＋へ」で止める見出しと動作性名詞だけで止める見出しと比較することにする。

4.1　通常の場合の「へ」の用法

ここでは、通常の場合の「へ」の用法について見てみよう。

通常の場合、「東京へ行く」「会社へ行く」などのように「へ」の前に名詞、後ろに述語が来るのが自然で、普通の文である。

国立国語研究所(1951)の格助詞「へ」の用法と意味について次のように述べている。

①動作・作用の向けられる方向・方角。(目標。)

○～、中共軍は華南の心臓部へひた押しに進撃を続けており、～(東,6.6,Ⅰ)

○～ダーツの折は、肩とウェストは中央側へ、脇は下に返します。(婦友，6，37)

○～，数絵は呼吸をつめて、窓の外へ近寄ってゆきました。(ひま，6，54)

②動作・作用の向けられる相手・対象。

○心当たりへ電話で訊いたが(映，6，12)

○～，ここにいられる男の方々(～)に日本女性への希望を聞く。(婦友，6，27)

○～，したがって，労働者の大量首切への犠牲転嫁の一環でなければならない。(エコ，5.11，10)

③動作・作用の帰着点。(「に」に比べて、どちらかといえば、帰着点に到達するまでの経過をより強く示す。)

○ディックは、マーガレットとスーザンと、彼女らの大伯父で大審院判事のサデュウス氏と、伯父のビーミッシュ博士を、ボロ自転車に乗せて、ピクニックの目的地へついた。(映，6，13)

○裁判所では山積する事件を裁き、家へ帰ればたった一人の妹の、十七歳の青春娘サービスの監督もしなければならない。(映，6，12)

[ところへ](接続詞の用法)

○ところへやってきたのが、睡眠術師の弟子です。(野少，5.6，Ⅰ)

[～から～へ]

○～、口から外へ声になって出たか、出なかったのかわからないほど、～(ひま，6，52)

○～、現在おかれている地位からそれへの距離とその道程とを、～(法，5，51)

○形の教育から質の教育へ(朝，5.6，Ⅰ)

国立国語研究所(1951：203－205)による

また、日本語記述文法研究会(2009)では格助詞「へ」については、次のように述べている。

「へ」は、述語が移動を表す動詞のとき、移動先を表す名詞について、移動の方向を表す。

○船が港へ向かう。

○子供が夏休みに山へ行く。

日本語記述文法研究会(2009：60)

以上で分かるように、通常の場合「へ」の基本的な使い方は方向を表す。たとえば、「東京へ行く」は「東京に行く」とも言えるが、「東京に行く」というのは移動を踏まえた着点になる。「東京に住む」のような方向性がないものが、「東京へ住む」といえないだろう。したがって、普通には「へ」や「に」は決してテンス的に未来性や予定性を意味していない。

4.2　見出し末の「へ」の使い方

以上は普通の場合の「へ」の使い方を分析した。では、見出し末の格助詞の「へ」の使い方はどうであろうか。

「へ」の前に来る語について考察し、次の表 4-1 のようになる。

表 4-1　「へ」の前に現れる語及び分類

「へ」前に現れる語の分類	「へ」前に現れる語の例	本数
場所名詞	南シナ海、厳戒の地、雨どい通り外	3
集まり・催しを表す名詞	サミット	2
時名詞	未来	1

人名詞	みなさま	1
組織・集団を表す名詞	巨人	1
地位・職名・肩書きを表す名詞	横綱	1
物名詞	ペン、メダル	2
動作性名詞	提出、整備、了承、追加、協議、告発、上場、合意、反撃、崩壊、承認、支援、検査、選挙など	81
合計		92

以上で分かるように、今回の考察結果としては、見出し末では、助詞「へ」の一般的な使い方である移動の方向を表すような＜場所名詞＋へ＞の用例は僅か3例であった。

見出しではない通常の文では、助詞「へ」の基本で中心的な使い方は＜場所名詞＋へ＞である。それに対して、見出しでは、＜場所名詞＋へ＞の用法は少なく、＜動作性名詞＋へ＞の例が、＜場所名詞＋へ＞に比べて圧倒的に多く現れた。＜場所名詞＋へ＞に対する＜動作性名詞＋へ＞の多さは、見出しの重要な特徴である。

ここで、見出しの例を具体的に上げておく。まず、少数である動作性名詞以外の例から見ておく。

＜場所名詞＋へ＞

(1) a 海自　災害訓練南シナ海へ　(東京朝刊・ 2014.05.28)

b 聖火　厳戒の地へ　(東京朝刊・ 2014.01.28)

c 汚染水　雨どい通り外へ　(東京朝刊・ 2014.02.21)

場所名詞以外の具体例も上げておく。

＜集まり・催しを表す名詞＋へ＞

(2) a 首相、来月核サミットへ　　(東京朝刊・ 2014.02.20)

b 首相きょう核サミットへ　(東京朝刊・ 2014.03.23)

＜時名詞＋へ＞

(3) 平和の尊さ　未来へ　（東京朝刊・ 2014.08.16）

＜人名詞＋へ＞

(4) 読者のみなさまへ　（東京朝刊・ 2014.03.17）

＜組織・集団を表す名詞＋へ＞

(5) キューバ公認　外野手　巨人へ　（東京朝刊・ 2014.04.19）

＜地位・職名・肩書きを表す名詞＋へ＞

(6) 鶴竜初Ｖ　横綱へ　（東京朝刊・ 2014.03.24）

＜物名詞＋へ＞

(7)a 社業　帽子からペンへ　（東京朝刊・ 2014.01.07）

　b 銀盤 3 人娘　メダルへ　（東京朝刊・ 2014.02.18）

以上で分かるように、場所名詞のほかに「へ」の前に来る語はさまざまである。たとえば、例(2)の「サミット」のような集まり・催しを表す名詞、例(3)の「未来」のような時名詞、例(4)の「みなさま」の人名詞、例(5)の「巨人」の組織・集団を表す名詞、例(6)の「横綱」の地位・職名・肩書きを表す名詞、例(7)の「ペン」、「メダル」のような物名詞などである。

しかし、「へ」の前に来る語のうち最も多いのは、「動作性名詞」である。92 本のうち 81 本で、約 9 割を占めている。その中に例(8a)の「会談(する)」、例（8b）の「調査(する)」、例（8c）の「拡大(する)」、例（8d）の」「交代(する)」のように、「する」をつけるとサ変動詞として働くものもあり、例(9a)の「見直し(をする)」、例(9b)の「出直し選(をする)」のように、「をする」をつけると動詞として働くものもある。それに、例(10)の「引き下げ(る／をする)」のような和語の動作性名詞もある。

引き続き、動作性名詞の例をいくつか具体的に上げておく。

(8)a 福田氏、習主席と会談へ　(東京朝刊・ 2014.10.25)

b 腹腔鏡死亡数調査へ　(東京朝刊・ 2014.11.21)

c 混合診療　大幅拡大へ　(東京朝刊・ 2014.06.10)

d 江渡防衛相　交代へ　(東京朝刊・ 2014.12.24)

e エボラ熱　4000 万ドル支援へ　(東京朝刊・ 2014.09.26)

f. 乗組員 4 人　逮捕へ　(東京朝刊・ 2014.04.22)

g. マリキ首相　退陣へ　(東京朝刊・ 2014.08.14)

h. 川内原発　優先審査へ　(東京朝刊・ 2014.03.13)

i. 維新分党へ　(東京朝刊・ 2014.05.29)

j. ＴＰＰ　知財分野合意へ　(東京朝刊・ 2014.05.13)

(9)a 再生エネ制度　見直しへ　(東京朝刊・ 2014.10.01)

b 橋下市長　出直し選へ　(東京朝刊・ 2014.02.02)

(10)介護報酬引き下げへ　(東京朝刊・ 2014.12.17)

例(8a)の「会談へ」はこれから会談するということになる。明日か、来週かなどの未来を表す時間的な副詞を書かなくても、「へ」の働きにより、未来を表すということが読者は分かるはずだ。例(8b)の「調査へ」はこれから腹腔鏡手術による死亡数について調査することになる。例(8c)の「拡大へ」は混合診療について、これから大幅に拡大することになる。例(8d)は「へ」の働きにより、これからの事象である江渡防衛相を交代させることになる。また、例(8e)の場合、「協議へ」はこれから協議をする、これからエボラ熱を向けて、4000 万ドルを支援する予定という意味になる。

また、例(9a)の「見直しへ」は、再生エネ制度について、これから見直しをする。例(9b)の「出直し選へ」はこれから橋下市長を出直し選にするということになる。

そして、例(10)の「引き下げへ」は介護報酬を引き下げることになるという意味になる。

要するに、いずれにしても「へ」の前に動作性名詞が来ると、これから、～をする予定、～

向けて～をする、～を実現に向かっていくということを表すことである。換言すれば、「へ」の前に来る動作性名詞は「へ」の働きによって、予定性や未来性を表すことができる。このことについては後でもう少し詳しく説明する。

以下の用例も同様である。

(11)a 拉致調査　早期報告要求へ　(東京朝刊・ 2014.09.20)
b 拉致問題相　山谷氏起用へ　(東京朝刊・ 2014.08.28)
c 露、ウクライナ軍事介入へ　(東京朝刊・ 2014.03.02)
d 米、キューバ国交交渉へ　(東京朝刊・ 2014.12.18)
e 民兵の越境阻止　露が警備強化へ　(東京朝刊・ 2014.06.08)
f 沈没船　船長逮捕へ　(東京朝刊・ 2014.04.19)
g 駆けつけ警護　公明容認へ　(東京朝刊・ 2014.05.17)
h 日本、ウクライナに最大 1500 億円支援へ　(東京朝刊・ 2014.03.25)
i 日朝、赤十字会談へ　(東京朝刊・ 2014.02.28)
j 日朝局長級協議　再開へ　(東京朝刊・ 2014.03.17)
k 日仏　防衛装備品開発へ　(東京朝刊・ 2014.05.06)
l 日韓局長協議　開催へ　(東京朝刊・ 2014.03.27)
m 日豪ＥＰＡ　大筋合意へ　(東京朝刊・ 2014.04.07)
n 日豪で装備品開発へ　(東京朝刊・ 2014.04.04)
o 日豪潜水艦　米参加へ　(東京朝刊・ 2014.10.28)
p 日米韓首脳会談　開催へ　(東京朝刊・ 2014.03.21)
q 日米豪　来月首脳会談へ　(東京朝刊・ 2014.10.13)
r 三菱重、ＩＨＩ提携へ　(東京朝刊・ 2014.03.14)

「動作性名詞＋へ」については、次のことが指摘できるだろう。たとえば、「拉致調査　早期報告要求へ」「米、キューバ国交交渉へ」「日韓局長協議　開催へ」などでは、「拉致調査　早期報告要求へ向けて(事態が)進む」「米、キューバ国交交渉へ向けて(事態が)進む」「日韓局長協議　開催へ向けて進む」のように理解される可能性が高いし、「橋下

市長　出直し選へ」「日仏　防衛装備品開発へ」などでは、「橋下市長　出直し選へ向けて事を進める」「日仏　防衛装備品開発へ向けて事態を進める」のように理解できるだろう。「へ」の後に「へ向けて事態{が進む／を進める}」という意味を理解することができるのが、この「動作性名詞＋へ」という見出しの大きな特徴である。そしてそのことが「動作性名詞＋へ」という見出しに、テンス的に未来を読み取らせ、予定を付与している。

さらに、抽象化して言えば、「動作性名詞＋へ」は、［事態は「動作性名詞＋へ」{向かう／進む}］という形に一般化できるだろう。

また、催しを意味する名詞を取る「首相、来月核サミットへ」や、地位を意味する名詞を取る「鶴竜初V　横綱へ」なども、「核サミットへ{出発する／行く}」や、通常の文にすれば「ニ」が現われる「横綱になる」のように理解され、事態・出来事への進展を表している。その意味では、動作性名詞を取る場合に近づいているとも言えよう。

4.3　「動作性名詞＋へ」で止める見出しと「へ」なしの動作性名詞止めの見出しとの比較

4.2 の表 4-1 に示されているように「へ」の前に来る 92 例の内、動作性名詞は最も多く、81 例で約 9 割を占めている。見出し末の「へ」の特徴をもっと明確するために、ここでは「動作性名詞＋へ」で止める見出しと「へ」なしの動作性名詞止めの見出しとの違いを見てみることにする。

4.3.1　「動作性名詞＋へ」で止める見出し

まず、「動作性名詞＋へ」で止める見出しについてみておく。以下、4.2 で取り上げた「動作性名詞＋へ」で終わる例をその記事本文と照らし合わせながら、もう一度見てみよう。

(8)a 福田氏、習主席と会談へ　（東京朝刊・ 2014.10.25）

［福田元首相が 29 日に北京で中国の習近平（シージンピン）国家主席と会談することがわかった。関係者が 24 日、明らかにした。……］

b 腹腔鏡死亡数調査へ　（東京朝刊・ 2014.11.21）

［群馬大病院（前橋市）で保険適用外で腹腔鏡（ふくくうきょう）を使う高難度の肝臓手術を受けた8人が死亡した問題を受け、肝臓手術の専門家でつくる日本肝胆膵（かんたんすい）外科学会は20日、手術実績の多い全国の医療機関を対象に、腹腔鏡手術の死亡数について実態調査することを決めた。全国的な実態を把握し、安全性を検証する。……］

c 混合診療　大幅拡大へ　（東京朝刊・ 2014.06.10）

［政府は9日、公的な医療保険を使うことが認められる医療と、認められない医療を併用する混合診療を受けやすくするため、「患者申出療養」（仮称）を来年度にも創設する方針を固めた。混合診療について〈1〉患者の希望に応じ、幅広い分野の医療を受けられるようにする〈2〉受診できる病院数を全国的に増やす〈3〉申請から2〜6週間以内に受診可能にする―ことが柱。政府は今月決まる新成長戦略に盛り込み、来年の通常国会に関連法案を提出する。……］

d 江渡防衛相　交代へ　（東京朝刊・ 2014.12.24）

［安倍首相は24日に発足する第3次安倍内閣で、政治資金を巡る問題を抱える江渡防衛相を交代させる方針を固めた。後任には中谷元・元防衛長官（57）を充てる。江渡氏は、集団的自衛権の行使を限定容認する安全保障法制を担当する重要な閣僚だが、来年1月26日召集の通常国会で本格化する安保法制の審議への影響を考慮したとみられる。首相は江渡氏を除く閣僚を再任する考えだ。……］

e エボラ熱　4000万ドル支援へ　（東京朝刊・ 2014.09.26）

［【ニューヨーク＝芳村健次】安倍首相は25日午前（日本時間26日未明）、国連本部で開かれたエボラ出血熱に関するハイレベル会合に出席し、新たに4000万ドル相当の支援を行う方針を表明した。現在の為替レートでは44億円程度に当たる。……］

f. 乗組員4人　逮捕へ　（東京朝刊・ 2014.04.22）

［【珍島（チンド）（韓国南西部）＝吉田敏行】韓国・珍島沖で旅客船「セウォル号」（6825トン）が沈没した事故で、救助チームは21日、米国から貸与された遠隔操作可

能な自航式カメラ付きロボット（ＲＯＶ）を投入し、潜水士が入りにくい船室内に入った。遺体の収容も進み、海洋警察によると、死者は20日夕から29人増えて87人、行方不明者は215人となった。

韓国の合同捜査本部は21日、新たに身柄を拘束した1等航海士2人、2等航海士1人と機関士1人の計4人の取り調べを進めた。乗客を避難誘導せず死亡させた遺棄致死、水難救護法違反容疑が固まり次第、逮捕する方針だ。……]

g. マリキ首相　退陣へ　（東京朝刊・ 2014.08.14）

［【カイロ＝溝田拓士】イラクのマリキ首相が退陣する見通しとなった。イラク国会で、自らが率いるイスラム教シーア派会派の離反が進んだことに加え、米国や、シーア派の大国であるイランなどの支持を失い、政権維持が困難になった。後任に指名されているアバーディ国民議会副議長は、早ければ9月にも新政権を発足させる見通しで、イスラム教スンニ派の過激派組織「イスラム国」の侵攻に対抗できる安定政権を実現できるかが焦点になる。……]

h. 川内原発　優先審査へ　（東京朝刊・ 2014.03.13）

［原子力規制委員会は12日、原子力発電所の再稼働に向けた安全審査の会合を開き、九州電力川内（せんだい）原発1、2号機（鹿児島県）の地震の揺れや津波の高さの想定をおおむね了承した。審査中の10原発のうち、地震と津波の最大規模が固まったのは初めてで、規制委は13日にも、川内原発を他原発のモデルケースとして優先して審査を進める原発に選ぶ方針だ。……]

i. 維新分党へ　（東京朝刊・ 2014.05.29）

［日本維新の会（衆院53人、参院9人）の石原慎太郎、橋下徹両共同代表は28日、名古屋市内のホテルで会談し、維新の会を「分党」する考えで一致した。結いの党との合流を目指す橋下氏と合流に否定的な石原氏の溝が埋まらなかった。石原氏は29日に記者会見し、今後の対応を表明する。石原氏には、維新の会と合流する前、旧太陽の党に所属した平沼赳夫、藤井孝男、園田博之の3氏らが同調する見込み。橋下氏は結いとの合流構想を進めるとみられる。……]

j. ＴＰＰ　知財分野合意へ　（東京朝刊・ 2014. 05. 13）

「環太平洋経済連携協定（ＴＰＰ）交渉に参加している日米など 12 か国が、音楽や小説の著作権の保護期間を 70 年に統一することで合意する見通しになった。新薬を開発した企業が市場を独占できる「データ保護期間」は、先進国は 10 年程度、新興国は 5 年以下と、新興国側に配慮した案で決着する見込みだ。難航分野の一つである知的財産権分野の交渉にめどがつき、ＴＰＰ交渉全体が妥結へ向けてさらに前進する。……」

例(8a)の記事本文には「福田元首相が 29 日に北京で中国の習近平（シージンピン）国家主席と会談することがわかった。」とある。文全体の時制は過去であるが、そのわかった内容である「福田元首相が 29 日に北京で中国の習近平（シージンピン）国家主席と会談する」という事象は掲載時点以後である。

例(8b)の記事本文には、「…腹腔鏡手術の死亡数について実態調査することを決めた。」と書いてあり、文全体は過去を表わすが、決めた内容「…腹腔鏡手術の死亡数について実態調査する。」そのもの自体はまだ調査していない。見出しでは「調査」の後ろに「へ」をつけて、「これから調査を行う」、「調査を向けて進む」という意味理解をすることができるだろう。

例(8c)の記事本文には、「…混合診療を受けやすくするため、『患者申出療養』（仮称）を来年度にも創設する方針を固めた。混合診療について〈1〉患者の希望に応じ、幅広い分野の医療を受けられるようにする〈2〉受診できる病院数を全国的に増やす〈3〉申請から 2～6 週間以内に受診可能にする―ことが柱。」と書かれており、見出しに表れている「拡大」という言葉そのものは本文には出てこないが、「〈1〉患者の希望に応じ、幅広い分野の医療を受けられるようにする〈2〉受診できる病院数を全国的に増やす〈3〉申請から 2～6 週間以内に受診可能にする」の簡略的・まとめの形で、「混合診療　大幅拡大」のように表現され、そして、また格助詞「へ」を付け、「混合診療について、大幅拡大へ向けて事態を進める」のように理解できるだろう。混合診療について、大幅拡大することは既に決まっているがが、まだ、拡大していなく、これから拡大することになる。記事本文によると、「来年」からである。

例(8d)の記事本文に書いてあるように、「安倍首相は 24 日に発足する第 3 次安倍内閣

で、政治資金を巡る問題を抱える江渡防衛相を交代させる方針を固めた」という内容である。江渡防衛相を交代させる方針を既に決めたが、江渡防衛相はまだ交代させていない。

例(8e)の記事本文には、「安倍首相は25日午前(日本時間26日未明)、国連本部で開かれたエボラ出血熱に関するハイレベル会合に出席し、新たに4000万ドル相当の支援を行う方針を表明した。」と書いてある。エボラ熱に関して、安倍首相は4000万ドル相当の支援を行う方針を表明した。表明したのは「4000万ドル相当の支援を行う」方針である。方針の内容である「4000万ドル相当の支援」はまだ行われていなく、これからである。

例(8f)の記事本文には、「韓国の合同捜査本部は21日、新たに身柄を拘束した1等航海士2人、2等航海士1人と機関士1人の計4人の取り調べを進めた。乗客を避難誘導せず死亡させた遺棄致死、水難救護法違反容疑が固まり次第、逮捕する方針だ。」と書かれている。見出しに表れている「乗組員4人」という言葉は記事本文には出てこないが、「1等航海士2人、2等航海士1人と機関士1人の計4人」と書かれており、そのことを受けて、「乗組員4人」という簡略的、まとめる形で表現されている。その「乗組員4人」に対して、「乗客を避難誘導せず死亡させた遺棄致死、水難救護法違反容疑が固まり次第、逮捕する方針だ。」逮捕する方針を決めたが、まだ、逮捕していない。乗客を避難誘導せず死亡させた遺棄致死、水難救護法違反容疑が固まり次第、逮捕するということになる。

例(8ｇ)の記事本文には、「イラクのマリキ首相が退陣する見通しとなった。」と書かれており、マリキ首相が退陣する見通しとなったが、マリキ首相がまだ退陣していない。「早ければ9月にも新政権を発足させる見通しで」、「マリキ首相が退陣へ向けて事態が進む」のように理解できるだろう。

例(8h)の記事本文には、「規制委は13日にも、川内原発を他原発のモデルケースとして優先して審査を進める原発に選ぶ方針だ。」と書いており、「川内原発について、優先して審査を進める」のように理解できるだろう。

例(8i)の記事本文には、「日本維新の会(衆院53人、参院9人)の石原慎太郎、橋下徹両共同代表は28日、名古屋市内のホテルで会談し、維新の会を「分党」する考えで一致した。」と書かれており、日本維新の会の代表は維新の会を「分党」する考えで一致したので、これから、「維新が分党へ向けて事態を進める」のように理解できるだろう。

例(8j)の記事本文には、「知的財産権分野の交渉にめどがつき、ＴＰＰ交渉全体が妥結へ向けてさらに前進する。」と書いてあるように、「ＴＰＰが知財分野合意へ向けて進め

る」のように理解できるだろう。

(9)a 再生エネ制度　見直しへ　(東京朝刊・ 2014.10.01)

［政府は、太陽光や風力などの再生可能エネルギーの固定価格買い取り制度を年明けにも見直す方針を固めた。大規模太陽光発電所(メガソーラー)で作った電気の買い取り価格が決まる時期を、現在の「国の事業認定時」から、「事業開始時」に改める方向だ。政府は買い取り価格を年々、安くしており、価格決定時期を先に延ばす。……］

b 橋下市長　出直し選へ　(東京朝刊・ 2014.02.02)

［橋下徹大阪市長(日本維新の会共同代表)は1日、東京都内で開いた大阪維新の会の全体会議で、市長を辞職し、出直し選に踏み切ると表明した。大阪府と大阪市を統合再編する「大阪都構想」の実現に向けた進展がないため、選挙で民意を問い、事態を打開する構えだ。橋下氏と共に出直し選に臨む意向だった松井一郎大阪府知事(維新の会幹事長)は辞職しない。……］

(10)介護報酬引き下げへ　(東京朝刊・ 2014.12.17)

［政府は16日、介護保険サービスの公定価格である介護報酬を2015年度から引き下げる方針を固めた。引き下げは9年ぶり。下げ幅は、4%程度を主張する財務省と、サービスの質の確保のため、微減にとどめたい厚生労働省との間で調整が続いている。一方、人手不足が深刻な介護職員の賃金は、月1万円程度増やせるようにする方針。……］

例(9a)「～見直す方針を固めた」。固めたのは方針である。その方針の内容である「再生可能エネルギーの固定価格買い取り制度を年明けにも見直す」という事象は新聞掲載時以後であり、「年明けにも見直す」。見出しには「動作性名詞＋へ」の形を取り、「へ」の働きによって、「年明け」という時間的な副詞がなくても、テンス的に未来を読み取ることができる。例(9b)も同様、「市長を辞職し、出直し選に踏み切ると表明した」と書いてあるように、表明したのは「市長を辞職し、出直し選に踏み切る」ということであり、市長を辞職すること、出直し選に踏み切ることはまだである。

また、例(10)の場合は、記事内容に書かれているように、「介護報酬を2015年度から引き下げる方針を固めた」。固めたのは方針である。その方針の内容としての事象「介護報酬を2015年度から引き下げる」は新聞掲載時以後である。見出し「介護報酬引き下げへ」は「動作性名詞＋へ」の形で、「へ」の働きによって、「介護報酬　引き下げへ向けて進める」のように理解できる。

(11)a 拉致調査　早期報告要求へ　(東京朝刊・ 2014.09.20)

［政府は19日、北朝鮮による日本人拉致被害者らの再調査について、被害者の家族らへの説明会を開き、北朝鮮からの1回目の報告が、日朝両政府が合意していた「夏の終わりから秋の初め」より遅れる見通しであることを説明した。…政府は近く、調査方法や進捗状況について北朝鮮側に説明を求めるとともに、報告を早期に行うよう求める方針だ。……］

b 拉致問題相　山谷氏起用へ　(東京朝刊・ 2014.08.28)

［安倍首相は27日､9月3日に行う内閣改造で､自民党の山谷えり子参院政審会長(比例、参院当選2回・衆院当選1回)を拉致問題相に起用する方向で調整に入った。山谷氏は党拉致問題対策本部の本部長を務めるなど、拉致問題に積極的にかかわってきた。同本部は今年7月、拉致被害者の新た な帰国を想定した生活支援策を発表していて、その取りまとめに山谷氏が奔走したことも首相は評価しているとみられる。山谷氏は第1次安倍内閣で首相補佐官を務めるなど、首相に近い。また、安倍政権が女性を積極登用する方針を掲げていることも、起用の背景にありそうだ。……］

c 露、ウクライナ軍事介入へ　(東京朝刊・ 2014.03.02)

［【モスクワ＝緒方賢一、キエフ＝佐藤昌宏】ロシアのプーチン大統領は1日、上院に対し、ウクライナ領内で軍事力を行使することを提案した。上院は即日審議し、全会一致でこれを承認する決議を採択した。大統領が2日以内に決議に署名する予定で、ロシアは、ウクライナ南部クリミア自治共和国に対する軍事介入の準備を整える。国連安全保障理事会は1日、ウクライナ情勢について緊急の会合を開く。露側の強硬な姿勢に対し、欧米諸国が反発するのは必至で、混乱が続くウクライナ情勢は重大な

局面を迎えた。……]

d 米、キューバ国交交渉へ　(東京朝刊・ 2014. 12. 18)

[【ワシントン＝白川義和】米政府高官は 17 日、米国が 1961 年から断交状態にあるキューバとの間で、国交正常化に向けた交渉を開始すると明らかにした。キューバに科している制裁も解除し、米国人のキューバ渡航や金融・商業取引を解禁、増加させる方向で調整する。同高官はキューバの孤立化を図る米国の伝統的政策の「重要な転換だ」と強調した。……]

e 民兵の越境阻止　露が警備強化へ　(東京朝刊・ 2014. 06. 08)

[【キエフ＝石黒穣】タス通信によると、ロシアのプーチン大統領は 7 日、ロシア民兵のウクライナへの越境を阻止するため、ウクライナとの国境警備強化を連邦保安局に命じた。……]

f 沈没船　船長逮捕へ　(東京朝刊・ 2014. 04. 19)

[【木浦(モッポ)(韓国南西部)＝釈迦堂章太、珍島(チンド)＝中川孝之】韓国・珍島沖で旅客船「セウォル号」(6825 トン)が沈没した事故は、3 日目を迎えた 18 日、潜水士が船内への進入に初めて成功した。ただ、障害物が多いことなどから、不明者は発見できなかった。18 日昼頃、海面に出ていた船首も完全に水没した。

韓国検察などの合同捜査本部によると、16 日朝の事故当時、操舵(そうだ)室で操船を指揮し、操舵手に急旋回を命じたのは経験の浅い 3 等航海士の女性(25)だった。イ・ジュンソク船長(68)は休憩中だった。

合同捜査本部は 18 日、船長について、乗客の救助を怠った船長らを厳しく罰する特定犯罪加重処罰法違反など、3 等航海士と操舵手については業務上過失致死傷などの容疑で、それぞれ逮捕状を請求した。……]

g 駆けつけ警護　公明容認へ　(東京朝刊・ 2014. 05. 17)

[国連平和維持活動(ＰＫＯ)で海外に駐留する自衛隊が民間人や他国部隊などを助ける「駆けつけ警護」について、公明党が、新たな法整備を容認する方向で検討を進

めることが16日、わかった。複数の同党幹部が明らかにした。政府・自民党は20日に始まる与党協議で、武装集団による離島占拠などの「グレーゾーン事態」とともに早期の合意を目指す。ただ、集団的自衛権行使を巡る憲法解釈見直しが置き去りにされることを懸念し、集団的自衛権を切り離した閣議決定には応じない構えだ。……]

h 日本、ウクライナに最大1500億円支援へ　(東京朝刊・ 2014.03.25)

[【ハーグ＝黒見周平】安倍首相は、G7首脳会議で、財政難にあるウクライナ暫定政府に最大1500億円の支援を行うことを表明する。ウクライナに対しては、既に米国が10億ドル(約1000億円)、欧州連合(ＥＵ)は最大10億ユーロ(約1400億円)の各支援策をまとめている。……]

i 日朝、赤十字会談へ　(東京朝刊・ 2014.02.28)

[外務省は27日、日本赤十字社と北朝鮮の朝鮮赤十字会による日朝赤十字会談が3月3日に中国・瀋陽で行われると発表した。会談には、日朝双方の外務省課長級が同席する予定で、政府当局者間の非公式な協議も行われるとの見方が出ている。……]

j 日朝局長級協議　再開へ　(東京朝刊・ 2014.03.17)

[日朝両政府は、拉致問題などを議題とした外務省局長級による公式協議を、近く再開する方針を固めた。複数の政府関係者が16日、明らかにした。一方、外務省は同日、拉致被害者の横田めぐみさんの両親、横田滋さん(81)、早紀江さん(78)夫妻とめぐみさんの娘、キム・ヘギョンさん(26)がモンゴルで面会したことを認め、正式発表した。夫妻のひ孫にあたるヘギョンさんの生後10か月の女児にも会えたという。……]

k 日仏　防衛装備品開発へ　(東京朝刊・ 2014.05.06)

[【パリ＝志磨力】フランスを訪問中の安倍首相は5日午前(日本時間5日夕)、オランド大統領と大統領府で会談し、防衛装備品の共同開発に関する政府間協定を結ぶため、交渉を始めることで一致した。エネルギー分野では、次世代の原子炉である「高速炉」の共同研究推進で正式合意した。……]

l 日韓局長協議　開催へ　（東京朝刊・ 2014.03.27）

［日本と韓国の関係改善に向けた日韓外務省局長級協議が近く開催される見通しとなった。複数の両政府関係者が 26 日、明らかにした。韓国側は 4 月中旬の開催を求めている。韓国側がいわゆる従軍慰安婦問題のみを議題とする考えであるのに対し、日本側は竹島問題など幅広い懸案を協議したい考えで、協議のテーマの調整を急いでいる。……］

m 日豪ＥＰＡ　大筋合意へ　（東京朝刊・ 2014.04.07）

［安倍首相と来日中のアボット豪首相が 7 日の首脳会談で、日豪ＥＰＡ(経済連携協定)交渉について大筋合意する見通しとなった。焦点となっていた豪州産牛肉の関税率について、現在の 38 ・ 5%から段階的に 20%台に引き下げることでほぼ一致したとみられる。一方、豪州が日本車にかけている関税(5%)は撤廃する。複数の政府筋が 6 日、明らかにした。……］

n 日豪で装備品開発へ　（東京朝刊・ 2014.04.04）

［7 日に東京で行われる安倍首相とアボット・オーストラリア首相との首脳会談で、日豪両政府が今後、防衛装備品の共同開発などの安全保障協力を進めることで合意することが分かった。中国が東シナ海や南シナ海での領有権主張や防空識別圏設定などの挑発を続ける中、日豪ともに同盟国の米国を加えた「日米豪」の枠組みで連携を強化する方針も確認する。……］

o 日豪潜水艦　米参加へ　（東京朝刊・ 2014.10.28）

［【ワシントン＝今井隆、ジャカルタ＝池田慶太】日豪両政府が協議開始で合意した豪州の新型潜水艦に関する共同開発に、米国が加わる方向で検討を開始したことが分かった。日米豪関係筋が 27 日、明らかにした。豪州政府が、艦体は日本製、システムや兵器は米国製の導入を希望しているためだ。太平洋に面する日米豪 3 か国による潜水艦の共同開発が実現すれば、これまで共同訓練の段階にとどまっていた軍事面での協力関係が新段階に入ることになる。……］

p 日米韓首脳会談　開催へ　（東京朝刊・ 2014.03.21）

［【ソウル＝豊浦潤一】韓国の朴槿恵（パククネ）大統領は、米国が提案しているオランダ・ハーグでの 24、25 日の核安全サミットに合わせた日米韓首脳会談の受け入れを最終決断した。韓国政府関係者が 20 日明らかにした。外交筋などによると日米韓 3 か国は同時発表を調整している。これにより米国の仲介で安倍首相と朴大統領との本格的な会談が初めて実現することになった。……］

q 日米豪　来月首脳会談へ　（東京朝刊・ 2014.10.13）

［【ワシントン＝今井隆、ジャカルタ＝池田慶太】日本と米国、オーストラリアの 3 か国が、11 月 15〜16 日に豪ブリスベーンで開かれる主要 20 か国・地域首脳会議（G20 サミット）の際、安倍首相、オバマ米大統領、アボット豪首相による首脳会談を開催する方向で調整していることが分かった。複数の日米豪関係筋が 12 日、明かした。日米豪首脳会談が開催されれば、7 年ぶり 2 回目となる。……］

r 三菱重、ＩＨＩ提携へ　（東京朝刊・ 2014.03.14）

［三菱重工業とＩＨＩは、航空機用のエンジン事業で資本・業務提携する方針を固めた。格安航空会社（ＬＣＣ）の参入や、新興国の航空機需要が増えることをにらみ、両社が出資する新会社を設立して競争力を高める。月内にも基本合意し、今秋の発足を目指す。政府は産業競争力強化法に基づく支援を検討する。……］

例（11a）の記事本文には、「…報告を早期に行うよう求める方針だ」と書かれており、主節も従属節も過去ではない。見出しに表れている「要求」という言葉そのものは、本文には出てこないが、「報告を早期に行うよう求める方針だ」と書かれており、そのことを受けて、要求という漢語で簡略的・まとめる形で表現さている。そして、「要求」の後ろに格助詞「へ」を付け、「へ」の使用によって、「報告要求」は新聞掲載時点よりあとに行われるということが明確に伝わる。

例（11b）の記事本文には、「…自民党の山谷えり子参院政審会長（比例、参院当選 2 回・衆院当選 1 回）を拉致問題相に起用する方向で調整に入った。」と書かれている。分かるよう

に、「山谷氏を拉致問題相に起用する」ことが掲載時以後のことであり、「山谷氏を拉致問題相に起用へ向けて進める」という意味解釈ができる。

例(11c)記事本文では、「ロシアは、ウクライナ南部クリミア自治共和国に対する軍事介入の準備を整える。」記事本文には「ロシア」と書いてあるが、見出しにはその代わりに「露」で表現されている。この場合、カタカナより漢字を使ったほうが簡略的で、新聞見出しの字数の制限にも関係あるだろう。「ウクライナ南部クリミア自治共和国に対する軍事介入の準備を整える」と書かれているように、ウクライナに対して、軍事介入はまだしていないが、軍事介入の準備を整えるので、これから軍事介入に向けて事態を進めると理解できるだろう。

例(11d)記事本文には「米政府高官は17日、米国が1961年から断交状態にあるキューバとの間で、国交正常化に向けた交渉を開始すると明らかにした。」とかかれており、米国がこれから国交正常化に向けた交渉をすることになる。

例(11e)記事本文には、「ロシアのプーチン大統領は7日、ロシア民兵のウクライナへの越境を阻止するため、ウクライナとの国境警備強化を連邦保安局に命じた。」ということが書かれており、ロシアの大統領はウクライナとの国境警備を強化することを命じた。これから、警備強化に向けて進めるという意味解釈できるだろう。

例(11f)記事本文には、「船長について、乗客の救助を怠った船長らを厳しく罰する特定犯罪加重処罰法違反など、3等航海士と操舵手については業務上過失致死傷などの容疑で、それぞれ逮捕状を請求した。」と書かれており、船長について、既に逮捕状を請求したので、これから、船長を逮捕へ向けて事態を進めるということになるだろう。

例(11g)記事本文には、「『駆けつけ警護』について、公明党が、新たな法整備を容認する方向で検討を進めることが16日、わかった。」と書かれており、新聞掲載の前の日である16日に、駆けつけ警護について公明党が容認することが分かった。つまり、駆けつけ警護について、公明党がこれから容認することに向けて検討を進めるということになる。

例(11h)記事本文には、「安倍首相は、G7首脳会議で、財政難にあるウクライナ暫定政府に最大1500億円の支援を行うことを表明する。」と書かれており、「日本はウクライナに最大1500億円を支援する」のように意味解釈できるだろう。

例(11i)記事本文には、「日朝赤十字会談が3月3日に中国・瀋陽で行われる。」と書かれている。新聞掲載時は2月28日であり、3月3日ははそれ以後の日時である。つまり、

日朝、これから赤十字会談に向けて進めるということになる。

例(11j)記事本文には、「日朝両政府は、拉致問題などを議題とした外務省局長級による公式協議を、近く再開する方針を固めた。」と書かれており、これから日朝局長級協議を再開することになるという風に意味解釈できる。

例(11k)記事本文には、「安倍首相は5日午前(日本時間5日夕)、オランド大統領と大統領府で会談し、防衛装備品の共同開発に関する政府間協定を結ぶため、交渉を始めることで一致した。」と書いてあり、日仏が防衛装備品の共同開発に向けて事態を進めることになる。

例(11l)記事本文には、「日本と韓国の関係改善に向けた日韓外務省局長級協議が近く開催される見通しとなった。」と書かれており、「日韓局長協議が近く開催される」ことになる。

例(11m)記事本文には、「日豪ＥＰＡ(経済連携協定)交渉について大筋合意する見通しとなった。」と書かれており、日豪ＥＰＡ交渉について、これから大筋合意することになるという風に読み取れる。

例(11n)記事本文には、「日に東京で行われる安倍首相とアボット・オーストラリア首相との首脳会談で、日豪両政府が今後、防衛装備品の共同開発などの安全保障協力を進めることで合意することが分かった。」と書いてあり、これから日豪で装備品の共同開発に向けて事態を進め、合意をするという意味解釈ができる。

例(11o)記事本文には、「豪両政府が協議開始で合意した豪州の新型潜水艦に関する共同開発に、米国が加わる方向で検討を開始したことが分かった。」と書いてあるように、豪潜水艦に関する共同開発に、米国が加わる方向で検討を開始した。開始したのは米国が加わる方向での検討である。本文には「加わる」という言葉で表現されているが、見出しには格助詞「へ」をつけてコンパクトするため、「参加」という漢語が使われている。その格助詞「へ」の働きによって、豪潜水艦に関する共同開発に、米国がこれから参加することに向けて事態を進めることになると理解できるだろう。

例(11p)記事本文に書いてあるように、「24、25日の核安全サミットに合わせた日米韓首脳会談の受け入れを最終決断した。……外交筋などによると日米韓3か国は同時発表を調整している。これにより米国の仲介で安倍首相と朴大統領との本格的な会談が初めて実現することになった。」という内容である。つまり、日米韓首脳会談を開催することにな

ったが、会談はまだ開催さておらず、これから開催するということになる。

例(11q)記事本文には「日本と米国、オーストラリアの3か国が、11月15〜16日に豪ブリスベーンで開かれる主要20か国・地域首脳会議(G20サミット)の際、安倍首相、オバマ米大統領、アボット豪首相による首脳会談を開催する方向で調整していることが分かった。」とかかれており、首脳会談はまだ行われていなく、「来月」に行うことになる。

例(11r)記事本文には、「三菱重工業とＩＨＩは、航空機用のエンジン事業で資本・業務提携する方針を固めた。」と書かれており、三菱重とＩＨＩは提携する方針を固めた。三菱重とＩＨＩは提携することはまだ実現していないが、これからそれを向けて事態を進めていくという意味になる。

以上見てきた例で分かるように、「動作性名詞＋へ」という見出しは見出しに現れる動作性名詞は、本文では動詞の形で表現されている。本文ではサ変動詞の場合は、見出しではサ変動詞の語幹で表記され、本文では和語で書かれている場合でも、見出しでは漢語で表現されたり、その動詞の連用形が使われたりするのがほとんどである。複合動詞の場合、たとえば、「出直しへ」とかいっても座りがいいが、和語の単純動詞の場合だと、その動詞の連用形だけを使ったら、座りが悪いので、漢語にするか、複合動詞にするか、という工夫がよく見られる。たとえば、「求め」のような言葉の場合は、「求めへ」といったら、ものすごく座りが悪いので、その代わりに「要求へ」などの表現に変えた場合がよく見られる。

そして、「動作性名詞＋へ」という見出しは「〜に／へ向けて事態が進む」「〜に／へ向けて事態を進める」のように意味解釈ができるだろう。つまり、「動作性名詞＋へ」の場合は「へ」のはたらきによりテンス的に未来を読み取らせ、予定を表すことになる。

4.3.2　「へ」なしの動作性名詞止めの見出し

次は、「へ」なし、つまり動作性名詞だけ止めの見出しについて見ておく。

第三章の表3-1・図3-1に示されているように、2014年一年分の主見出しの内、名詞止めは1169本で8割を占めている。さらにその名詞止めの見出しについて考察したところ、動作性名詞で止める見出しは578例であった。

以下、タイプが違う例をいくつか具体的に上げておく。(1)は既定を表す一群、(2)は予

定を表す一群、(3)は、既に事態は始まっているが、まだ続いているタイプ、本稿で進行と呼んだものを表す一群である。

(1)a 不明機の残骸発見　(東京朝刊・ 2014.12.31)
b 総合戦略など閣議決定　(東京朝刊・ 2014.12.28)
c 羽生　全日本3連覇　(東京朝刊・ 2014.12.28)
d 代々木公園　閉鎖　(東京朝刊・ 2014.09.05)
e 岡田氏が出馬表明　(東京朝刊・ 2014.12.26)
f 鳥インフル　処分完了　(東京朝刊・ 2014.04.15)
g 開腹手術でも10人死亡　(東京朝刊・ 2014.12.22)

(2)a 海洋教育を充実　(東京朝刊・ 2014.08.13)
b 法人税　2年で3．3%下げ　(東京朝刊・ 2014.12.29)
c 介護　資格要件を緩和　(東京朝刊・ 2014.10.15)
d マンガ海賊版　削除要請　(東京朝刊・ 2014.07.30)
e ＳＴＡＰ調査　打ち切り　(東京朝刊・ 2014.12.27)
f 小保方氏あす会見　(東京朝刊・ 2014.04.08)
g 地方で30万人雇用創出　(東京朝刊・ 2014.12.26)

(3)a 所有者不明の土地増加　(東京朝刊・ 2014.07.25)
b 米黒人射殺デモ拡大　(東京朝刊・ 2014.08.20)
c 死者・不明　八木地区に集中　(東京朝刊・ 2014.08.26)
d 豪軍受け入れ協定　検討　(東京朝刊・ 2014.07.05)
e 中国、希少ウナギ大量輸出　(東京朝刊・ 2014.07.24)
f がん患者・家族1000組調査　(東京朝刊・ 2014.08.29)
g10歳男子　「投げる力」低下　(東京朝刊・ 2014.10.13)

その見出しを止める動作性名詞は「予定」を表わすか、「既定」を表わすかについて、その記事内容と照らし合わせながら見てきた。「予定」を表わすのが297例、「既定」を

表わすのが 271 例、「進行」を表わすのが 10 例であった。「既定」を表わすものと比べると「予定」を表わすものがやや上回るが、比率はほぼ同じである。「進行」を表わすものが少ない。

以上で取り上げた例を記事本文と照らし合わせて具体的に見ると次のようになる。

まず、グループ(1)の用例を見てみよう。

例(1)a 不明機の残骸発見　(東京朝刊・ 2014. 12. 31)

［【ジャカルタ＝池田慶太】インドネシア捜索救助庁は 30 日、カリマンタン島南西沖の海上で、飛行機の機体の残骸を発見し、28 日に消息を絶った同国スラバヤ発シンガポール行きのエアアジア機の一部と断定した。インドネシア海軍は周辺で、遺体 3 体を見つけて収容した。付近の海底に飛行機の機体とみられる影を確認しており、同庁は、エアアジア機がこの辺りで墜落し、海底に沈んだとみて確認作業を進める。……］

b 総合戦略など閣議決定　(東京朝刊・ 2014. 12. 28)

［政府は 27 日の臨時閣議で、地方創生の方針や人口減対策を盛り込んだ「長期ビジョン」と、2020 年までの数値目標を示した「総合戦略」を正式決定した。目標とする「50 年後に 1 億人程度の人口維持」実現に向け、国と地方の取り組みが本格的に動き出す。……］

c 羽生　全日本 3 連覇　(東京朝刊・ 2014. 12. 28)

［フィギュアスケートの全日本選手権は 27 日、長野市のビッグハットで行われ、男子は、ソチ五輪金メダリストの羽生(はにゅう)結弦(ゆづる)(20)(ＡＮＡ)が、首位に立った前日のショートプログラム(ＳＰ)と、この日のフリーの得点を合わせ、286. 86 点で大会 3 連覇を果たした。全日本 3 連覇は、2005〜07 年の高橋大輔以来。……］

d 代々木公園　閉鎖　(東京朝刊・ 2014. 09. 05)

［東京都は4日、代々木公園（東京都渋谷区）で採取した複数の蚊から、デング熱の原因となるデングウイルスが検出されたとして、同公園の大部分を閉鎖した。……］

e 岡田氏が出馬表明　（東京朝刊・ 2014. 12. 26）

［民主党の岡田克也代表代行は25日、党本部で記者会見し、党代表選（1月7日告示、18日投開票）への出馬を正式表明した。出馬表明は、細野豪志元幹事長に続いて2人目。このほか、長妻昭衆院議員、蓮舫参院議員らが出馬を検討しており、週内にも候補者の顔ぶれが出そろう見通しだ。出馬を検討していた前原誠司元代表は見送りを決めた。……］

f 鳥インフル　処分完了　（東京朝刊・ 2014. 04. 15）

［熊本県多良木（たらぎ）町の養鶏場で発生した高病原性鳥インフルエンザ（H5型）について、県は14日夜までに、この養鶏場と、経営者が同じ同県相良（さがら）村の養鶏場で飼育されている計11万2000羽の殺処分を終えた。農林水産省は14日、感染源について「渡り鳥の可能性が高いのではないか」との見方を示した。……］

g 開腹手術でも10人死亡　（東京朝刊・ 2014. 12. 22）

［群馬大学病院（前橋市）で腹腔鏡（ふくくうきょう）を使う高難度の肝臓手術を受けた患者8人が死亡した問題で、腹腔鏡手術を手がけた第二外科（消化器外科）による肝臓の開腹手術でも、過去5年間で、84人中10人が術後3か月以内に死亡していたことが関係者への取材でわかった。開腹手術の死亡率は11.9%に上り、全国的な肝臓の開腹手術の死亡率に比べ3倍という高率だった。……］

グループ(1)の用例を記事本文と照らし合わせてみると、見出しを止める動作性名詞(1a)の「発見」、(1b)の「決定」、(1c)の「連覇」、(1d)の「閉鎖」、(1e)の「表明」、(1f)の「完了」、(1g)の「死亡」などは、それぞれ記事本文の下線を引いているところの「～を発見し、～と断定した」、「～を正式決定した」、「～3連覇を果たした」、「～を閉鎖した」、「～を正式表明した」、「～を終えた」、「～死亡していた」と対応しているので、容易に分かるように、これらの用例の見出しを止める動作性名詞が関与する事象は

全部過去のことである。その中、例(1f)の記事本文には、「終えた」という動詞が使われており、見出しに現れる「完了」という言葉そのものは現れていないが、見出しでは、「終えた」に対応する漢語「完了」が使われている。

引き続き、グループ(2)の用例を見ていく。

(2)a 海洋教育を充実　(東京朝刊・ 2014.08.13)

［政府は、小中高校で教える内容を定める学習指導要領で、領土・領海や海洋資源に対する国の主権などへの理解を深める「海洋教育」を充実させる方針を固めた。沖縄県の尖閣諸島などへの中国の海洋進出を踏まえ、海洋や離島に関する知識のほか海洋での実習などを各教科に盛り込み、体系的に知識を習得できるようにすることを目指す。……］

b 法人税　2 年で 3.3%下げ　(東京朝刊・ 2014.12.29)

［政府・与党は 28 日、2015 年度税制改正で最大の焦点である法人実効税率(34.62%。東京都は 35.64%)の引き下げについて、下げ幅を 15 年度は 2.51%、16 年度までの 2 年間では計 3.28～3.29%とする方向で最終調整に入った。数年で 5%程度を引き下げる目標の半分以上を最初の 2 年間で達成し、安倍政権が課題とする経済成長を進める。……］

c 介護　資格要件を緩和　(東京朝刊・ 2014.10.15)

［介護分野の深刻な人手不足を補うため、厚生労働省は、介護職の資格要件を緩和する方針を固めた。現行の資格を取得しやすくするか、よりハードルの低い新たな資格を創設する。介護分野への外国人の受け入れも拡充し、2025 年度までに約 100 万人の増員が必要とされる介護職の担い手の裾野を広げる。……］

d マンガ海賊版　削除要請　(東京朝刊・ 2014.07.30)

［政府と大手出版社など約 30 社が共同で、日本のマンガやアニメを違法にコピーして無料公開している海外の海賊版サイトの撲滅に乗り出す。8 月 1 日から、中国や韓

国、スペインなど約300の海賊版サイトの運営者にメールなどで一斉に削除を要請し、応じない場合は、それぞれ現地の裁判所での訴訟も辞さない考えを伝える。……]

e ＳＴＡＰ調査　打ち切り　(東京朝刊・ 2014.12.27)

［ＳＴＡＰ(スタップ)細胞の正体は、何者かが混入したＥＳ細胞(胚性幹細胞)だったとほぼ断定する報告書が26日、公表された。報告をまとめた理化学研究所の外部調査委員会(委員長＝桂勲・国立遺伝学研究所長)は、論文のデータ2件を新たに捏造(ねつぞう)と認定、「認定された不正は『氷山の一角』」と指摘した。理研は一連の調査を打ち切ると発表、混入の経緯は不明のまま残された。……]

f 小保方氏あす会見　(東京朝刊・ 2014.04.08)

［ＳＴＡＰ(スタップ)細胞の論文が不正とされた問題で、理化学研究所の 小保方(おぼかた)晴子ユニットリーダー(30)は7日、大阪市内で9日午後に記者会見すると、代理人を通じて発表した。捏造(ねつぞう)や改ざんを認定 した理研調査委員会の最終報告書に対して8日に不服を申し立て、会見で一連の問題について説明する。小保方氏の会見は、1月末の論文発表後初めて。……]

g 地方で30万人雇用創出　(東京朝刊・ 2014.12.26)

[安倍政権の看板政策である地方創生の道筋をまとめた「長期ビジョン」と2020年までの工程表となる「総合戦略」の全容が25日、分かった。地方で30万人の若者の雇用を生み出すなどの目標を掲げ、人口減少と東京一極集中に歯止めをかけて、60年に人口1億人の大台を維持することを目指す。政府は27日、ビジョンと戦略を閣議決定する。……]

グループ(2)の用例を記事本文と照らし合わせてみると、見出しを止める動作性名詞(2a)の「充実」、(2b)の「下げ」、(2c)の「緩和」、(2d)の「要請」、(2e)の「打ち切り」、(2f)の「会見」、(2g)の「創出」などは、それぞれ記事本文の下線を引いているところの「～充実させる方針を固めた」、「～引き下げについて、～計3.28～3.29%とする方向で最終調整に入った」、「～を緩和する方針を固めた」、「～8月1日から、～削除を要請

し、～考えを伝える。」、「～調査を打ち切ると発表」、「～9 日午後に記者会見する」、「～30 万人の若者の雇用を生み出すなどの目標を掲げ、～ことを目指す」、「～30 万人の若者の雇用を生み出すなどの目標を掲げ、～を目指す」などと対応しているので、容易に分かるように、これらの用例の見出しを止める動作性名詞が関与する事象は全部まだ行われていなく、「予定」を表すものである。

その中、例(2g)「創出」そのものは記事本文には出てこないが、「生み出す」という和語の同じ意味である「創出」が見出しでは使われている。

例(2d)の記事本文には、「8 月 1 日」という時を表す成分があり、その記事は 7 月 30 日のものなので、「要請」が関与する事態は新聞掲載時以後であることが明白に分かる。

また、例(2f)も同じである。8 日の新聞で、「9 日午後に記者会見する」のように「9 日」という時を表す成分があるので、「会見する」ことは未来のことである。

そして、例(2a)「～充実させる方針を固めた」、例(2b)「～引き下げについて、～計 3.28～3.29%とする方向で最終調整に入った」、例(2b)「～を緩和する方針を固めた」のように、文全体のテンスは過去であるが、見出しを止める動作性名詞「充実」、「下げ」、「緩和」が関与する事象は新聞掲載時より以後である。前に既に触れたように、たとえば、例(2a)の場合は、固めたのは方針である。その方針の内容である「海洋教育」を充実させることそのものはまだ実現していない。つまり、「充実」という動作性名詞が関与する事象はまだ行われていなく、新聞掲載時以後のことになる。

最後に、グループ(3)の用例を見ていく。

(3)a 所有者不明の土地<u>増加</u>　(東京朝刊・ 2014.07.25)

［地方からの人口流出などに伴い、不動産登記上の所有者が変更されずに「所有者不明」となる<u>土地が増えている</u>。相続人が名義変更しなかったり、都会に出た所有者が土地を放置し、周辺住民とのつながりも途切れたために誰の土地かわからなくなったりすることが原因だ。土地所有者がわからないため、災害復旧工事や公共事業を行う了解が得られず、事業が進まない問題が出ている。……］

b 米黒人射殺デモ<u>拡大</u>　(東京朝刊・ 2014.08.20)

［【ファーガソン(米中部ミズーリ州)＝加藤賢治】警官による黒人青年射殺事件を巡る混乱が続く米ミズーリ州ファーガソン市で、18 日深夜も一部のデモ参加者が放火や警官隊に発砲するなど暴徒化した。警官隊が催涙弾や特殊閃光(せんこう)手りゅう弾などで強制排除した。2 人が何者かに撃たれて負傷し、31 人が逮捕されたほか、投石などで警官 4 人が負傷した。18 日に同市に派遣された州兵は、現場指揮所周辺の警備にあたった。射殺に抗議するデモはニューヨークやロサンゼルスなど、全米の主要都市に広がっている。……］

c 死者・不明　八木地区に集中　（東京朝刊・ 2014.08.26）

［……広島市北部の豪雨に伴う土砂災害は 25 日、死者は 58 人、行方不明者は 28 人になった。安佐南区八木地区の被害が特に大きく、死者 37 人、行方不明者が 25 人に上っている。市は同日、行方不明者の氏名や住所を市のホームページなどで公表。被災自治体が、行方不明者の個人情報を明らかにして、情報提供を求める異例の措置に踏み切った。……］

d 豪軍受け入れ協定　検討　（東京朝刊・ 2014.07.05）

［日本とオーストラリア両政府が、自衛隊と豪州軍のそれぞれの国での活動を受け入れやすくする協定の締結を検討していることが 4 日、明らかになった。災害救援や共同訓練などの機会を増やす狙いがあり、「訪問部隊地位協定」（ＶＦＡ）を締結する案が有力だ。豪州を訪問する安倍首相は 8 日に日豪首脳会談を行い、協定締結に向けた協議開始を念頭に、両国の安全保障協力の強化を盛り込んだ共同文書を発表する。……］

e 中国、希少ウナギ大量輸出　（東京朝刊・ 2014.07.24）

［……ワシントン条約で絶滅の恐れがある生物に指定され、2010 年 12 月以降、欧州が輸出を禁じているヨーロッパウナギ(欧州ウナギ)が、中国から日本に大量に輸入されていることが分かった。中国が規制前に欧州から稚魚を仕入れていたとしても、稚魚が 3 年半以上養殖されて出荷されるのは不自然だとして、水産庁は中国政府に対し、適正な輸出かどうか調査を求める方針を固めた。……］

f がん患者・家族 1000 組調査　（東京朝刊・ 2014. 08. 29）

［日本のがん医療を先導する国立がん研究センター東病院（千葉県柏市）で、高齢者を中心としたがん患者とその家族計 1000 組を対象に、日本初の大規模対面調査が始まった。がん患者の高齢化で家族に新たな負担や不安が生じている状況を受け、患者と家族双方の体や心、暮らしの問題を総合的に調べる。超高齢時代 のがん患者と家族の支援ノウハウを確立する方針だ。……］

g10 歳男子　「投げる力」低下　（東京朝刊・ 2014. 10. 13）

［10 歳男子のソフトボール投げの記録が、1964 年と比較して 6 メートルも 低下していることが、文部科学省が体育の日を前に 12 日公表した 2013 年実施の「体力・運動能力調査」から分かった。50 年の間に身長など体格は向上傾 向で、比較では反復横とびの成績は伸びていたが、男子の「投げる力」は他の種目と比べても目立って落ちた。……］

グループ(3)の用例を記事本文と照らし合わせてみると、見出しを止める動作性名詞(3a)の「増加」、(3b)の「拡大」、(3c)の「集中」、(3d)の「検討」、(3e)の「輸出」、(3f)の「調査」、(3g)「低下」などは、それぞれ記事本文の下線を引いているところの「～土地が増えている」、「～全米の主要都市に広がっている」、「～八木地区の被害が特に大きく、死者 37 人、行方不明者が 25 人に上っている」、「～協定の締結を検討している」、「～中国から日本に大量に輸入されている」、「～計 1000 組を対象に、日本初の大規模対面調査が始まった」、「～低下している」と対応しているので、容易に分かるように、これらの用例の見出しを止める動作性名詞が関与する事象は、すべて既に始まってはいるが、今も続いている事態、本稿で「進行」(状態や進行相)と名づけものを表している。

その中、例(3a)の見出しに現れている「増加」という言葉は、記事本文では同じ意味の和語「増える」という言葉が使われている。(3b)も同じように、見出しに現れている「拡大」という言葉は、記事本文では同じ意味の和語「広がる」という言葉が使われている。また、例(3c)の見出しに現れている「集中」という言葉は、記事本文にはそれに対応する言葉がない。見出しの「集中」は「～八木地区の被害が特に大きく、死者 37 人、行方不

明者が 25 人に上っている」という事象のまとめる言葉になっている。

以上で分かるように、例(1)の a～g のすべての例は既に完了した事象について述べられている。つまり例(1)の見出しを止める動作性名詞「発見」、「決定」、「連覇」、「閉鎖」、「表明」、「完了」、「死亡」などはすべて「既定」を表わしている。

それに対して、例(2)の a～g のすべての例の見出しを止める動作性名詞「充実」、「下げ」、「緩和」、「要請」、「打ち切り」、「会見」、「創出」などは、すべて「予定」を表わしている。これは「へ」で止める見出しと同じである。ただ、その中で、例(2f)には、「あす」という未来を表す時の成分が付加されていることには、注目しておいてよい。

また、例(3)の a～g のすべての例の見出しを止める動作性名詞「増加」、「拡大」、「集中」、「検討」、「輸出」、「調査」、「低下」は、すべて「進行」(状態や進行相)を表わしている。

まとめると、動作性名詞だけで止める場合は「予定」、「既定」または「進行」、いずれも表わすことができる。それに対して、「動作性名詞＋へ」で止める場合は「予定」であり、「既定」ではない。ここに両者の大きな違いがある。

5. まとめ

本節では、通常の文の格助詞「へ」の使い方との比較、そして「動作性名詞＋へ」で止める見出しと動作性名詞だけで止める見出しとの比較を通し、用例をあげながら、見出しを止める「へ」の使い方を明らかにした。通常の場合、「へ」の基本的な使い方は方向を表す。それに対して、見出しを止める「へ」の使い方は豊かになる。「へ」の意味役割はその前に現れる語に関わっている。見出しでよく使われる使われ方としては、未来性や予定性などを意味するものがある。「へ」で終わる見出しの多さと通常の文の格助詞「へ」が持っていない使われ方を、見出しではしていることが、見出しの大きな特徴だといえる。「へ」なしの動作性名詞止めでは、「予定」、「既定」または「進行」、いずれも表わすことができるが、「動作性名詞＋へ」は「予定」しか表わせない。これが動作性名詞止めと「動作性名詞＋へ」止めの違いである。

第二節　「に」で終わる新聞見出し

第一節では、助詞止めの中で一番多い割合を占めている「へ」止めの見出しについて検討した。本節[24]では、今回考察で、助詞止めの中で二番目の割合を占める「に」止めの見出しについて検討する。

1.　はじめに

第三章の表 3-3 ・図 3-3 に示されているように、2014 年一年分の一面の 181 本の助詞止め見出しのうち、「に」で止める見出しは 49 本であり、助詞止めの二位を占めている。本節はこの見出しを止める格助詞「に」の特徴を探ってみたい。

2.　先行研究とその問題点

先行研究として、野田(2006)と李(2008)があげられる。

野田(2006)では、見出し末における格助詞及びとりたて助詞の特徴が論じられ、見出し末の「に」の特徴について、次のように指摘している。

> 「に」の前に来る語はさまざまであるが、用法としては、変化の結果や到達点など、「に」の前の事物へ向かう方向性を持つものがほとんどである。「[数]＋{人・社・件・歳・％・位・円・ドル・倍}」(＋～以上・～前後・～台・～台前半・～台後半)＋に」の形で、その数値に変化すること、達することを表す 465 例あった。
>
> 数字を含まない例でも、変化の結果を表すものが多い。本文に「に」＋「見出しで省略されていると思われる述語」が現れない例は多い。なんらかの変化の方向を「に」よって簡潔に示すのだと思われる。
>
> 野田(2006：436－437)による

以上のように、野田(2006)は「に」の前に来る語はさまざまであるが、用法としては、多数の変化の結果や到達点など表すものがほとんどであるということを指摘した。しかしながら、筆者が今回考察した「449 保育所　4 階以上に」や「休眠預金　公益活動に」や「日米野球 11 月に」のような存在・出現する場所や目的や時点などを表すものに触れて

いない。

また、李(2008)はテンスの視点から、格助詞「へ」と「に」で終わる新聞記事の見出しを分析し、「予定」を表す場合には、見出しの文末に「へ」を使い、「既成」を表す場合には、見出しの文末に「に」を使う傾向があるという結論に達している。しかし、筆者の今回の考察した結果、「に」で終わる見出しの 49 例の内、「既定」を表すものは 13 例しかなかった。これは李(2008)の結論とおおきな違いが出ている。

3. 通常の場合の格助詞「に」の用法

新聞見出し末の格助詞「に」の用法を明らかにするために、まず、通常の場合の格助詞「に」の用法を見てみよう。

国立国語研究所(1951)では、格助詞「に」の用法について次のように述べている。

①動作・作用の行われる空間的な場所の定位・位置を示す。いわば、事物の存在する場所。また、事物を存在させる場所。

○二人が、三四日、たいざいするつまりの、みづうみ館は、その湖のすぐそばの、右がはに、あった。(文, 7, 80)

○その頃は、その女も『あね』芸者も、下諏訪に、ゐた。(文, 7, 80)

②尊敬の意を表すべき主語につける。(「～には」「～におかせられては」などの形)

○天皇陛下には、午前十時三十分、皇居を御出発。(資料外)

③動作・作用の行われる抽象的な場所の定位を示す。①参照。

○すくなくともベルリン封鎖解除に関するソ連の態度の急変には、そうした判断による意図が蔵されているだろう。(東, 5. 7, Ⅰ)

○～, 予算面には, この補給金の形でのみ出ていた。(エコ, 5. 11, 10)

④動作・作用の行われる時・場合を示す。

(イ)時。

○一九四七年九月にアメリカで封切以来、興行成績のベスト・テンに入った喜劇である。(映, 6, 12)

(ロ)場合・事態

○～、普通施肥料の場合には逆に正方形植がよい結果を得てゐる。(農, 6, 25)

⑤割合・割当の基礎を示す。

○これを一定速度(気象台現用のものでは12分に1回転)で回転させるもので～(科, 5, 37)

⑥動作・作用の到達する地点・状態。

(イ)到達点・行き着くところ(時・人なども含めて)・方向。

○広川民自党幹事長は十九日朝大阪から岡山に着いたが, ～(朝, 6. 20, Ⅰ)

(ロ)成り行く状態・結果。

○～中央の対外策がどのようなものになるか、非常に注目を要するものがある。(東, 5. 7, Ⅰ)

(ハ)変化・帰着させる状態。

○慣れてきたら、初め一さじくらい御飯粒を入れておまじりにし、粒の量を徐々に増やして, ～(婦友, 6, 86)

⑦動作・作用の向けられる対象の事物。

(人を目あての動作・作用の相手)

○中共上海軍事管制委員会のスポークスマンは四日午後外国船出入問題について記者団に次の如く言明した。(東, 6. 6, Ⅰ)

(事物に向けられる動作・作用の対象)

○～輝線の長さは　偏向板に加わる電圧に比例するので～(科, 5, 37)

⑧動作・作用がなんのために行われる(存在する)かの目的を示す。

(イ)動詞終止形(動作性名詞を含む)につく場合。

○われわれは社会の現実と、これを改善するに必要な手段と条件について、～(世, 4, 22)

(ロ)動詞連用形(動作性名詞を含む)につく場合。

○その晩女判事のマーガレットが, 彼女を愛している地方検事のトミイ・チェンバレンと遊びに出かけた後で、～(映, 6, 12)

⑨動作・作用のよりどころ・由来。

(イ)動作・作用の手段としてのよりどころ。

○～、且つ、前掲の最近三カ年間における新弁護士の学歴, 経歴等の程度に鑑みる

も，この標準を維持すべく、～(法，5，51)

(ロ)動作・状態を構成する内容。

○～、一個の人間が、殊に青春にとむ若者または高位高官にあった老人が死刑の宣言を受け、万歳三唱して絞首台にのぼってゆく――(世，5，39)

(ハ)比較の基準となる事物。

○～、大衆の一部の人々には新聞記事に似たこの文体が～(世、5、39)

(ニ)評価の基準となる事物。(「にとって」の意)

○～、鉄その他赤ちゃんの発育に必要な成分が不足していくるためと、～(婦友、6，86)

(ホ)影響をこうむり、作用を受ける場合の、影響・作用の由来・出どころ。

○思い出そうとすると、ぼうとして、けだるさにとられてしまうのです。(ひま，6，52)

(ヘ)動機・きっかけ。

○これをわらって見ていたガン吉とダンちゃん、あまりのこっけいさに、こんどはかわいそうになりました。(野少、6、44)

(ト)名目・理由(「として」の意)

○～ガン吉は、内野ホームランという珍妙なてがらをたて、ホームラン賞にラクダをもらいましたが、～(野、6、41)

⑩動作・作用・状態の行われ方・あり方。

○～ニ少年の体はつばめのように左右に飛び違って、～(キン、732)

国立国語研究所(1951：135－151)による

また、日本語記述文法研究会(2009)では、格助詞「に」の用法について次の表 4-2 のようにまとめている。

表 4-2　格助詞「に」の用法

用法		例文
着点	移動の着点	子供が学校に行く。(到達点)
		糸くずが服につく。(接触点)

	変化の結果	信号が青に変わる。
相手	動作の相手	隣の人に話かける。
	授与の相手	おばあさんが孫に絵本をやる。
	受身的動作の相手	犯人が警察に捕まった。
	基準としての相手	体格が大人にまさる。
場所	存在の場所	机の上に本がある。
	出現の場所	あごに髭が生える。
起因・根拠	感情・感覚の起因	職員の横柄な態度に腹を立てる。
	継続的状態の起因	潮風に帆が揺れていた。
主体	状態の主体	私には大きな夢がある。(所有の主体)
		この子に専門書が読めるはずがない。(能力の主体)
		私には弟の成功が心から嬉しい。(心的状態の主体)
対象	動作の対象	親に逆らう。
	心的活動の対象	先輩にあこがれる。
手段	内容物	新入生の顔は希望にあふれている。
	付着物	全身が泥にまみれる。
時	時点	1 時に事務所に来てください。(時名詞)
		午前中に用事を済ませた。(期間名詞)
領域	認識の成り立つ領域	私には、山本さんの意見は刺激的だった。
目的	移動の目的	母が買い物に行く。
役割	名目	お礼に手紙を書く。
割合		1 週間に 2 日は酒を飲んでいる。

日本語記述文法研究会(2009：5)「格助詞と用法の対応」による

そして、同書(2009)では、「に」について、次のように述べている。

「に」は、着点を表すもっとも基本的な格助詞である。「に」の着点としての意味には, 移動の着点と変化の結果がある。

事物がある位置から別の位置へと移動するとき、移動先を到達点という。

述語が「行く」「来る」「着く」「入る」「落ちる」「向かう」などの位置変化を表す自動詞である場合、「に」は主体の移動の到達点を表す。

・子供が学校に行く。

・電車が駅に着く。

・小石が谷底に落ちる。

・船が港に向かう。

「に」には、変化の結果(変化後の状態)を表す用法がある。変化の結果は、変化の前から後ろへという方向性がある点で、着点的な意味と関わる。

「変わる」「育つ」「なる」「決まる」などの自動詞の場合、「に」は主体の変化後の状態を表す。

・信号が青に変わる。

・教え子が強い選手に育つ。

変化の前後が想定されないものも、変化の結果を表す「に」の用法の延長線上にある。

「変える」「決める」「育てる」「する」などの他動詞の場合、「に」は対象の変化後の状態を表す。

日本語記述文法研究会（2009：57-59）

以上から分かるように、通常の場合、格助詞「に」の中心的な使い方は着点を表すが、中心的でない使い方もよく使われており、全部で10種類以上もあった。このような10種類以上の使い方を持っている格助詞「に」で見出しを止める時の特徴はなんであろうか。あるいは、見出しを止める「に」の使い方はどうであろうか。つぎに、見出し末の「に」の使い方について考察していきたい。

4. 見出し末の「に」の用法

3.で普通の場合の「に」の用法を見てきたが、見出し末の「に」の使い方はどうであろうか。以下では、見出し末の「に」の用法を明らかにしたい。

4.1 「に」の前に現れる語の分類およびその用法

本節では、野田(2006)と同じ、「に」の前に現れる語を注目し、その語についておおきく分類してみると、次の表4-3のようになる。

表4-3　「に」の前に現れる語の分類

分類	「に」前に現れる語の例	本数
場所名詞	4階以上	1
時名詞	16日、上旬、来月1日、11月、今夏	5
数量名詞	0.05%、3分の1、66人、8年、140路線、170都市	15
物名詞	労働力、指針、都市、9月軸、企業、活動、認定制、個人被曝量、公益活動	9
様名詞	コンパクト、可能、多彩、謙虚、集中的、可能、限定的、一つ	19
合計		49

次は以上の分類に基づいて、見出しの実例を挙げ、本文と照らし合わせながら、「に」の特徴を明らかにしたい。

＜場所名詞＋に＞

(1)449保育所　4階以上に　(東京朝刊・2014.09.27)

［調査は都道府県と政令市、中核市計110自治体に対し7～8月に実施、4階以上にある保育所の数を尋ねた。67自治体に計449か所あり、都道府県別では東京都が117か所で最多。大阪府58か所、神奈川県48か所、愛知県32か所、福岡県23か所など、大都市部に集中している。……］

例(1)の「4階以上」は場所名詞の例である。

例(1)の見出しを記事本文と照らし合わせてみると、記事本文には「4階以上にある保育所の数を尋ねた。67自治体に計449か所あり」と書かれているので、例(1)の見出しでは「449保育所が4階以上にある」のように意味解釈ができるだろう。

＜時名詞＋に＞

(2)a 日朝協議　来月１日に　（東京朝刊・ 2014.06.26）

［岸田外相は25 日、日本と北朝鮮両政府の外務省局長級による政府間協議を、来月１日に中国・北京で開くことを明らかにした。外務省で記者団に語った。5 月末の日朝協議で北朝鮮が設置を約束した日本人拉致被害者らの再調査を目的とした「特別調査委員会」の組織や責任者などについて説明を受ける。……］

b 川内原発「合格」　16 日に　（東京朝刊・ 2014.07.08）

［原子力規制委員会は7 日、原子力発電所の再稼働の前提となる安全審査で、九州電力川内（せんだい）原発 1、2 号機（鹿児島県）の事実上の合格証となる審査書案を 16 日に示す方針を決めた。当初 9 日を目指していたが、書類をまとめる作業に時間がかかり、1 週間延期する。……］

c 拉致報告　来月上旬に　（東京朝刊・ 2014.08.05）

［日本人拉致問題などに関し、「特別調査委員会」を設置した北朝鮮政府から日本政府への１回目の報告が、9 月上旬となる見通しであることが 4 日、わかった。日本政府が、拉致被害者で未帰国の 12 人に加え、特定失踪者で拉致被害者の可能性が高いとみている約 30 人の情報を北朝鮮に伝え、優先して調査結果を回答するよう求めていることも明らかとなった。……］

d 日米野球 11 月に　（東京朝刊・ 2014.06.11）

［日本野球機構（ＮＰＢ）と米大リーグ機構（ＭＬＢ）、大リーグ選手会、読売新聞社は 10 日、日本代表「侍ジャパン」とＭＬＢオールスターチームが対戦する「日米野球 2014」（仮称）の 5 試合を 11 月 12〜18 日に、京セラドーム大阪、東京ドーム、札幌ドームで開催すると発表した。日米野球が開催されるのは 06 年以来。……］

e 憲法新解釈　今夏に　（東京朝刊・ 2014.02.22）

［政府は 21 日、集団的自衛権の行使を可能にする憲法解釈見直しについて、現

在開かれている通常国会で重要法案の審議を終えた後、夏頃に新たな解釈の閣議決定を目指す方針を固めた。決定が遅くなれば、自衛隊と米軍の役割分担を定めた「日米防衛協力の指針(ガイドライン)」の17年ぶりの改定作業や、国民からの理解を得る面でマイナスが大きいと判断した。……]

例(2)aの「来月1日」、bの「16日」、cの「来月上旬」、dの「11月」、eの「今夏」は、時名詞の例である。

例(2)の新聞見出しを記事本文と照らし合わせてみると、次のようになる。

例(2a)の記事本文には、「日本と北朝鮮両政府の外務省局長級による政府間協議を、来月1日に中国・北京で開くことを明らかにした」と書かれているので、見出しで使われている「日朝協議」は、「日本と北朝鮮両政府の外務省局長級による政府間協議」の簡略の表現であり、例(2a)では「日朝協議が来月1日に開く」、あるいは「来月1日に日朝協議が開く」のように意味解釈できるだろう。

例(2b)の記事本文には、「九州電力川内(せんだい)原発1、2号機(鹿児島県)の事実上の合格証となる審査書案を16日に示す方針を決めた」と書かれており、見出しの「川内原発『合格』」という表現は、その記事本文に現れる「九州電力川内(せんだい)原発1、2号機(鹿児島県)の事実上の合格証となる審査書案」のコンパクトな表現となり、例(2b)では「川内原発の『合格』を16日に発表する・示す」、あるいは、「16日に川内原発の『合格』を発表する・示す」のように意味解釈ができるだろう。

例(2c)の記事本文には、「日本人拉致問題などに関し、『特別調査委員会』を設置した北朝鮮政府から日本政府への1回目の報告が、9月上旬となる見通しであることが4日、わかった。」と書かれており、見出しの「拉致報告」という言葉は「日本人拉致問題などに関し、『特別調査委員会』を設置した北朝鮮政府から日本政府への1回目の報告」のまとめた表現であり、例(2c)では「拉致報告が来月上旬になる」、あるいは、「来月上旬に拉致報告が上げられる」の意味解釈ができるだろう。

例(2d)の記事本文には、「日本代表『侍ジャパン』とＭＬＢオールスターチームが対戦する『日米野球2014』(仮称)の5試合を11月12〜18日に、京セラドーム大阪、東京ドー

ム、札幌ドームで開催すると発表した。」と書かれており、見出しに現れる「日米野球」という言葉は、「日本代表「侍ジャパン」とＭＬＢオールスターチームが対戦する『日米野球 2014』(仮称)の 5 試合」の簡略的な表現であり、例(2d)では「日米野球の試合が 11 月に開催される」、あるいは、「11 月に日米野球の試合が開催される」のように意味解釈ができるだろう。

例(2e)の記事本文には、「政府は 21 日、集団的自衛権の行使を可能にする憲法解釈見直しについて、現在開かれている通常国会で重要法案の審議を終えた後、夏頃に新たな解釈の閣議決定を目指す方針を固めた。」と書かれており、見出しで使われている「憲法新解釈」という表現は、その記事本文に書かれている「集団的自衛権の行使を可能にする憲法解釈見直しについて、現在開かれている通常国会で重要法案の審議を終えた後、夏頃に新たな解釈の閣議決定」の簡略なまとめ表現であり、例(2e)では「憲法新解釈が今夏になる」、あるいは、「今夏に憲法新解釈を発表する・提示する」のように意味解釈ができるだろう。

以上のように、本文に現れる時成分が出来事の前の部分に現れるのが普通であるのに対して、新聞見出しでは、まず出来事を話題として提示し、そして、時成分が最後に来るのがほとんどである。普通の叙述より、新聞見出しに現れる時成分が読み手にとっては重要な情報であると考えられるだろう。時成分が最後にくるのが新聞見出しの大きな特徴だといえるだろう。

＜数量名詞＋に＞

(3)a ユーロ圏利下げ 0.05%に　(東京朝刊・ 2014.09.05)

［ベルリン＝五十棲忠史】欧州中央銀行(ＥＣＢ◎)は 4 日、フランクフルトで定例理事会を開き、ユーロ圏 18 か国に適用する政策金利を、これまでの 0 ・ 15%から、過去最低の 0 ・ 05%に引き下げることを決めた。10 日から適用する。利下げは 6 月以来、3 か月ぶりとなる。……］

b 広島土砂災害　死者 66 人に　(東京朝刊・ 2014.08.27)

［広島市北部の豪雨に伴う土砂災害の死者は 6 人増え、26 日午後 7 時現在、66 人(うち 53 人の身元が判明)、行方不明者 21 人、重軽傷者 43 人となった。東西約 7 キロ、

南北約15キロの狭い範囲で多数の土石流が発生した災害は、27日で発生から1週間。約15万人に避難勧告・指示が出されたままで、学校などの避難所では約650世帯1400人余りが不自由な生活を続けている。……]

c 公益法人3分の1に　(東京朝刊・ 2014.05.14)

[2008年から始まった公益法人改革で、2万4317あった公益法人が約3分の1の9204に減ったことが分かった。既存の約1万5000法人が新公益法人に移行しなかった。新公益法人の認定要件が厳しくなり、公益性の低い法人が移行を断念するなど改革の成果は出ている。ただ、事務手続きが煩雑になったために、公益性の高い小規模団体が申請を見送った例もあり、内閣府で手続きの見直しを検討している。……]

d 外国人技能実習　計8年に　(東京朝刊・ 2014.03.28)

[政府は、人手不足が深刻な建設業で外国人労働者の受け入れを増やすため、2015年度から外国人技能実習制度を拡大させる方針を固めた。実習生の在留期間について、現行の実習期間(最長3年)に加え、法相が指定する「特定活動」という資格で最長2年の在留延長を認め、建設現場で働けるようにするのが柱だ。いったん帰国後、再来日して技能向上を目指す外国人の在留も認め、実習制度に基づく在留期間を通算8年まで延ばせる仕組みとする方針だ。……]

e 羽田・成田　国際140路線に　(東京朝刊・ 2014.08.22)

[国土交通省の有識者会議は21日、東京五輪・パラリンピックが開かれる2020年に向け、交通網を充実させる「交通政策基本計画」の原案をまとめた。羽田・成田両空港を発着する国際線が結ぶ都市の数を、現在の88から、アジアを中心に20年までに140程度まで増やす。香港やシンガポール、ソウルと肩を並べることを目指す。外国人旅行者を20年に2000万人まで増やす狙いだ。……]

f 米抗議デモ　170都市に　(東京朝刊・ 2014.11.27)

[【ファーガソン(米中部ミズーリ州)＝加藤賢治、ワシントン＝今井隆】米ミズーリ州で今年8月に起こった黒人青年射殺事件で、白人警官の不起訴処分に対する抗議

デモは25日、全米に拡大した。米ＣＮＮによると、デモはニューヨークなど170都市以上で行われ、カリフォルニア州オークランドでは、商店の破壊や略奪が起こり、テキサス州ダラスでは5人のデモ参加者が逮捕された。……]

例(3)aの「0.05%」、bの「66人」、cの「3分の1」、dの「8年」、eの「140路線」、fの「170都市」は、数量名詞の例である。

例(3)の新聞見出しを記事本文と照らし合わせてみると、次のようになる。

例(3a)の記事本文には、「ユーロ圏18か国に適用する政策金利を、これまでの0・15%から、過去最低の0・05%に引き下げることを決めた。」と書かれており、見出しで使われている「利下げ」という言葉は記事本文の「政策金利を引き下げる」のコンパクトな表現であり、例(3a)では「ユーロ圏利下げが0.05%になる」、あるいは、「ユーロ圏0.05%に利下げする」のように意味解釈ができるだろう。

例(3b)の記事本文には、「広島市北部の豪雨に伴う土砂災害の死者は6人増え、26日午後7時現在、66人(うち53人の身元が判明)、行方不明者21人、重軽傷者43人となった。」と書かれており、見出しでは「広島土砂災害」というコンパクトな言葉が使われており、それは後ろに来る「死者66人に(なった)」の出来事の場面、あるいは、「死者66人に(なった)」の原因である。例(3b)では「広島土砂災害で死者66人になった」のように意味解釈ができるだろう。

例(3c)の記事本文には、「2008年から始まった公益法人改革で、2万4317あった公益法人が約3分の1の9204に減ったことが分かった。」と書かれており、例(3c)公益法人改革の結果として「公益法人が3分の1になった・減った」のように意味解釈ができるだろう。

例(3d)の記事本文には、「～2015年度から外国人技能実習制度を拡大させる方針を固めた。～実習制度に基づく在留期間を通算8年まで延ばせる仕組みとする方針だ。」と書かれており、例(3d)は、「外国人技能実習が計8年になる」、あるいは「外国人技能実習制度により、在留期間が計8年に延長する」のように意味解釈ができるだろう。見出しには「在留期間」という言葉が現れていないが、常識の力を借りて、「外国人技能実習」と「計8年」

の前後意味関係で意味を読み取ることがさほど難しくないだろう。

例(3e)の記事本文には、「羽田・成田両空港を発着する国際線が結ぶ都市の数を、現在の88から、アジアを中心に20年までに140程度まで増やす。」と書かれており、そして、「羽田・成田」と言えば、「空港」と言う言葉が付かなくても、常識として、誰でも羽田空港・成田空港のことを指していることが分かる。特に後ろに「国際140線路」という言葉が来るので、例(3e)では「羽田・成田両空港が140国際線路になる・増える」のように意味を読み取るだろう。

例(3f)の記事本文には、「米ミズーリ州で今年8月に起こった黒人青年射殺事件で、白人警官の不起訴処分に対する抗議デモは25日、全米に拡大した。米ＣＮＮによると、デモはニューヨークなど170都市以上で行われ、～」と書かれており、「米国での抗議デモが170年になった・拡大している」のように意味が読み取れるだろう。

＜物名詞＋に＞

(4)a ママ世代74%　労働力に[25]　(東京朝刊・2014.09.15)

［働く子育て世代の女性が増えている。25～44歳の女性のうち、現在働いている人と求職中の人の合計が全体に占める割合を示す「労働力率」は7月末で74.2%となり、単月ベースでこれまでで最も高い水準になった。働いている人の割合を示す「就業率」も71.0%と前年同月から0.2ポイント上昇した。……］

b 集団的自衛権　防衛指針に　(東京朝刊・2014.10.04)

［米両政府が8日に公表する新しい日米防衛協力の指針(ガイドライン)の中間報告に、「日本と密接な関係にある国が攻撃された場合」に日米が連携して対処するなどの表現で、集団的自衛権を限定的に行使する場合の日米協力を検討していく方針が盛り込まれることがわかった。政府関係者が3日、明らかにした。7月に閣議決定された新たな政府見解を踏まえたもので、具体的な協力内容は年末に予定する最終報告までにまとめる。……］

c 特許権　社員から企業に　(東京朝刊・2014.10.17)

「政府は、社員が仕事で行った発明(職務発明)の特許権を「会社のもの」とする代

わりに、社員に金銭的な報酬や昇進などの報奨を出す社内規定を設けるよう企業に義務づける方針を固めた。企業が社員の成果に報いることを明確にして発明意欲を高める狙いだ。発明の「対価」を巡る企業と社員間の訴訟を減らすことも目指す。……]

d 遺伝子ビジネス　認定制に　(東京朝刊・ 2014.01.08)

[病気にかかる危険性や生まれつきの才能を判定する「遺伝子検査ビジネス」が急増していることから、経済産業省は優良事業者の認定制度作りに乗り出す。科学的根拠が疑問視される検査があるほか、検査を中国などの海外業者に委託するケースもあり、「究極の個人情報」が大量に海外流出する恐れが出ているためだ。月内にも厚生労働省がオブザーバー参加する研究会を設立し、ルール作りを始める。……]

例(4)a の「労働力」、b の「防衛指針」、c の「企業」、d の「認定制」は、物名詞の例である。

例(4)の見出しを記事本文と照らし合わせてみると、次のようになる。

例(4a)の「ママ世代」という言葉は記事本文の「働く子育て世代の女性」という言葉に相当する。記事本文には、「働く子育て世代の女性が増えている。25〜44 歳の女性のうち、現在働いている人と求職中の人の合計が全体に占める割合を示す「労働力率」は 7 月末で 74・2%となり、単月ベースでこれまでで最も高い水準になった。」と書いてあるので、例(4a)では「ママ世代の 74%が労働力になった」のように意味が読み取れるだろう。

例(4b)の記事本文には、「米両政府が 8 日に公表する新しい日米防衛協力の指針(ガイドライン)の中間報告に、「日本と密接な関係にある国が攻撃された場合」に日米が連携して対処するなどの表現で、集団的自衛権を限定的に行使する場合の日米協力を検討していく方針が盛り込まれることがわかった。」と書かれており、例(4b)では「集団的自衛権を使うのが防衛指針になる」のように意味解釈ができるだろう。

例(4c)の記事本文には、「政府は、社員が仕事で行った発明(職務発明)の特許権を『会社のもの』とする代わりに、社員に金銭的な報酬や昇進などの報奨を出す社内規定を設けるよう企業に義務づける方針を固めた。」と書かれているので、例(4c)では「特許権が社員か

ら企業に移る」のように意味を読み取ることができるだろう。

例(4d)の記事本文には、「病気にかかる危険性や生まれつきの才能を判定する「遺伝子検査ビジネス」が急増していることから、経済産業省は優良事業者の認定制度作りに乗り出す。」と書かれており、見出しの「遺伝子ビジネス」は記事本文の中の「遺伝子検査ビジネス」と同じものを指し、例(4d)では「遺伝子ビジネスが認定製になる」のように意味解釈ができるだろう。

＜様名詞＋に＞

(5)a 米軍に弾薬提供　可能に　(東京朝刊・ 2014.08.20)

［政府は、9 月にまとめる予定の日米防衛協力の指針(ガイドライン)改定の中間報告に、日本が自衛権を行使する前の周辺事態の際などに米軍への武器・弾薬提供や戦闘機への空中給油を可能にするといった対米支援活動の拡大を盛り込む方針を固め、米政府と最終調整に入った。現行のガイドラインに基づいて作られた周辺事態法はこれらの活動を認めていないが、7 月に閣議決定した安全保障に関する新たな政府見解で自衛隊の後方支援の拡大が打ち出されたのを受けたものだ。……］

b 日米同盟「不可分」に　(東京朝刊・ 2014.11.27)

［10 日に日中首脳会談が行われ、日中関係は正常化に向かっている。しかし、米国との「不可分」の関係によって、日本の安全を高めつつ、中国との「互恵」関係を進めることを忘れてはならない。……］

c 特設面　多彩に　(東京朝刊・ 2014.06.07)

［サッカーのワールドカップ(W杯)ブラジル大会が 12 日(日本時間 13 日)に開幕します。読売新聞社は連日、朝刊、夕刊に特設面を設け、1 面、社会面、地域版などを含めて詳しく報道します。

専門家の視点から、元西ドイツ代表でＪ1 浦和監督も務めたギド・ブッフバルト氏、元日本代表の森島寛晃氏、斉藤俊秀氏らがコラムを執筆するほか、豊富なデータを活用して日本代表のプレーを分析するなど、試合の楽しみ方が広がる紙面をお届けします。］

d 集団自衛権協議「集中的に」　（東京朝刊・ 2014.06.06）

［【ブリュッセル＝中島健太郎】安倍首相は5日午後（日本時間同日夜）、ブリュッセル市内で内外記者会見を行い、集団的自衛権行使の憲法解釈見直しを巡る与党協議について、「集中的、徹底的に進めていきたい」と述べ、自民、公明両党に協議の加速を求めた。……］

e 行使容認　限定的に　（東京朝刊・ 2014.03.29）

［安倍首相は28日、自民党の高村副総裁と首相官邸で会談し、集団的自衛権の行使を可能にする憲法解釈見直しで、日本の存立のために必要な自衛権の行使は認められるとした砂川事件を巡る1959年の最高裁判決に基づき、集団的自衛権の行使を限定的に容認する考えで一致した。外国領土での戦争に加わるといった典型的な集団的自衛権を容認対象から外すことで、見直しに慎重な公明党の理解を得る狙いがある。……］

f 思い一つに　（東京朝刊・ 2014.10.24）

［68人が犠牲になった新潟県中越地震から10年を迎えた23日、旧山古志村（現長岡市）の山古志体育館では追悼式典が行われた。地震が起きた午後5時56分に合わせて復興を願う「希望の鐘」を鳴らし、集まった約500人が黙とうして犠牲者を悼んだ。会場の駐車場には当時の村の人口と同じ数の2167個のキャンドルがともされ、世帯数と同じ690個の白い風船を空に放って、思いを一つにした＝写真、佐々木紀明撮影＝。］

例(5)aの「可能」、bの「不可分」、cの「多彩」、dの「集中的」、eの「限定的」、fの「一つ」は、様名詞の例である。

例(5)の見出しを本文と照らし合わせてみると、次のようになる。

例(5a)の記事本文には、「日本が自衛権を行使する前の周辺事態の際などに米軍への武

器・弾薬提供や戦闘機への空中給油を可能にするといった対米支援活動の拡大を盛り込む方針を固め、米政府と最終調整に入った」と書かれており、例(5a)では「米軍に弾薬提供が可能になる」のように意味が読み取れるだろう。

例(5b)の記事本文には見出しに現れている「日米同盟」という言葉そのものは出てこないが、記事内容「米国との『不可分』の関係によって、日本の安全を高めつつ、中国との『互恵』関係を進めることを忘れてはならない。」により、「日米同盟」は日米の関係を表す表現であることが分かる。実は、記事本文見なくてもこれぐらいの常識はだれでも持っているだろう。したがって、例(5b)では「日米同盟が『不可分』になる」のように意味が読み取れるだろう。

例(5c)の記事本文には、「読売新聞社は連日、朝刊、夕刊に特設面を設け、1面、社会面、地域版などを含めて詳しく報道します。～ほか、豊富なデータを活用して日本代表のプレーを分析するなど、試合の楽しみ方が広がる紙面をお届けします。］と書かれており、見出しに現れる「多彩」という言葉は本文には出てこないが、本文内容のまとめた形で表現されているものであり、例(5c)では「特設面が多彩にする・なる」のように意味が読み取れるだろう。

例(5d)の記事本文には、「安倍首相は～、集団的自衛権行使の憲法解釈見直しを巡る与党協議について、「集中的、徹底的に進めていきたい」と述べ、～］と書かれており、見出しに現れる「集中的に」という言葉は安倍首相の発言の引用であり、安倍首相は政府を代表する人物であるので、例(5d)では「集団自衛権協議について集中的に進める」のように意味解釈ができるだろう。

例(5e)の記事本文には、「～集団的自衛権の行使を限定的に容認する考えで一致した」と書かれており、例(5e)では「(集団自衛権の)行使を限定的に容認する」、あるいは、「(集団自衛権の)行使容認は限定的となる」のように意味解釈ができるだろう。

例(5f)は、写真についての表題的な見出しであり、新潟県中越地震の追悼式典に関する場面描写であり、書き手のそれについての見方、あるいは評価的なものも見られると考えられる。本文に書かれているように「思いを一つにした」と解釈できる。

以上のように見出しを本文と照らし合わせてみると、次のことが指摘できるだろう。見出し末の「に」の使い方は「に」の前に現れる語に深く関わっている。場所名詞が来る場

合は、その前の名詞句が表す事物の存在・出現する場所を表す。時名詞が来る場合は、その前の名詞句が表す出来事の行われる時点を表す。あるいは、前の名詞句で表す出来事の行う時間の着点とも言える。数量名詞が来る場合は、その数量に変化する／変化したことを表し、変化の結果の一種とも言える。物名詞や様名詞が来る場合は、物事や様態の変化の結果を表すのがほとんどである。

3.で述べたように、通常の文では、格助詞「に」の使い方は10種類以上もある。それに対して、見出しでは圧倒的に多いのが、「に」の中心的な使い方である。これは、見出しの特徴である。

4.2　例外的な使い方

今回の考察では、二つの例外的な用例も見られた。次に、その用例を掲げる。

(1)休眠預金　公益活動に　（東京朝刊・2014.01.20）
(2)除染基準　個人被曝量に　（東京朝刊・2014.08.01）

この二つの例の「に」の前に現れる語「公益活動」、「個人被爆量」いずれも物名詞であるが[26]、変化の結果を表すものではない。しかし、「に」の前の名詞とその前の名詞句との組み合わせで、意味が十分読み取れる。

まず、例(1)を見てみよう。例(1)「公益活動に」を見たら、「公益活動に取り組む」や「公益活動に参加する」など、のように解釈されやすいが、その前の「休眠預金」を見たら、「休眠預金」と「公益活動」の組み合わせで、そして「に」の意味・機能によって「休眠預金を公益活動に使う」の意味解釈が簡単にできるだろう。

また、例(2)「に」の前に来るのが「個人被爆量」という物名詞である。「個人被爆量に」だけを見たら、意味解釈しにくいが、もうちょっと前の「除染基準」と一緒に見たら、「～が～に基づく」という文型の力を借りて、「除染基準が個人被爆量に基づく」のように簡単に復元できる。

以上で分かるように、この二つの例の「に」は中心的な使い方ではないが、前の名詞句の組み合わせで、そして、「に」の統語機能によって、意味が簡単に読み取れる。

また、実は、4.1で取り上げた例(1)「449保育所　4階以上に」のような見出しも周辺

的なものだと思われる。新聞見出しはほとんど出来事やイベントについての報道だから、このような所在文が少ないと考えられる。要するに、見出し末の「に」の使い方は、ほとんど中心的である変化の結果を表すものである。

4.3　見出し末の「に」と本文の「と」

前に述べたように、野田(2006：437)は「本文に『に』＋『見出しで省略されていると思われる述語』が現れない例は多い」と指摘している。

今回考察した49本の「に」で終わる見出しを本文と照らし合わせてみると、見出しで省略されていると思われる述語が現れるのは33例であり、現れないのは16例であった。その述語が現れない16例は、「する／した」や「なる／なった」をつけると、十分意味が読み取れる。言い換えれば、見出しで省略されているのはほとんど「する／した」や「なる／なった」と考えられる。

また、本文で「と」を使いながらも、見出しで「に」を使う例もある。その例はすべて変化の結果を表す例であった。つまり、変化の結果を表す文で、述部がある表現の本文と述部がない表現の見出し末では、「に」と「と」の選択が異なる。

次の例を見てみよう。

(1)御嶽　死者54人に　(東京朝刊・ 2014.10.08)

［長野・岐阜県境にある御嶽山(おんたけさん)(3067メートル)の噴火で、長野県警、消防、陸上自衛隊などの合同救助隊は7日、台風18号の通過で中断した捜索を3日ぶりに再開し、山頂付近の尾根道「八丁ダルミ」周辺で心肺停止状態の3人を発見した。長野県警は全員の死亡を確認し、死者は計54人<u>となった</u>。3人のうち2人の身元が判明し、行方不明者は10人となった。7日の捜索は、438人を山頂周辺に投入。8日も態勢を維持して行う。……］

(2)拉致報告　来月上旬に　(東京朝刊・ 2014.08.05)

［日本人拉致問題などに関し、「特別調査委員会」を設置した北朝鮮政府から日本政府への1回目の報告が、<u>9月上旬となる</u>見通しであることが4日、わかった。日本

政府が、拉致被害者で未帰国の 12 人に加え、特定失踪者で拉致被害者の可能性が高いとみている約 30 人の情報を北朝鮮に伝え、優先して調査結果を回答するよう求めていることも明らかとなった。……]

(3)御嶽　死者 56 人に　(東京朝刊・ 2014. 10. 12)

[御嶽山(おんたけさん)(3067 メートル、長野・岐阜県境)の噴火で、警察と消防、陸上自衛隊の合同救助隊は 11 日、山頂にある御嶽神社奥社近くの崖で 2 人を発見、うち 1 人の死亡を確認した。噴火から 11 日で 2 週間が過ぎ、死者は 56 人になった。接近中の台風 19 号の影響に加え、降雪期も迫る。長野県災害対策本部は「残された時間は少ない」と、11 日はこれまでで最多の 552 人を山頂付近の捜索に投入した。……]

(4)日朝協議　来月 1 日に　(東京朝刊・ 2014. 06. 26)

[岸田外相は 25 日、日本と北朝鮮両政府の外務省局長級による政府間協議を、来月 1 日に中国・北京で開くことを明らかにした。外務省で記者団に語った。5 月末の日朝協議で北朝鮮が設置を約束した日本人拉致被害者らの再調査を目的とした「特別調査委員会」の組織や責任者などについて説明を受ける。……]

述語を伴う表現の本文では、変化の結果を表す場合は、例(1)(2)のように、「と」を使う場合もあれば、例(3)(4)のように、「に」を使う場合もある。しかしながら、格助詞で終わる表現の見出しの場合は「に」しか使えない。今回考察した結果、「に」で終わる見出しの 49 本のうち、(1)(2)のように、本文で「と」を使うのが 9 例であった。以下、その用例をいくつか掲げる。

(5)広島土砂災害　死者 66 人に　(東京朝刊・ 2014. 08. 27)

[広島市北部の豪雨に伴う土砂災害の死者は 6 人増え、26 日午後 7 時現在、66 人(うち 53 人の身元が判明)、行方不明者 21 人、重軽傷者 43 人となった。東西約 7 キロ、南北約 15 キロの狭い範囲で多数の土石流が発生した災害は、27 日で発生から 1 週間。約 15 万人に避難勧告・指示が出されたままで、学校などの避難所では約 650 世帯 1400

人余りが不自由な生活を続けている。……]

(6)韓国船沈没　死者24人に　(東京朝刊・ 2014.04.18)

[韓国政府の発表によると、乗客乗員475人のうち179人が救出され、死者24人、安否不明者272人となった。現場海域では船舶171隻、航空機29機などが出て捜索が続けられた。約520人の潜水士による船内捜索は速い潮流と悪天候のため難航している。……]

(7)御嶽山　死者51人に　(東京朝刊・ 2014.10.05)

[御嶽山(おんたけさん)(3067メートル、長野・岐阜県境)の噴火で、長野県警などの合同救助隊は4日、山頂周辺で心肺停止状態の4人を発見し、全員の死亡を確認した。死者はこれで51人となった。4日で噴火から1週間が過ぎたが、山頂周辺にはなお多くの行方不明者が残されているとみられる。御嶽山周辺は、台風の影響で5〜6日は雨の予報で、火山灰が多く降り積もった場所では土石流の発生が懸念される。……]

(8)補正予算3兆円超に　(東京朝刊・ 2014.12.18)

[政府は17日、景気下支えに向けた経済対策を柱とする2014年度補正予算案の規模を3兆円超とする方針を決めた。経済対策は、子供が3人以上いる家庭への支援、住宅ローンの優遇金利の拡充、地域商品券の発行促進などが柱となる。……]

(9)御嶽山　死者47人に　(東京朝刊・ 2014.10.02)

[長野、岐阜両県にまたがる御嶽山(おんたけさん)(3067メートル)の噴火で、長野県警などは1日、約40時間ぶりに捜索を再開、心肺停止状態で倒れていた遭難者35人を搬送し、全員の死亡を確認したと発表した。今回の噴火による死者は47人となり、火山災害の死者数としては、1991年と93年に計44人の死者・行方不明者を出した雲仙・普賢岳(長崎県)の火砕流被害を超え、戦後最悪の惨事となった。地元消防には、亡くなった47人を上回る数の行方不明者情報が寄せられており、捜索は2日もほぼ同じ態勢で継続する。……]

上の例(5)、例(6)、例(7)、例(8)、例(9)はいずれも、本文では「と」を使い、見出しでは「に」に置き換えられたものである。見出しと本文との照らし合わせを通し、本文での「と」と見出しでの「に」、両方とも変化の結果を表すということがわかった。同じ意味なのに、見出しにする場合はなぜ「と」を使わず、わざわざ「に」に置き換えられるのか。その疑問を解決するため、「に」と「と」のそれぞれの使い方を明らかにしなければならない。

3.で述べたように、「に」の中心的な意味としては「着点」を表す。「着点」には移動の着点と変化の結果がある。また、4.1で指摘したように、見出しでは圧倒的に多いのが、「に」のプロトタイプの使い方である。

それに対して、「と」のプロトタイプの意味としては動作の相手を表す。たとえば、「誰と話す」や、「友達と遊ぶ」など。

また、日本語文法研究記述会(2009)では、格助詞「と」について、次のように述べている。

> 変化の結果は、「と」で表すこともできる。変化の結果を表す「と」は、「に」に比べて、古い文体もしくは書き言葉的な表現である。
>
> ・氷が溶けて水となる。
>
> ・米をすりつぶして粉とする。
>
> ・長い議論の末、作戦は中止と決まった。
>
> 日本語文法研究記述会(2009:60)

つまり、変化の結果を表す場合は「に」と「と」どちらも使える。「に」の中心的な意味は移動の着点と変化の結果を表す。それに対して、「と」の中心的な意味は動作の相手を表す。述語がついている場合は、述語を見れば、その用法はすぐ分かるが、見出しのような助詞止めの場合は、中心的な意味用法を取るものがほとんどである。言い換えれば、助詞で止める場合は、助詞の中心的な意味用法が読者がすぐ思いつくわけである。

そう考えると、もし、「と」で終わる見出しがあれば、その見出しを止める「と」の使

い方は中心的で動作の相手を表すものであるはずだ。そして、今回の考察での助詞止めの181本の見出しについてさらに調べた。結果として、次の1例がみつかった。

(10)郵政上場　傘下2社と　(東京朝刊・2014.12.24)

［日本郵政グループは、持ち株会社の日本郵政と、傘下のゆうちょ銀行、かんぽ生命保険の金融2社の株式を同時に東京証券取引所に上場する方針を固めた。3社は2015年秋の上場を目指す。財務省、総務省と最終調整し、26日にも上場計画を発表する。……］

例(10)は本文と照らし合わせてみると分かるように、見出しを止める「と」の使い方は、共同動作の相手を表す。つまり、「郵政」という主体が行う「上場する」という述語が表す行為を一緒に行う相手を表す。見出し「郵政上場　傘下2社と」を完全な文に復元すれば、「郵政は傘下2社と上場する」ということになる。これが先ほど述べた助詞で文を止めるとき、文を止める助詞の使い方はプロトタイプの意味を取るのが一般的であることと一致した。

4.4　「に」は「既定」か「未定」か

2.で述べたように、李(2008)は「既成」を表す場合には、見出しの文末に「に」を使う傾向があると指摘したが、筆者の今回の考察した「に」で終わる見出しの49例の内、「既定」を表すものはわずか13例であった。

以下、その用例をいくつか掲げる。

(1)a 広島土砂災害　死者66人に　(東京朝刊・2014.08.27)

［広島市北部の豪雨に伴う土砂災害の死者は6人増え、26日午後7時現在、66人(うち53人の身元が判明)、行方不明者21人、重軽傷者43人となった。東西約7キロ、南北約15キロの狭い範囲で多数の土石流が発生した災害は、27日で発生から1週間。……］

b 広島土砂災害　死者 71 人に　（東京朝刊・ 2014.08.28）

［広島市北部の土砂災害は 27 日、発生から 1 週間となった。午後 7 時現在、死者は 1 人増えて 71 人（うち 63 人の身元が判明）、行方不明者は 11 人。広島県警は同日午前に 4 人の死者を発表しており、この日、死者数は計 5 人増えた。今も約 1300 人が避難所生活を強いられている。約 3400 人態勢で不明者の捜索が続く被災地では、一部の小中学校で夏休み明けの授業が始まった。……］

c 韓国船沈没　死者 24 人に　（東京朝刊・ 2014.04.18）

［韓国政府の発表によると、乗客乗員 475 人のうち 179 人が救出され、死者 24 人、安否不明者 272 人となった。現場海域では船舶 171 隻、航空機 29 機などが出て捜索が続けられた。約 520 人の潜水士による船内捜索は速い潮流と悪天候のため難航している。……］

d 死者 12 人　心肺停止 24 人に　（東京朝刊・ 2014.09.30）

［長野、岐阜両県にまたがる御嶽山（おんたけさん）（3067 メートル）の噴火で、長野県警は 29 日、山頂の剣ヶ峰付近から心肺停止状態の 8 人を収容し、全員の死亡を確認、このうち 7 人の身元が判明した。死者は計 12 人となった。一方、同日午後、新たに 5 人が心肺停止状態で見つかった。頂上付近で火山ガスの濃度が高くなり、午後 2 時前に救助活動を中止。山中には少なくとも心肺停止状態の 24 人が残っている。……］

e 御嶽山　死者 47 人に　（東京朝刊・ 2014.10.02）

［長野、岐阜両県にまたがる御嶽山（おんたけさん）（3067 メートル）の噴火で、長野県警などは 1 日、約 40 時間ぶりに捜索を再開、心肺停止状態で倒れていた遭難者 35 人を搬送し、全員の死亡を確認したと発表した。今回の噴火による死者は 47 人となり、火山災害の死者数としては、1991 年と 93 年に計 44 人の死者・行方不明者を出した雲仙・普賢岳（長崎県）の火砕流被害を超え、戦後最悪の惨事となった。地元消防には、亡くなった 47 人を上回る数の行方不明者情報が寄せられており、捜索は 2 日もほぼ同じ態勢で継続する。……］

f 御嶽山　死者 51 人に　（東京朝刊・ 2014. 10. 05）

［御嶽山（おんたけさん）（3067 メートル、長野・岐阜県境）の噴火で、長野県警などの合同救助隊は 4 日、山頂周辺で心肺停止状態の 4 人を発見し、全員の死亡を確認した。死者はこれで 51 人となった。4 日で噴火から 1 週間が過ぎたが、山頂周辺にはなお多くの行方不明者が残されているとみられる。御嶽山周辺は、台風の影響で 5〜6 日は雨の予報で、火山灰が多く降り積もった場所では土石流の発生が懸念される。……］

g 御嶽　死者 54 人に　（東京朝刊・ 2014. 10. 08）

［長野・岐阜県境にある御嶽山（おんたけさん）（3067 メートル）の噴火で、長野県警、消防、陸上自衛隊などの合同救助隊は 7 日、台風 18 号の通過で中断した捜索を 3 日ぶりに再開し、山頂付近の尾根道「八丁ダルミ」周辺で心肺停止状態の 3 人を発見した。長野県警は全員の死亡を確認し、死者は計 54 人となった。3 人のうち 2 人の身元が判明し、行方不明者は 10 人となった。7 日の捜索は、438 人を山頂周辺に投入。8 日も態勢を維持して行う。……］

h 米抗議デモ　170 都市に　（東京朝刊・ 2014. 11. 27）

［【ファーガソン（米中部ミズーリ州）＝加藤賢治、ワシントン＝今井隆】米ミズーリ州で今年 8 月に起こった黒人青年射殺事件で、白人警官の不起訴処分に対する抗議デモは 25 日、全米に拡大した。米ＣＮＮによると、デモはニューヨークなど 170 都市以上で行われ、カリフォルニア州オークランドでは、商店の破壊や略奪が起こり、テキサス州ダラスでは 5 人のデモ参加者が逮捕された。……］

以上の例文を記事本文と照らし合わせると、記事本文には、例(1a)「66 人（うち 53 人の身元が判明）、行方不明者 21 人、重軽傷者 43 人となった。」、例(1b)「午後 7 時現在、死者は 1 人増えて 71 人……死者数は計 5 人増えた。」、例(1c)「死者 24 人、安否不明者 272 人となった。」、例(1d)「死者は計 12 人となった。……山中には少なくとも心肺停止状態の 24 人が残っている。」、例(1e)「今回の噴火による死者は 47 人となり、……戦後

最悪の惨事となった。」、例(1f)「死者はこれで51人となった。」、例(1g)「死者は計54人となった。」、例(1h)「抗議デモは25日、全米に拡大した。米ＣＮＮによると、デモはニューヨークなど170都市以上で行われ、……5人のデモ参加者が逮捕された。」とそれぞれ書かれており、すべて「既定」を表すものであることが分かった。ただ、その中で、例(1d)記事本文には、「山中には少なくとも心肺停止状態の24人が残っている。」と書いてあり、現在形が使われているが、「心肺停止状態の24人が残っている」というのは「心肺停止状態になった人は24人になった」という意味解釈できることには注目しておいてよい。

では、次の例はどうだろう。

(2)a ユーロ圏利下げ 0.05%に　(東京朝刊・ 2014.09.05)

［【ベルリン＝五十棲忠史】欧州中央銀行(ＥＣＢ◎)は4日、フランクフルトで定例理事会を開き、ユーロ圏18か国に適用する政策金利を、これまでの0.15%から、過去最低の0.05%に引き下げることを決めた。10日から適用する。利下げは6月以来、3か月ぶりとなる。……］

b 日朝協議　来月1日に　(東京朝刊・ 2014.06.26)

［岸田外相は25日、日本と北朝鮮両政府の外務省局長級による政府間協議を、来月1日に中国・北京で開くことを明らかにした。外務省で記者団に語った。5月末の日朝協議で北朝鮮が設置を約束した日本人拉致被害者らの再調査を目的とした「特別調査委員会」の組織や責任者などについて説明を受ける。……］

c 日米野球　11月に　(東京朝刊・ 2014.06.11)

［日本野球機構(ＮＰＢ)と米大リーグ機構(ＭＬＢ)、大リーグ選手会、読売新聞社は10日、日本代表「侍ジャパン」とＭＬＢオールスターチームが対戦する「日米野球2014」(仮称)の5試合を11月12～18日に、京セラドーム大阪、東京ドーム、札幌ドームで開催すると発表した。日米野球が開催されるのは06年以来。……］

d 相撲協会　公益法人に　（東京朝刊・ 2014.01.25）

［内閣府の公益認定等委員会は24 日、日本相撲協会（北の湖理事長）の公益財団法人への移行認定を内閣総理大臣に答申した。移行は内閣府に認められる見通しで、相撲協会は来週中にも登記を行い、公益財団法人に移行する。……］

e 憲法新解釈　今夏に　（東京朝刊・ 2014.02.22）

［政府は21 日、集団的自衛権の行使を可能にする憲法解釈見直しについて、現在開かれている通常国会で重要法案の審議を終えた後、夏頃に新たな解釈の閣議決定を目指す方針を固めた。決定が遅くなれば、自衛隊と米軍の役割分担を定めた「日米防衛協力の指針（ガイドライン）」の 17 年ぶりの改定作業や、国民からの理解を得る面でマイナスが大きいと判断した。……］

f 川内原発「合格」　16 日に　（東京朝刊・ 2014.07.08）

［原子力規制委員会は7 日、原子力発電所の再稼働の前提となる安全審査で、九州電力川内（せんだい）原発1、2 号機（鹿児島県）の事実上の合格証となる審査書案を 16 日に示す方針を決めた。当初9 日を目指していたが、書類をまとめる作業に時間がかかり、1 週間延期する。……］

g 拉致報告　来月上旬に　（東京朝刊・ 2014.08.05）

［日本人拉致問題などに関し、「特別調査委員会」を設置した北朝鮮政府から日本政府への1 回目の報告が、9 月上旬となる見通しであることが4 日、わかった。日本政府が、拉致被害者で未帰国の 12 人に加え、特定失踪者で拉致被害者の可能性が高いとみている約30 人の情報を北朝鮮に伝え、優先して調査結果を回答するよう求めていることも明らかとなった。……］

本文と照らし合わせてみると、例(2a)記事本文には、「これまでの 0.15%から、過去最低の 0.05%に引き下げることを決めた。」と書いてあり、金利を 0.05%に引き下げることを決めたが、まだ引き下げていない。新聞掲載時以後の 10 日から引き下げることになる。例(2b)記事本文には、「日本と北朝鮮両政府の外務省局長級による政府間協議を、来月 1

日に中国・北京で開くことを明らかにした。」と書かれており、日朝会議はまだ開催されていなく、来月 1 日に開催されることになる。例(2c)記事本文には、「日米野球 2014」(仮称)の 5 試合を 11 月 12〜18 日に、京セラドーム大阪、東京ドーム、札幌ドームで開催すると発表した。」と書かれており、日米野球は新聞掲載時以後 11 月 12〜18 日に開催される。例(2d)記事本文に書いてあるように、「相撲協会は来週中にも登記を行い、公益財団法人に移行する。」のように意味解釈できる。例(2e)は、2 月 22 日の記事の見出しなので、「今夏」はまだなっていない。なので、憲法新解釈が今夏にされる、あるいは、今夏に憲法新解釈をするのように意味解釈できるだろう。例(2f)記事本文には、「原子力規制委員会は 7 日、原子力発電所の再稼働の前提となる安全審査で、九州電力川内(せんだい)原発 1、2 号機(鹿児島県)の事実上の合格証となる審査書案を 16 日に示す方針を決めた。」と書いてあるように、川内原発「合格」はこれからの 16 日にしめされるということになる。例(2g)「来月」という時成分が明示されているので、拉致問題に関して、来月上旬に報告するという意味解釈ができるだろう。

以上で分かるように、これらの例は「未定」で、「既定」ではない。

では、例(1)と例(2)はなぜ「既定」と「未定」の違いが出ているのか。もう一度例(1)と例(2)を見てみよう。

まず、例(1)を見ておく。

例(1a)「広島土砂災害」は、出来事の場面、「死者が 66 人」はその出来事が生じた死者 66 人となった・達しているという風に理解できるだろう。例(1b)も同じ出来事場面で、死者が 71 人になった・達している、と解釈できる。例(1c)は、「韓国船沈没」という出来事場面で、死者が 24 人になった。例(1d)見出しには、出来事場面が現れていないが、記事本文の内容を見ると分かるように、それは長野、岐阜両県にまたがる御嶽山の噴火という出来事場面で、死者が 12 人、心肺停止 24 人になったという出来事が起きた、と解釈できる。また、例(1e)(1f)(1g)も、例(1d)と同じ出来事場面で、死者の数が違い、例(1e)は 47 人で、(1f)は 51 人で、(1g)は 54 人となった、と解釈できる。。そして、例(1h)は米国で抗議デモが発生し、既に 170 都市に広がったという出来事である。

次に、例(2)を見ておく。

例(2a)の記事本文には、「欧州中央銀行は……ユーロ圏……これまでの0.15%から、過去最低の0.05%に引き下げることを決めた」と書かれており、ユーロ圏利下げする決め手は欧州中央銀行であり、利下げすることを決めたが、まだ利下げしていなく、これから利下げする着点、あるいは変化の結果は0.05%になるということを表している。例(2b)の記事本文には、「岸田外相は25日、日本と北朝鮮両政府の外務省局長級による政府間協議を、来月1日に中国・北京で開くことを明らかにした」と書かれており、日朝協議が来月1日に開くことになる。そういうことを決めたのは日朝両政府の外務省である。例(2c)は、記事本文に書かれているように、日本野球機構(ＮＰＢ)と米大リーグ機構(ＭＬＢ)、大リーグ選手会、読売新聞社は日米野球の5試合を11月に開催すると発表した。つまり、日米野球の試合はまだ行われていないが、日程は既に決めた。予告として、日米野球の試合が来月1日に開催されるということになる。例(2d)は、記事本文に書かれているように、内閣府の公益認定等委員会は日本相撲協会の公益財団法人への移行認定を内閣総理大臣に答申した。移行は内閣府に認められる見通しで、相撲協会は来週中に登記を行い、公益財団法人に移行するということを表している。例(2e)は、記事本文に示されたように、政府は憲法解釈見直しについて、夏頃に新たな解釈の閣議決定を目指す方針を決めたので、今夏に憲法新解釈がされるということになる。例(2f)は、記事本文に書かれているように、原子力規制委員会は川内原発の合格証となる審査書案を16日に示す方針を決めたので、16日に川内原発「合格」を発表することになる。例(2g)の記事本文には、「日本人拉致問題などに関し、『特別調査委員会』を設置した北朝鮮政府から日本政府への1回目の報告が、9月上旬となる見通しであることが4日、わかった。」と書かれており、北朝鮮政府は来月上旬に拉致報告をするということになる。

以上で分かるように、例(1)a～ｈの例はすべて自然現象に対して、例(2)a～ｇの例はすべて人間意志的な出来事である。それが両者の違いである。

自然現象の場合は、特に「死者66人」とか「死者71人」とか「死者24人」とか言った場合は、起こらないと確定できない。絶対に過去でしかない。つまり、自然現象の場合、

数字が出てきたら、その数字が確定するのだから、過去でしかないということになる。

それに対して、「ユーロ圏利下げ 0.05%に」のような人間の意図にかかることであれば、未来でも解釈できる。人間意志的な出来事は人間がやるのだから、未来のことも予め、予告として、取り上げることができる。

要するに、人間の意志の場合は未来のことを人間は頭に浮かべて予告することができるが、自然現象の場合は、あとから観察しないと無理であり、あとから観察するということは過去のことを観察するのだから、基本的に結果構文、過去のこと、変化の結果である。前のこと、こういう数量になったということで、既に起こったわけである。「に」で終わる見出しの場合は、単に「に」で終わるものは過去か、未来か、「既定」か「未定」かということではなくて、自然現象か、人間の意志にかかわるか、によって、「既定」か「未定」かに分かれる。あるいは、そういう解釈させる条件は人間の意志にかかわるか否かによるものである。

5. まとめ

本節では、見出し末に現れる格助詞「に」の特徴を考察した。通常の場合の「に」の使い方は 10 種類以上あるのに対し、見出し末の「に」の使い方は少ない。「に」の意味役割はその前に現れる語に深く関わっているが、見出しで使われ方としては、「に」の中心的な使い方である変化の結果を表すものがほとんどである。人間の意志の場合は「未定」のことが多い。それに対して、自然現象の場合は「既定」のことがほとんどである。自然現象か、人間の意志にかかわるか、によって、「既定」か「未定」かに分かれる。

第三節　「を」で終わる新聞見出し

本節では、客観事実報道のタイプである「へ」、「に」止めと違って、主観型であり、提言を表すタイプの「を」止めの新聞見出しについて検討する。

1.　はじめに

本章の最初にも触れたように、日本語の新聞は、大きく事実報道型と主張型と二つのタイプに分けることができる。第一節と第二節で事実報道型の「へ」、「に」止めの見出しについて、検討したが、主張型の「を」止めの見出しはどんな特徴も持っているだろう。従来、「に」や「へ」で終わる表現についての研究は少なくないが、「を」で終わる表現についての研究はまだ本格的に行われていない。第三章の表 3-3 に示されているように、2014 年一年分の一面の 181 本の助詞止め見出しのうち、「を」で止める見出しはわずか 6 例であった。見出しを止める格助詞「を」の特徴を明らかにするため、本節では読売新聞のデータベースを利用して、無作為に「を」で終わる主見出しを 31 例収集し、その実例を分析することによって、新聞見出しの末における格助詞「を」の特徴を探ってみたい。

2.　先行研究とその問題点

新聞見出しにおける格助詞を扱う研究はきわめて少なく、あげられるのは野田(2006)くらいである。

野田(2006)では見出し末における格助詞及びとりたて助詞の特徴が論じられている。その中で、見出し末の「を」の特徴について、次のように指摘している。

> 見出し末の「を」は、出来事の客観的な描写ではなく、引用文内や社説のように、話し手・書き手の判断が現れうる箇所に多く見られる、省略されている述語部分は、行為実現の要求を表す例が大変多い。話し手自身が行為を実現するという意志・希望の場合や行為実現の必要性・妥当性の場合もある。
>
> 野田（2006:436)による

野田(2006)の指摘は確かであるが、結論としては、一般化できなく、「を」の特徴はま

だ十分にされていないと思われる。

3.　新聞見出しにおける客観的な「へ」、「に」と主観的な「を」

以下、三つのグループの見出しを取り上げよう。(1) は「へ」で終わる見出しの一群、(2) は「に」で終わる見出しの一群、(3) は「を」で終わる見出しの一群である。

(1)a 福田氏、習主席と会談へ　(東京朝刊・ 2014. 10. 25)

［福田元首相が 29 日に北京で中国の習近平国家主席と会談することがわかった。関係者が 24 日、明らかにした。……］

b 腹腔鏡死亡数調査へ　(東京朝刊・ 2014. 11. 21)

［群馬大病院(前橋市)で保険適用外で腹腔鏡を使う高難度の肝臓手術を受けた 8 人が死亡した問題を受け、肝臓手術の専門家でつくる日本肝胆膵外科学会は 20 日、手術実績の多い全国の医療機関を対象に、腹腔鏡手術の死亡数について実態調査することを決めた。全国的な実態を把握し、安全性を検証する。……］

c エボラ熱　4000 万ドル支援へ　(東京朝刊・ 2014. 09. 26)

［安倍首相は 25 日午前(日本時間 26 日未明)、国連本部で開かれたエボラ出血熱に関するハイレベル会合に出席し、新たに 4000 万ドル相当の支援を行う方針を表明した。……］

(2)a449 保育所　4 階以上に

［「待機児童」の解消に向け保育所が増設されるなか、4 階以上の中高層階にある保育所が全国で 449 か所にのぼることが、読売新聞の調査でわかった。……］

b 日朝協議　来月 1 日に　(東京朝刊・ 2014. 06. 26)

［岸田外相は 25 日、日本と北朝鮮両政府の外務省局長級による政府間協議を、来月 1 日に中国・北京で開くことを明らかにした。……］

c ユーロ圏利下げ 0.05%に　（東京朝刊・ 2014.09.05）

［欧州中央銀行（ＥＣＢ◎）は４日、フランクフルトで定例理事会を開き、ユーロ圏18か国に適用する政策金利を、これまでの０・15%から、過去最低の０・05%に引き下げることを決めた。10日から適用する。……］

(3)a 東田シネマ　来場を（西部朝刊・ 2014.12.19）

［ドキュメンタリー映画の定期上映会「東田シネマ」が19日から3日間、北九州市八幡東区の市環境ミュージアムで開かれる。10月に始まった上映会は集客数が目標を大幅に下回っており、主催する運営委員会関係者は「一度、足を運んでもらい、ドキュメンタリーの魅力を知ってほしい」と来場を呼びかけている。……］

b アレフ退去を（大阪朝刊・ 2014.11.17）

［オウム真理教主流派の団体「Ａｌｅｐｈ（アレフ）」の信者数人が生活する湖南市平松の住家近くで16日、地域住民らでつくる「平松区環境整備オウム対策委員会」（山田了介委員長）が抗議集会をした。

メンバーや谷畑英吾・湖南市長ら約200人が住家を取り囲むように集合。山田委員長は、団体規制法に基づき、アレフに対する観察処分の来年以降の継続などを求める市民ら約7600人分の署名を上川法相らに出したことを報告し、「地域の安全安心のため、解散と解体を強く求めたい」と強調した。谷畑市長も「アレフは各地で活動を続けており、さらなる対策が必要だ」と述べた。……］

c 脆弱な財務　早期脱却を（東京朝刊・ 2017.03.15）

［東芝の記者会見での主なやりとりは次の通り。

―なぜ決算発表ができないのか。

佐藤良二監査委員会委員長（社外取締役）「ウェスチングハウス（WH）の一部経営者による不適切なプレッシャーの有無を調査し、存在を認定した。それに加え、調査に関連して得られたメールや証言全ての情報を踏まえ、追加調査が必要と判断した。（過去にも）プレッシャーがあったかどうか調べる。現時点で四半期財務諸表に修正を行う重要な事項を認識していない」

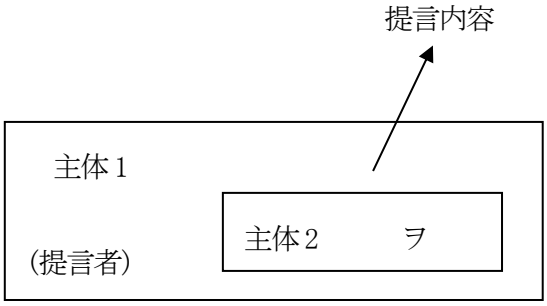
―グループの将来像は。

綱川智社長「海外原子力事業のリスク遮断、非連結化がキーワードだ。海外原子力事業の大幅見直し、メモリー(半導体の中核部門)事業の分社化で、脆弱(ぜいじゃく)な財務基盤からの早期脱却を図る。ビル・施設、鉄道、公共インフラ(社会基盤)を含めた社会インフラ事業に注力する。メモリーが外れ、WHは切り出すと仮定すると、現在5.5兆円の売り上げが4兆円レベルになる。これが将来の姿だ」……]

以上、見出しそれぞれを本文と照らし合わせてみると分かるように、(1)、(2)グループの「へ」、「に」で止める新聞見出しは、客観的に情報を伝えるタイプである。それに対して、(3)のグループの「を」で止める新聞見出しの場合は、客観的な情報の描写ではなく、主観的だといえるだろう。「を」で止める新聞見出しは、ある事態が実行・実現されるように、それを提言している存在者がいる、という記事のタイプだと言えるだろう。言い換えると、「を」で止める新聞見出しは提言を表すものである。それは「を」で止める新聞見出しの一つの大きな特徴である。

4. 二重的構造

3.で述べたように「を」で止める新聞見出しは、二重的構造であり、あること事態が実行・実現されるように、それを提言している存在者がいる、という記事のタイプである。つまり、「を」で止める新聞見出しは、提言と、その提言を求めるものと、二つの部分から、意味的には成り立っている。言い換えると、「を」で止める新聞見出しは、二重的構造を取っており、その二重的構造の中の部分、つまり、提言の部分が見出しになっており、その提言を求めている存在者、あるいは提言者が表現されないのがほとんどである。図で示すと、次のようになる。



主体1と主体2は同じ主体である場合はないことはないが、まれである。

そして、今回の考察で、提言者が現れる新聞見出しは次の一例しかなかった。

(1)知事「さらなる飛躍を」　(大阪朝刊・ 2014.12.27)

［官公庁や企業のほとんどで仕事納めとなった26日、県庁や各市役所では、それぞれの首長が今年1年を振り返り、職員に訓示。「来年はさらなる飛躍の年に」と奮起を促した。……　］

本文と照らし合わせてみると分かるように、「さらなる飛躍の年になりますように」ということを提言する主体は「県庁や各市役所のそれぞれの首長」、つまり知事であり、飛躍する主体は記事本文に書かれている職員たちである。

5.　「を」で止める見出しの分類および意味解釈

前に述べたように、「を」で止める新聞の見出しは、二重構造であり、その二重構造の中の部分が見出しになっている。ここでは、その見出しになっている部分がどういう形で現れるかによって、次の5つのタイプに分類していく。

【1】［ニツイテ・ニ対シテ　ヲ］型

【2】［ガ　ヲ］型

【3】[デ／ニ／カラ　ヲ]型

【4】[ヲ]型

【5】[複文・二文的]型

【1】～【4】のタイプというのは、提言が表している事態に対応する文型である。【5】は【1】～【4】と少し違うタイプである。それは複文・二文的なものである。後の部分は、【1】～【4】に現れるようなタイプであり、前の部分は、それに対しての理由付けや条件付けなど、というものになっている。

次にタイプごとに見てみる。

5.1　［ニツイテ・ニ対シテ　ヲ］型

まず、上述した5つタイプのうち、一番用例が多い【1】［ニツイテ・ニ対シテ　ヲ］のタイプのものを見ていく。

以下、例を挙げておく。

(2)イ病　正しく伝える教育を　（東京朝刊・ 2017.04.02）

［市民団体「イタイイタイ病(イ病)を語り継ぐ会」の向井嘉之代表らが今月、イ病の教訓を後世に伝える教育の現状と課題を調査・分析した「イタイイタイ病と教育」(能登印刷出版部)を出版する。4大公害病の一つであるイ病は来年、日本初の公害病認定から50年の節目を迎える。向井代表は「イ病を正しく伝える教育が必要だ」と訴える。……］

(3)「情報管理　徹底を」　（東京朝刊・ 2017.03.25）

［熊谷市の市立中学校が開いた「いじめ・非行防止ネットワーク会議」で、行動に注意が必要とされる生徒のリストが外部に流出した問題を巡り、同中で24日夜、保護者説明会が開かれた。同会議は、個々の生徒に応じた指導を地域ぐるみで行う狙いだったが、関係者がどんな情報を共有し、どう管理するかという課題が浮かび上がった。

……

説明会は約1時間半、非公開で行われ、保護者約200人が出席。「出席者の情報管理をしっかりすべきだ」などの意見が出たという。説明会後、市教委学校教育課の原口政明課長は報道陣に、「会議での情報共有は必要だが、外部流出はあってはならない」と述べた。市教委は今後、会議の資料の運用指針を作成する。

文部科学省は、非行の恐れのある生徒などの個人情報は、本人と家族らの権利を侵害しないことを前提に、関係機関で共有できるとの指針を示す。県教委も、学校と自治会やＰＴＡが一緒に対応するという会議の趣旨を踏まえ、「指導に生かす情報を共有することは想定している」との立場だ。

東松山市で昨年8月、吉見町の少年(当時16歳)が暴行されて死亡した事件では、

地域で子どもを見守る重要性が指摘された。県教委の担当者は「もっと早い時期から情報交換して対応できれば、被害者も加害者も違う人生があったかもしれない」と悔やむ。

この事件もあり、各学校は地域を交えた子どもの支援を模索しているところだ。県教委の担当者は「情報を共有しなければ会議の意味はないが、情報を得ることを不安に思う人がいるかもしれない」と今後の会議運営を懸念する。「各学校に対し、情報管理に留意して地域の協力を得られるよう指導したい」としている。

千葉大の藤川大祐教授(教育方法学)は「外部に漏れるというのは、個人情報の扱いとしてありえない。会議で個人情報を出しても、校長や市教委が、資料の持ち帰りを止める必要があった」と指摘している。]

(4)「報告書　ＨＰ公表を」　(東京朝刊・ 2017.03.23)

[2011 年の東京電力福島第一原発事故後に福島県から避難した男子生徒(13)が、転校先の横浜市立小でいじめを受けた問題で、いじめを認定する報告書をまとめた市教育委員会の第三者委員会が、市教委ホームページなどでの報告書の公表を制度化するよう求める意見書を作成したことがわかった。

市教委は、今回のいじめの報告書について「関係者以外への公表は想定していない」として、一部を除き非公開としている。これに対して第三者委は「再発防止のために(広く公表することが)重要だ」とする見解を示した。

市教委が取りまとめている再発防止策の素案では、今後、いじめが起きた場合の報告書の公表について「市条例やガイドラインに基づき判断する」としている。第三者委はさらに踏み込んだ対応を求めた形だが、市教委は「ホームページでの公開は慎重に検討する」としている。

一方、第三者委は再発防止策全体については「おおむね賛同できる」と指摘。第三者委の意見を受け、再発防止策には新たに「いじめが再発しないよう学校や市教委が継続的に状況を確認する」ことなどが盛り込まれた。市と市教委は 27 日に正式決定する方針。]

(5)脆弱な財務　早期脱却を　(東京朝刊・ 2017.03.15)

［東芝の記者会見での主なやりとりは次の通り。

……

―グループの将来像は。

綱川智社長「海外原子力事業のリスク遮断、非連結化がキーワードだ。海外原子力事業の大幅見直し、メモリー（半導体の中核部門）事業の分社化で、脆弱（ぜいじゃく）な財務基盤からの早期脱却を図る。ビル・施設、鉄道、公共インフラ（社会基盤）を含めた社会インフラ事業に注力する。メモリーが外れ、WHは切り出すと仮定すると、現在５・５兆円の売り上げが４兆円レベルになる。これが将来の姿だ」……］

(6) 与党税制大綱　消費税10％へ環境整備を　（東京朝刊・2014. 12. 31）

［与党が決めた2015年度の税制改正は、経済成長に力点を置き、当面の企業の負担を減らす「先行減税」や、高齢者の資産を若い世代に移して消費を促す仕組みなどが多く並んだ。遅れが指摘されてきたアベノミクスの成長戦略を税制面で後押しする内容だ。

……

本来なら、今回の税制改正には「15年10月に消費税率を10％に引き上げる」という文言が入るはずだった。景気回復の足取りが重い以上、先送りはやむを得ないが、財政再建は待ったなしだ。

再増税の先送りと、今回決まった減税で税収が想定より減るため、15年度予算編成は難しくなり、政府が海外に向けて公約した「国と地方の基礎的財政収支の赤字を半減させる」目標の達成が厳しくなる恐れもある。歳出削減で乗り切るにしても、高齢化で増え続ける社会保障費を考慮すれば限界がある。17年4月の消費税の10％への引き上げは譲れない一線だろう。

再増税の時期が近づけば、先送り論が再び政府・与党内で強まる可能性がある。そうならないためにも、安倍政権は15年度税制改正をテコに景気を浮揚させ、再増税に耐えうる環境を整えていかねばならない。］

(7) 未の絵馬　新年に幸を　（大阪朝刊・2014. 12. 31）

［県立松山西中等教育学校の美術部が来年の干支（えと）「未（ひつじ）」を描いた絵

馬(縦1メートル、横1・5メートル)を制作し、松山市神田町の厳島神社に奉納した。

地元の工務店から提供された板に、5年生の美術部員2人がアクリル絵の具を使って約2週間掛かりで描き上げた。

19日に部員らが奉納し、神社の拝殿左側に掲げられた。部長の新田楓さん(17)は「絵馬を見た人たちが、新年を頑張ろうという気持ちになってもらえたら」と話していた。]

(8)大みそか　老舗の味を　(東京朝刊・2014.12.30)

[1907年(明治40年)創業のそば店「東家」の本店(盛岡市中ノ橋通)が、年越しそばの準備に追われている。

東家の年越しそばは、喉ごしの良い食感の更科そば。原料のそば粉は八幡平市産と紫波町産のブレンドだ。

29日から本格的な準備が始まり、従業員ら約15人が製麺や箱詰めをした。作業は31日朝までかかるといい、3日間で例年並みの約1万食を用意する。責任者の池野史明さん(48)は「老舗の味を家庭で味わっていただき、『このそばで年を越して良かった』と感じてほしい」と気持ちを込めて作業にあたっていた。店頭では30〜31日、2人前の生麺とつゆのセット(税込み880円)を販売する。]

(9)ポスト五輪　選手村活用を　(東京朝刊・2014.12.27)

[2020年東京五輪・パラリンピックで中央区晴海地区に建設される選手村について、中央区は26日、大会終了後、宿泊施設を学生寮や社宅として使うことなどを盛り込んだ要望書を都に提出した。交通環境の整備に向け、地下鉄の新路線の導入も求めた。区は今後、大会後の晴海地区の発展に向け、都と協議を行う方針。

選手村は晴海地区の都有地44ヘクタールに整備され、大会中は選手ら約1万7000人が滞在する。都は今月19日、閉会後は跡地に50階建ての超高層マンション2棟を建設する構想を発表。建設する宿泊施設を含め、住宅棟計24棟、計約6000戸を分譲・賃貸マンションとして供給し、人口1万人規模の街として整備するとしている。

……

都オリンピック・パラリンピック準備局は「区の要望は地域の声として重く受け止

める。都としては要望を踏まえ、五輪終了後を念頭に置きながら街づくりのあり方を検討したい」と話している。］

(10)東京五輪「大阪で競技を」　(大阪朝刊・ 2014. 12. 11)

［2020 年東京五輪・パラリンピック組織委員会の幹部らが 10 日、府庁を訪れ、小西禎一副知事に大会への協力を要請した。東京五輪では一部競技の分散開催が検討されており、小西副知事は「サッカーなどをぜひ大阪で実施してほしい」と期待を寄せた。

組織委は、東京五輪の開催機運を盛り上げるため、各自治体の要望を聴こうと、全国の道府県を訪問しており、この日は布村幸彦副事務総長ら 4 人が訪れた。

布村氏は、国際オリンピック委員会が競技の分散開催に柔軟な姿勢を打ち出していることを説明。小西副知事は「大阪での競技開催を楽しみにしている。日本全体で五輪を盛り上げられるよう、府としても積極的に協力していきたい」と応じた。

組織委は来年 1 月、各競技の事前キャンプ地の募集要項を発表し、受け入れ先を全国から募る方針。小西副知事は「府内は競技施設が充実しており、キャンプ地としても手を挙げていきたい」と意欲を見せた。］

(11)ネットトラブル　地域で解決を　(大阪朝刊・ 2014. 12. 01)

［地域に情報通信技術（ＩＣＴ）の知識や技術を広めるリーダー的な存在となり、ネット上で子どもが巻き込まれるトラブル解決などに活躍するための講座が 30 日、大津市瀬田大江町の放送大学滋賀学習センターで開かれた＝写真＝。

同センターと、ＩＣＴに関する教室やサポートに取り組んでいるＮＰＯ法人「湖南ネットしが」（野洲市）が企画し、シニア世代を中心に約 40 人が参加。講師には、京都ノートルダム女子大の神月紀輔教授らを招いた。

神月教授はネット社会が本来、大人向けの社会であり、「社会経験の少ない子どもは犯罪の被害者やネット依存になりやすい」などと説明した。

また、ＩＣＴを扱うには技術だけでなく、コミュニケーション能力や判断力を高める知識が必要とした上で、「トラブルに遭った子どもの親や身近な関わりのある人だけでなく、周囲の人も相談に乗れるようになってほしい。そこが地域の出番」と呼びかけた。

地域で防犯見回り活動をしているという彦根市大藪町、パソコン講師安原辰二六さん(74)は「ＩＣＴについても、子どもたちと関わっていくべきと感じた」と話していた。(岡本久美子)］

(12)「登山　命守る意識を」　(東京朝刊・ 2014. 11. 11)

［御嶽山の噴火に山頂直下で遭遇しながら、無事に自力下山した飯島町の登山ガイド小川さゆりさん(43)が 10 日、県のガイド向け講習会「信州登山案内人能力向上研修」に登壇した。「100%の安全はない自然の中に入る以上、登山者自身が危機感をもって、自分の命を自分で守る意識を持つことが大事」と、体験を振り返りながら力を込めた。

講習会は、安曇野市で開かれた。信州登山案内人は、県認定の山岳ガイド資格で、県内外に 448 人いる。小川さんは、その 1 人で中央アルプス地区山岳遭難防止対策協会の救助隊員として活躍。噴火後、多くの報道陣から取材を受けるうちに、体験したことを自分で書く重要性を感じた。リポートにまとめたところ、県から急きょ、講師としての参加を要請された。

……

小川さんは「すぐに噴火と考えて行動し、岩だらけの斜面や雪道を歩いたり、地形を読んだりする登山の技術があったことも生きた」としながらも、「生きて帰れたのは、隠れる岩穴があり、運が良かった」とも語った。そのうえで、「リスクを身近に感じて対策に生かしてほしい」と訴えた。］

(13)いわき・豊間中校舎　解体を　(東京朝刊・ 2014. 11. 11)

［いわき市が東日本大震災の「震災遺構」として保存する方針を示していた同市平薄磯の市立豊間中学校の校舎について、地元住民らが「維持管理に市が責任を持ち続けるのか不安」などとして、市に解体を求めることを決めたことがわかった。震災遺構にするには地元の合意が前提で、市幹部は 10 日、震災遺構としての校舎の保存が極めて難しくなったとの認識を示した。

同校の学校区は三つの地域に分かれており、その一つで校舎がある薄磯行政区は 9 日、会合を開いて市への解体要請を決めた。市や住民などによると、これまでの会合

を含め、地域からは「見るたびに震災を思い出してつらい」、「地元負担はないのか」、「復興は道路を優先すべき」との意見が多く、役員ら14人の投票でも、保存に賛成したのは2人だけだったという。……]

このタイプの見出しは、まず、題目・話題・トピックが出てきて、そして、それについて述べるものである。このタイプの見出しは今回の調査で一番多く、31例のうち12であり、約4割を占めている。

日本語記述文法研究会(2009)では、対象を表す複合格助詞について、次のように述べられている。

「に対して」は、働きかけのめあてとしての対象を表す。

「考える」「思う」「認める」「調べる」「決める」「検討する」「分析する」「判断する」「心得る」「工夫する」「合意する」などの思考活動の対象や、「話す」「言う」「聞く」「論じる」「説明する」「発表する」「交渉する」などの言語活動の対象を表すのに、複合格助詞「について」が用いられることがある。「について」で表される対象とは、思考活動や言語活動のテーマや内容である。

日本語記述文法研究会(2009：45－46)

このタイプの見出しには「について・に対して」が明確に表現されていないが、上に挙げた用例のように、空白の前の部分は「について・に対して」で読めるものである。

以上の用例を記事本文と照らし合わせると、次のようになる。

例(2)は、まず「イ病」というテーマがポンと出されて、そして、それについて、正しく伝える教育をしなければならないということになる。その提言者は市民団体「イタイイタイ病(イ病)を語り継ぐ会」の代表の向井嘉之であり、イ病について、正しく伝える教育をする主体は明記さていないが、政府や公的機関であることが分かるはずだ。

例(3)では、「情報管理について、徹底を図りましょう」、あるいは、「情報管理について、

徹底的にさせましょう」というふうに読み取れるだろう。その提言者は、熊谷市の市立中学校の保護者や市教委学校教育課の原口政明課長や文部省や県教委の担当者や千葉大の藤川大祐教授など代表としての提言できる資格を持った存在であり、徹底に情報管理をするべき主体は、提言者も含め、熊谷市の市立中学校に関係を持っている人たちである。そして、この学校だけでなく、すべての学校および関係者も情報管理を徹底にすべきだと考えられる。

例(4)では「報告書について、ＨＰ公表することが重要だ」のように意味解釈ができるだろう。その提言者は報告書をまとめた市教育委員会第三者委員会と市と市教委であり、そして報告書をＨＰに公表する主体は市と市教委である。

例(5)では、「脆弱な財務について、早期脱却を図る」、あるいは、「脆弱な財務について、早期脱却をめざしなければならない」のように意味解釈できるだろう。その提言者は東芝の綱川智社長であり、早期脱却をする主体は東芝会社の人たちである。

例(6)では、「与党税制大綱に対して、消費税 10%へ環境整備をしなければならない」のように意味が読み取れるだろう。その提言者は政府・与党であり、環境整備を整える主体は安倍政権である。

例(7)は写真についての表題的な見出しである。まず、松山市神田町の厳島神社に奉納した「未の絵馬」というテーマが取り出されて、そして、「新年に幸を祈りましょう」のように意味が読み取れるだろう。その提言者は県立松山西中等教育学校の美術部の部長の新田楓さんであり、新年に幸を願う主体はその絵馬を見た人たちである。

例(8)はまず「大みそか」というテーマを出されて、そして、「老舗の味をみましょう・味わいましょう」のように提言している。その提言者はそば店「東家」の本店の責任者の池野史明さんであり、老舗の味を味わう主体はその蕎麦屋さんに来店したお客さんたちである。

例(9)では、「ポスト五輪について、選手村活用をしましょう」のように意味解釈ができるだろう。その提言者は中央区であり、選手村活用をする主体は都またはオリンピック・パラリンピック準備局である。

例(10)では「東京五輪について、大阪で競技を行いましょう」のように意味が読み取れるだろう。その提言者は大阪府の小西副知事であり、大阪で競技をする主体はオリンピック選手たちである。

例(11)では「ネットトラブルについて、地域で解決をしましょう」の意味になるだろう。その提言者は大津市瀬田大江町の放送大学滋賀学習センターとＩＣＴに関する教室やサポートに取り組んでいるＮＰＯ法人と講師の神月教授であり、ネットトラブルに対して地域で解決する主体は地域のみんなである。

例(12)は、まず「登山」というテーマが出されて、それについて、「命守る意識を持ちましょう」あるいは、「命守る意識を高めましょう」のように意味解釈ができるだろう。その提言者は御嶽山の噴火に山頂直下で遭遇しながら、無事に自力下山した飯島町の登山ガイド小川さゆりさんであり、命守る意識を持つべき主体は登山者である。

例(13)では「いわき・豊間中校舎について、解体をしなければならない」のように意味が読み取れるだろう。その提言者はいわき市の地元住民たちであり、いわき・豊間中校舎を解体させる主体は政府である。

5.2　［ガ　ヲ］型

続いて、【2】［ガ　ヲ］のタイプのものを見てみる。

以下、例を挙げておく。

(14)新人　働き方にメリハリを　(東京朝刊・ 2017.04.02)

［富士急グループの入社式が 1 日、富士吉田市の富士急行本社で行われ、鉄道やバス、遊園地などに配属される 86 人が社会人としての第一歩を踏み出した。新入社員のうち、県出身者は 44 人。女性は 49 人で、カーリング女子「チーム富士急」の小谷優奈選手(18)は富士急ハイランドで勤務する。

入社式で堀内光一郎社長は「皆さんは働き方改革元年の入社。健康に注意し、メリハリのある社会人生活を送ってほしい」と訓示した。新入社員を代表し、辻信八郎さん(23)が「挑戦心と広い視野、志を忘れず、何事にも前向きに取り組みます」と誓った。

式後、新入社員たちは雪の降る中、河口湖駅前などで、観光客に「Ｗｅｌｃｏｍｅ　ｔｏ　Ｍｔ．Ｆｕｊｉ(富士山へようこそ)」などと声をかけながら、富士山形の折り紙をプレゼントしていた。……］

(15)「農家　野鳥対策を」　(大阪朝刊・ 2014. 12. 17)

［宮崎県延岡市の養鶏場で高病原性鳥インフルエンザ(H5 亜型)が確認されたことを受け、府は 16 日、緊急の危機管理調整会議を開き、今後の対応を確認した。

会議には、府の各部局から担当者約 30 人が出席。2004 年に旧丹波町(現・京丹波町)で鳥インフルエンザが発生したことから、山田清司・危機管理監が「府内でも、いつ起こるかわからない。10 年前の経験を思い起こし、緊張感を持って情報共有をお願いする」と述べた。

府内では、農家など 706 戸が鶏やアヒルなど約 200 万羽を飼育しており、府はファクスや郵送で、▽野鳥の侵入防止▽消毒▽早期発見、通報―の徹底を呼びかけた。

このうち、100 羽以上を飼育している農家 82 戸に対しては、緊急巡回を実施し、ウイルスを運ぶ野鳥の侵入を防ぐ対策を講じるよう強く求めていくという。……］

(16)アレフ退去を　(大阪朝刊・ 2014. 11. 17)

［オウム真理教主流派の団体「Ａｌｅｐｈ(アレフ)」の信者数人が生活する湖南市平松の住家近くで 16 日、地域住民らでつくる「平松区環境整備オウム対策委員会」(山田了介委員長)が抗議集会をした。

メンバーや谷畑英吾・湖南市長ら約 200 人が住家を取り囲むように集合。山田委員長は、団体規制法に基づき、アレフに対する観察処分の来年以降の継続などを求める市民ら約 7600 人分の署名を上川法相らに出したことを報告し、「地域の安全安心のため、解散と解体を強く求めたい」と強調した。谷畑市長も「アレフは各地で活動を続けており、さらなる対策が必要だ」と述べた。

その後、山田委員長が「今すぐ教義を捨て、直ちにこの地から立ち去ることを要求します」との抗議声明文を読み上げ、住家の郵便受けに入れた。……］

このタイプの見出しは動作主体が現れるタイプである。「新人」、「農家」、「アレフ」は、それぞれ「メリハリを(つける)」、「対策を(とる)」、「退去を(する)」の動作主体である。例(14)では、「新人が働き方にメリハリをつけましょう」あるいは、「新人がメリハリをつけて働きましょう」のように意味解釈ができるだろう。その提言者は富士急グループの社長の堀内光一郎であり、メリハリをつけて働く主体は富士急グループに入社し

た新人たちである。例(15)では、「農家が野鳥対策をとりましょう」あるいは、「農家が野鳥対策を取るべきだ」のように意味が読み取れるだろう。その提言者は府であり、野鳥対策を講じる主体は農家である。例(16)では「アレフが退去しなければならない」のように意味解釈ができるだろう。その提言者は山田委員長をはじめの「平松区環境整備オウム対策委員会」のメンバーや谷畑英吾・湖南市長らであり、退去する主体はアレフである。

(17)沿線 13 市町で連携を　(東京朝刊・ 2014. 11. 12)

日本語記述文法研究会(2009)では、主体を表す場合の「で」について、次のように述べられている。

> 「で」は、述語で表わされる事態に対処する組織としてとらえられた主体や、場所・方向としてとらえられた主体を表わすことがある。
>
> 事態に対処する組織としてとらえられた主体とは、複数の構成員からなるグループや、団体・組織である。
>
> ・私と佐藤でその問題に取り組んだ。
>
> ・その仕事なら、私たちでやっておきます。
>
> ・その件につきましては、我が社でも十分な討論を重ねてきました。
>
> 日本語記述文法研究会(2009：36)

よって、例(17)の「13 市町」の後ろに「で」があるが、その「で」の後ろの「連携」の表す動作である「連携する」の主体は、前の「沿線 13 市町」である。この見出しに現れる「で」は意味的には主体を表す助詞である。したがって、例(17)は【2】タイプの下位種である。例(17)では「沿線 13 市町で連携をしましょう」のように意味解釈ができるだろう。その提言者は黒部市の堀内康男市長であり、連携をする主体は沿線 13 市町の自治体担当者および市民である。

5.3　[デ／ニ／カラ　ヲ]型

続いて、【3】[デ／ニ／カラ　ヲ]のタイプのものを見ていく。

以下、例を挙げておく。

(18)東田シネマ　来場を　(西部朝刊・ 2014.12.19)

［ドキュメンタリー映画の定期上映会「東田シネマ」が 19 日から 3 日間、北九州市八幡東区の市環境ミュージアムで開かれる。10 月に始まった上映会は集客数が目標を大幅に下回っており、主催する運営委員会関係者は「一度、足を運んでもらい、ドキュメンタリーの魅力を知ってほしい」と来場を呼びかけている。……］

(19)「たまり場」で息抜きを　(東京朝刊・ 2014.01.01)

［◇茨城大准教授　長谷川幸介さん／カフェ「結＋1」店主　塩原慶子さん

誰もが気軽に立ち寄り、語らいに夢中になれる場所。そんな“たまり場”作りを実践してきたカフェ「結＋1(ゆいぷらすわん)」の店主塩原慶子さん(58)と、「場」の必要性を提唱する茨城大生涯学習教育研究センター・長谷川幸介准教授(63)に語ってもらった。……］

(20)外国人観光客に快適な環境を　(東京朝刊・ 2014.12.27)

［2020 年の東京五輪・パラリンピックに向けて、県は 26 日、外国人観光客の受け入れ環境整備計画を策定した。多様な食文化に対応できる飲食店を増やしたり、気軽に買い物できるクレジットカード利用店舗を増やしたりする。様々な観点で県内を国際的な観光地として整備し、18 年度には外国人宿泊客数を 13 年度の約 3 倍となる 140 万人まで引き上げて、県内経済の活性化につなげたい考えだ。

県によると、富士山の世界文化遺産登録を追い風として、今年 1〜9 月の外国人宿泊者数は 69 万人を超え、過去最多だった 10 年(年間)の 65 万人を既に超える好調さを示している。さらに、東京五輪・パラリンピック開催によって、県内でも外国人観光客の来訪と観光関連の需要が急増することが期待されるため、外国人観光客が安心・快適に移動や観光を楽しめるよう環境を整備する計画を策定した。

計画は 2014 年度から 18 年度までを期間とし、「誘客・プロモーション」「受け入れ環境の整備」「おもてなし」の三つを基本方針として掲げた。

……

計画策定会議の終了後、定例記者会見に臨んだ横内知事は、「県民ぐるみで外国人観光客を温かく迎える努力をしていかなければならない」と述べ、行政だけでなく民間企業や団体、県民一人ひとりが「おもてなし」の心を持ってほしいと呼びかけた。]

(21)飛び入りで大凧揚げを　(東京朝刊・ 2014.12.30)

[新春の恒例行事「寄居大凧(おおだこ)揚げ」が1月1日、寄居町折原の寄居運動公園グラウンドで行われる。主催の「今市竹とんぼの会」は引き手の飛び入り参加を呼びかけている。

大凧はユネスコの無形文化遺産に登録された細川紙と地元産の竹を使って作った。50畳と24畳の大凧のほか、来年の干支(えと)の羊を描いた新たに製作した9畳の凧も揚げる予定。

同会は「細川紙が無形文化遺産に登録されたことを祝して天高く揚がってほしい」と話す。……]

(22)羊に願いを　(東京朝刊・ 2014.12.30)

[大洗町磯浜町の大洗磯前神社に、来年の干支(えと)にちなんだ羊の大絵馬がお目見えし、参拝客を楽しませている。

同神社では例年、新年の干支の大絵馬を設置している。大きさは縦約3メートル、横約4メートルで、大洗の海と朝日を背景に、真っ白な羊が生き生きと描かれている。

同神社の権禰宜(ごんねぎ)の吉田卓史さんは「年賀状に載せる写真を撮影するために訪れる参拝客も多い。新年に訪れる参拝客には、大きな絵馬を見て幸せな気分になってもらいたい」と話している。]

(23)聖夜に祈りを　(東京朝刊・ 2014.12.25)

[クリスマスイブの24日、盛岡市本町通のカトリック四ツ家教会でミサが開かれ、約250人の信徒や住民らが祈りをささげた。

盛岡白百合学園高の合唱部員らが、火のともったろうそくを手に登場し、清らかな声で聖歌を披露。ミゲル・ヴァレラ神父(62)による聖書の朗読や洗礼式なども行われた。

ミサは25日午前10時からも行われる。……]

(24)「拉致に関心を」　(大阪朝刊・ 2014.12.17)

[米子市出身の拉致被害者・松本京子さん(1977年拉致、当時29歳)の兄・孟(はじめ)さん(67)が16日、鳥取市用瀬町の市立用瀬小学校で講演し、5、6年の児童約50人に、帰国を待つ家族の思いを語った。

……

孟さんは「拉致問題に少しでも関心をもってください」と呼びかけ、将来的に問題解決に取り組む人材が育つことを期待。6年渡辺主吏(しゅり)君(12)は「県内で拉致された人がいることを全然知らなかった。自分の家族が拉致されたらどうしていいか分からないと思う。人ごとと思わず、しっかり考えたい」と話した。]

(25)「楽しむ気持ちで読書を」　(中部朝刊・ 2014.11.21)

[読売新聞社が21世紀活字文化プロジェクトの一環として行っている「活字文化公開講座」(椙山女学園大学、活字文化推進会議主催)が20日、名古屋市千種区の椙山女学園大学星が丘キャンパスであり、約300人が参加した。

「読むことの幸せ」をテーマに、直木賞作家の辻村深月さんと同大文化情報学部の福永智子教授が対談。福永教授が「本を読まない人が増えている」と話すと、辻村さんは「学生の頃までの読書は、その後の長い人生を楽しむための貯蓄」と語り、「何かを学ぼうとするのではなく、楽しもうという気持ちで読書に飛び込んでくれるといい」と呼びかけた。

後半では、辻村さんに学生らが次々に質問した。小説を書く時の視点について聞かれた辻村さんは、「主人公の目線になりきって書く。夢中で書き上げ、ぼう然とすることもある」と答えていた。……]

(26)「ＦＣ今治から代表を」　(大阪朝刊・ 2014.11.08)

[サッカー地域リーグ・四国リーグの「ＦＣ今治」(今治市)のオーナーに就任した元日本代表監督の岡田武史氏(58)が7日、中村知事を表敬訪問した。

県庁を訪れた岡田氏は、中村知事にオーナー就任を報告。中村知事は「これ以上な

い朗報。ぜひ得点を取れるチームを作って」とエールを送った。

岡田氏は「トップから育成選手まで、全員が同じ哲学、プレースタイル、トレーニング方法を実践できるチームを作りたい」と話し、「将来は日本代表を５人は輩出し、『ＦＣ今治こそが日本のサッカー』と言われるのが夢」と意気込みを見せた。

ＦＣ今治の新体制などは、来年２月に発表するという。]

(27)高校サッカー、駅伝　栄光を　(東京朝刊・ 2014. 12. 13)

[甲府市酒折の山梨学院大付高で 12 日、全国高校サッカー選手権(読売新聞社など後援)に出場するサッカー部と、京都市で 21 日に行われる全国高校駅伝大会に出場する男女の両駅伝部の壮行会が開かれた。

壮行会には、同校の全校生徒ら約 1100 人が出席した。望月佑太朗生徒会長(2 年)が「部活の仲間、生徒一人一人も選手の皆さんと共に戦っています。栄光への道を共に勝ち進みましょう」と激励し、選手たちに、花束と全校生徒が作った千羽鶴を贈った。

続いて選手を代表して各部の主将があいさつ。……]

このタイプの新聞見出しは、【2】のタイプと違って、【2】タイプでは現れる動作の主体を表すガ格は省略されており、ゼロの形になっている。ただ、ガ格は省略されても、ガ格は分かる。それに対して、【3】のタイプの見出しは、前半の部分にデ格や、ニ格や、カラ格などが明記されているのがほとんどであり、例(18)のようにゼロの形になっているものもあるが、名詞の意味タイプによって、容易に必要な格が分かる。要するに、このタイプの見出しで表されている出来事・事態を推測・理解するのはさほど難しくないといえるだろう。

記事本文と照らし合わせると次のことが分かるだろう。

例(18)では「東田シネマに来場を呼びかけている」、あるいは、「東田シネマに来場してください」のように意味解釈ができるだろう。その提言者は東田シネマの運営委員会関係者であり、東田シネマに来場をする主体は一般の市民である。例(19)では「『たまり場』で息抜きをしましょう」のように意味が読み取れるだろう。その提言者は茨城大生涯学習教育研究センター・長谷川幸介准教授であり、「たまり場」で息抜きをする主体はカフェ

「結＋1」の店への来客である。例(20)では「外国人観光客に快適な環境を作りましょう」、あるいは、「外国人観光客に快適な環境を提供しましょう」のように意味解釈ができるだろう。その提言者は横内知事であり、外国人観光客に快適な環境を作る主体は県と県民の人々である。例(21)では「飛び入りで大凧揚げをやりましょう」のように意味を読み取ることができるだろう。その提言者は新春の恒例行事「寄居大凧(おおだこ)揚げ」主催の「今市竹とんぼの会」であり、飛び入りで大凧揚げをする主体はその行事に参加する人たちである。例(22)では「羊に願いを込めましょう」のように意味解釈ができるだろう。その提言者は大洗町磯浜町の大洗磯前神社の権禰宜の吉田卓史さんであり、羊に願いをこめる主体はその羊の大絵馬を見た参拝客である。例(23)では「聖夜に祈りをささげましょう」のように意味が読み取れるだろう。その提言者は盛岡白百合学園高の合唱部員たちであり、聖夜に祈りをささげる主体はそのミサに参加した信徒や住民たちである。例(24)では「拉致に関心をもってください」、あるいは、「拉致に関心を持ちましょう」のように意味解釈ができるだろう。その提言者は米子市出身の拉致被害者・松本京子さんの兄・孟さんであり、拉致に関心を持つ主体は社会の人々である。例(25)では「楽しむ気持ちで読書をしましょう」という意味になるだろう。その提言者は「活字文化公開講座」に出席した直木賞作家の辻村深月さんであり、楽しむ気持ちで読書をする主体は本を読む人々である。例(26)では「ＦＣ今治から代表を送りましょう」、あるいは、「ＦＣ今治から代表を出しましょう」のように意味解釈ができるだろう。この例の主体1と主体2は同じタイプである。つまり提言者も代表を送り出す主体も「ＦＣ今治」(今治市)のオーナーに就任した元日本代表監督の岡田武史氏である。例(27)では「高校サッカー、駅伝で栄光を手にしましょう」のように意味解釈ができるだろう。その提言者は甲府市酒折の山梨学院大付高で12日、全国高校サッカー選手権(読売新聞社など後援)に出場するサッカー部と、京都市で21日に行われる全国高校駅伝大会に出場する男女の両駅伝部の壮行会の望月佑太朗生徒会長であり、栄光を手にする主体はその大会に出場する選手たちである。

5.4 ［ヲ］型

続いて、【4】［ヲ］のタイプのものを見ていく。

以下、例を挙げておく。

(28)養護施設出身者の進学応援を　(大阪朝刊・ 2014.12.30)

［児童養護施設で育った高校生らが将来の夢を語り、聴衆の入場料を奨学金の一部にあてるスピーチコンテスト「カナエール」が、関西で2016年にも開催される。地元の支援者を募ろうと、来年1月12日午後1時半から、大阪市中央区のイープランニング・ジャパンセミナールームで、カナエールの仕組みを知る勉強会が開かれる。

……

開催には、一定数の支援者が必要なため、勉強会を通じて参加者を募る。カナエール事務局では「養護施設は関西にも多い。子どもたちの夢をかなえるため、多くの人に参加してほしい」と話している。……］

このタイプは「ヲ」格だけ出てきているものである。例(28)は、「ガ」格が省略されていても、「養護施設出身者の進学に応援を」のように、「ヲ」の前の部分は「ニ」で読める。「ガ」格はみんなで、省略されているみんなに協力を求めるとか、みんなにそうしてほしい、という風に理解できるだろう。動作の主体は全体だったりするわけである。この見出しの場合は、ヲ格の前の部分が「ニ」で読めるので、【3】のタイプの下位種と言える。

本文と照らし合わせると、分かるように、例(28)では「擁護施設出身者の進学に応援しましょう」のように読み取れるだろう。その提言者はカナエール事務局であり、擁護施設出身者の進学に応援をする主体はその応援する力があり、意欲があるたくさんの人である。

5.5　［複文・二文的］型

最後に、【5】複文・二文的のタイプのものを見ていく。前にも触れたように、【5】は【1】～【4】と少し違うタイプである。それは複文・二文的なものであり、後の部分は、【1】～【4】に現れるようなタイプであるが、前の部分はそれに対しての理由付けや条件付けなど、というものになっている。

以下、例を挙げておく。

(29)猛吹雪予想「外出自粛を」　(東京朝刊・ 2014.12.17)

［北海道内は急速に発達した低気圧の影響で、17 日から 18 日にかけて全道的に見通しが全く利かない「数年に一度の猛吹雪」となる見込みだ。低気圧の中心気圧は、強い台風並みの 948 ヘクト・パスカルに達し、昨年 3 月に道内で 9 人が死亡した暴風雪と同規模になる恐れがある。札幌管区気象台は不要不急の外出を控えるように呼び掛けている。……］

(30)知事が惨敗に懸念　「県連立て直しを」　（東京朝刊・ 2014. 12. 16）

［横内知事は 15 日、衆院選の結果について「自民党が全体として好調の中で、山梨は自民党候補が小選挙区では落選した。このままでは自民党を支えてきた党員が減ってしまう」と懸念を示した。元自民党衆院議員でもある横内知事は、「自民党の最大の宝は、県内各地に党員が大勢いること。自民党県連の体制を立て直していくことが必要なのではないか」と苦言を呈した。……］

(31)脱東京集中　広島へ流れを　　（大阪朝刊・ 2014. 11. 14）

［県経済財政会議の第 3 回会合が 13 日、県庁であり、県は来年度の「県政運営の方針」の素案を提示した。

素案では基本方向を「東京一極集中の流れを逆転させ、広島への流れをつくる」とした。その柱に、これまでにないアイデアで事業を生み出す環境づくりといった「新たな経済成長」▽少子化対策、働く女性支援などの「人づくり」▽広島市の土砂災害を教訓としてハード、ソフト一体となった「災害に強いまちづくり」▽広島ブランドの価値向上を図り、県内への定住を促進する「豊かな地域づくり」―を掲げた。……］

このタイプの見出しは複文で、二文的なものである。例(29)は「猛吹雪が予想された」と「外出自粛をしてください」と二つの文からなっている見出しだと言えるだろう。そして、「猛吹雪が予想されたので、外出自粛をしてください」という風に読み込むことができるだろう。つまり、「猛吹雪予想」を「外出自粛を」の原因的関係で読めるといえるだろう。その提言者は札幌管区気象台であり、外出自粛する主体は札幌にいる人間である。

また、例(30)は「知事が惨敗に懸念をした」と「(知事が)県連立て直しを呼びかけている」と二つの文からなっている見出しであり、「知事が惨敗に懸念を示し、県連立て直しをし

ましょう」のように意味解釈ができるだろう。その提言者は元自民党衆院議員でもある横内知事であり、県連立て直しをする主体は自民党の党員たちである。

そして、(31)が何について話しているのか、この見出しだけなら、分からないが、何か東京集中していると、これから、東京集中を脱して、もっと具体的にいえば、「広島へ流れを」と、いうふうに読み取れるだろう。これは本文と照らし合わせると、分かるように、県経済財政会議で「県政運営の方針」の素案なので、県経済財務の運営について、これから、東京集中を脱し、広島へ流れを作るのようにと、十分意味が読み取れるだろう。実は、この見出しの場合は、「『県政運営の方針』の素案提示」という脇見出しが添えられているので、本文を読まなくても、その組見出しによって、事態のおよそを推定・理解できるだろう。例(31)の提言者は県庁であり、広島へ流れを作る主体は県経済財政の関係者である。

以上で分かるように、「を」で終わる新聞の見出しの提言者は社長だったり、代表だったりなど、提言できるなんらかの資格を持った存在であり、そして、提言されている内容の動作主体は特定されていず、個人的ではなく、一般市民や政府や団体、公的機関などである。それは「を」で終わる新聞の見出しの特徴だといえるだろう。

6. ヲ格の前の名詞の特徴

今回の調査・考察したところ、ヲ格の前の名詞は31例のうち、20例が動作性名詞である。たとえば、「アレフ退去を」、「沿線13市町で連携を」、「脆弱な財政　早期脱却を」、「与党税制大綱　消費税10%へ環境整備を」、「ポスト五輪　選手村活用を」など、いずれも、ヲ格の前の名詞は動作性名詞である。

そして、「新人　働き方にメリハリを」のような「メリハリ」は動作性名詞ではないが、様名詞であり、様態を表すことができる。また、「大みそか　老舗の味を」や「拉致に関心を」や「外国人観光客に快適な環境を」などの「味」、「関心」、「環境」のような様名詞でない場合、「味を味わう・楽しむ・見る」、「関心をもつ・高める」、「環境を作る・提供する」のように、われわれは言語表現の力を借りて、容易に見出しの表している事態を推定・理解できる。その中の「外国人観光客に快適な環境を」、「環境」だけを見たら、意味を推定するのが難しいかもしれないが、「外国人観光客に」「快適な」「環境を」を一緒に見たら、先に述べたように「外国人観光客に快適な環境を作る・提供する」

のように容易に読み取れるだろう。

以上で分かるように、ヲ格の前に動作性名詞が多用される。ヲ格の前の動作性名詞の多さは「を」で終わる新聞見出しの大きな特徴と言えるだろう。

7. まとめ

本節では、収集した 31 の実例を詳細に分析することを通し、見出しを止める格助詞「を」の特徴を明らかにした。「を」で止める新聞の見出しは、客観的な情報伝達ではなく、提言を表すのがほとんどである。その見出しのヲ格はほとんど動作性名詞であり、見出しはその動作性名詞の表している動作と動作を求めていることとの二つの部分から意味的には成り立っている。その二つの部分からなっている二重構造の中の部分が見出しとして現れる。提言されている内容の動作主体は特定されなく、個人的ではなく、政府や団体、公的機関などがほとんどである。そして、見出しに現れていない提言者は提言できるなんらかの資格を持った存在である。以上は「を」で終わる新聞見出しの特徴である。

第四節　名詞句と名詞句のみの組み合わせの新聞見出し

本節では、名詞句と名詞句のみの組み合わせの新聞見出しについて検討する。

1.　はじめに

本節で問題にしているのは、次のような事柄である。

事態は、述語と、その述語と関係を持ち事態を形成するいくつかの名詞句とによって出来ている。したがって、見出しが表している事態がどのような事態であるかは、述語の存在が最も重要になる[27]。しかし、述語の候補になる動詞や動作名詞が何ら存在しない見出し、つまり、この研究で問題にしている名詞句と名詞句 の組み合わせのみから出来ている場合、見出しの表している事態は、どのように推定・理解されるのだろうか。

本節は、2014 年の読売新聞の一面の主見出しの実例を収集し、考察対象としている。

(1)衆院きょう解散　(東京朝刊・ 2014.11.21)

(2)徳田議員が辞職　(東京朝刊・ 2014.02.25)

(1)の場合は、「解散」という動作名詞があるので、この見出しからは、「衆院がきょう解散スル」という事態が容易に推定・理解できる。同じように、(2)の場合は、「辞職」という動作性名詞があるので、この見出しからは、「徳田議員が辞職スル」という事態が容易に推定・理解できる。

それに対して、

(3)赤崎、天野、中村氏　(東京朝刊・ 2014.10.08)

(2)のような、単語この場合は名前の列挙で、本文や彼に関わる何らかの事実を、事前に知らなれば、当該見出しだけからは、見出しの表している事態にたどり着けない場合もある。

また、

(4)中央 3 度目の女王　(東京朝刊・ 2014.03.30)

(5)祈りの灯　(東京朝刊・ 2014.03.10)

のように、表題的な場合もある。

その見出しが、名詞句と名詞句の組み合わせのみであっても、そのような見出しから何らかの事態が推定・理解される場合、私たちはどのような情報を手がかりにしているのだろうか。それを考えることが本研究の目的である。

本節では実例をみながらそのことを次の 3 つに分けてみていく。

【1】名詞句に現れる助詞に注目

【2】名詞句の名詞の意味的タイプに注目

【3】知識を利用

ただ、これらは、別々に働いているのではなく、相互的・全体的に働き、私たちは、見出しの表している事態を推定・理解する際に、これらを利用している。

2. 名詞句に現れる助詞に注目

まず、名詞句に現れる助詞に注目する。

最初に、例を挙げておく。

(1)高校総体が開幕　熱戦きょうから　(東京朝刊・ 2014.01.21)

(2)デング熱感染　新宿でも　(東京朝刊・ 2014.09.06)

(3)体外受精　事実婚でも　(東京朝刊・ 2014.01.06)

(4)年金抑制策　来年度にも　(東京朝刊・ 2014.10.16)

(5)専任五輪相　年内にも　(東京朝刊・ 2014.10.15)

(1)は助詞「から」が現れる例であり、(2)と(3)は助詞「でも」が現れる例であり、(4)と(5)は助詞「にも」が現れる例である。以下、それに対して、分析・説明をする。

(1)の見出しは「から」が付いているので、「高校総体が開幕した。熱戦が今日から始まる。」「から」の使用によって、熱戦が今日から始まり、そして、何日間続く意味合いも含意されているだろう。もし「から」を抜いたら、「熱戦は今日である」や「熱戦今日で終わった」のように意味を解釈してしまうだろう。記事本文と照らし合わせてみると、次のようになる。

(1)高校総体が開幕　熱戦きょうから　(東京朝刊・ 2014.01.21)

［全国高校総体（インターハイ）の第63回全国高校スケート・アイスホッケー選手権大会（全国高体連など主催、読売新聞社共催）が20日、青森県八戸市で開幕した。

……

競技は21日から始まり、24日までの4日間、ソチ五輪日本代表のウィリアムソン師円（しえん）選手（山形中央高校3年）ら、北海道から沖縄県まで33都道府県232校の選手約1000人が熱戦を繰り広げる。……］

(1)下線部のところを参照すると、この見出しでは「高校総体が開幕した。熱戦が今日から始まり、(24日までの4日間である)」のように事態が読み取れる。

(2)、(3)の「でも」は、格助詞の「で」＋「も」である[28]。(2)の「も」は「新宿で」を自者[29]とし、その他者「新宿」以外の場所でも「デング熱感染者が出た」(「デング熱感染」は「デング熱感染者」のように解釈できる)ことを暗示している。見出しには他者である新宿以外の場所は現れていないが、見出しは記事本文に従属するものなので、記事本文と照らし合わせ見て見ると、次のようになる。

(2)デング熱感染　新宿でも　(東京朝刊・ 2014.09.06)

［厚生労働省は5日、埼玉県内の30歳代男性が東京・西新宿の新宿中央公園内でデング熱に感染したとみられると発表した。男性はこれまで感染場所とされてきた代々木公園（東京都渋谷区）周辺に立ち寄っておらず、直近の海外渡航歴もなかった。先月26日に約70年ぶりの感染者が判明して以降、代々木公園以外で感染が確認されたのは初めて。

同省などによると、岩手や山口などでも新たに13人の感染が確認され、5日現在の感染者は15都道府県で計72人となった。……］

(2)下線部のところを参照すると、新宿以外に、デング熱感染者は最初の感染場所である代々木公園、さらに岩手や山口など15都道府県であることが分かった。もし、この見出しの「でも」を抜いたら、つまり、「デング熱感染　新宿」になったら、「デング熱感染者が新宿で発見された」、あるいは「デング熱感染者が新宿で出た」のように意味解釈し、新宿以外の場所は暗示しないだろう。また、この新聞は東京版なので、読み手は東京圏に

住んでいる人がメインなので、「でも」の使用により、われわれの近くにもデング熱感染者が出たよ、みんな気をつけろと読者に注意する効果もあると考えられる。

また、(3)は(2)と同様のように考えられる。「事実婚で」を自者、それ以外――つまり、「結婚した夫婦」――を他者とすれば、「も」は「体外受精について」事実婚でも結婚した夫婦でも認められる。つまり、自者と他者の両方を肯定していると言える。ただ、(2)の他者は本文を見ないと分からないに対して、(3)の他者は「結婚した夫婦」であることは本文を見なくても、常識の力によって分かるはずだろう。もし、この見出しの「でも」を抜いたら、結婚した夫婦が暗示されなくなるので、誤解を与えてしまうので、無理だろう。

それに対して、(4)と(5)の「にも」は、格助詞「に」＋「も」である。この二つの見出しでは、他者はなんと特定できない。つまり、他者は存在しないのである。それにもかかわらず、「も」があるのは、そのことによってあたかも他者が存在するかのような表現とし、次の(4’)(5’)のように「も」のない直接的な表現に比べて、間接的な和らげの表現とする効果がある。

(4’)　年金抑制策　来年度に　(作例)

(5’)　専任五輪相　年内に　(作例)

(4)と(5)それぞれ記事本文と照らし合わせてみると、次のようになる。

(4)年金抑制策　来年度にも　(東京朝刊・2014.10.16)

［厚労省が目指す公的年金の抑制策は「マクロ経済スライド」と呼ばれ、実施されれば04年の年金制度改革で創設されてから、初めての適用となる。

15日の社会保障審議会年金部会では、厚労省側が抑制策の実施を提案し、有識者ら委員からはほとんど反対はなく、大筋で了承された。厚労省はこの日、抑制策の適用時期については明言しなかったが、抑制策の適用に向けた検討を本格化させる考えだ。

……

14年時点では、調整率は1.2～1.3%と見込まれている。このため、物価や賃金が2%上昇した場合でも、抑制策を適用すれば、もらえる年金の額は0.8～0.7%しか増えない。ただ、現行の抑制策は物価や賃金が上昇するインフレを前提としており、物価・賃金が下落するデフレは想定していなかった。厚労省は、デフレでも適用できるよう

に、抑制策の仕組みの見直しに着手する。与党の合意が得られれば、来年の通常国会にも国民年金法などの改正案を提出する方針だ。］

(5)専任五輪相　年内にも　（東京朝刊・ 2014. 10. 15）

［2020 年東京五輪・パラリンピックに向けた準備を円滑に進めるため、政府が臨時国会での成立を目指す「五輪・パラリンピック特別措置法案」（仮称）の全容が 14 日、明らかになった。法律の公布から 1 か月以内に安倍首相を本部長とする推進本部を内閣に設け、専任の五輪相を置く。政府は今月下旬にも特措法案を閣議決定し、五輪準備を加速させる考えだ。

首相をトップとする推進本部は、現在の東京五輪推進室（室長・平田竹男内閣官房参与）を格上げして全閣僚をメンバーとし、副本部長は菅官房長官と五輪相が務める。専任の五輪相には、自民党の遠藤利明元文部科学副大臣の起用が有力視されている。

……

政府は各党の理解を得て早期に成立させ、推進本部と専任の五輪相を年内にも設置したい考えだ。］

記事本文と照らし合わせてみると、分かるように、(4)年金抑制策はいつ実施されるか、まだ分からない、厚労省は「抑制策の適用に向けた検討を本格化させる考え」があるので、また、「厚労省は、デフレでも適用できるように、抑制策の仕組みの見直しに着手する。与党の合意が得られれば、来年の通常国会にも国民年金法などの改正案を提出する方針だ。」したがって、来年に実施される見込みである。もし、この見出しの「も」や「にも」を抜いたら、見出しで現れる事態は既に決まっていることになってしまう。(5)も同様、「法律の公布から 1 か月以内に安倍首相を本部長とする推進本部を内閣に設け、専任の五輪相を置く。」しかし、法律の公布はまだだし、そして、「政府は各党の理解を得て早期に成立させ、推進本部と専任の五輪相を年内にも設置したい考えだ。」なので、年内に専任五輪相を置く見込みである。もし、この見出しの「も」や「にも」を抜いたら、決まっていることを伝えることになってしまうので、正確さに欠けてしまうだろう。

第三章の表 3-3 から分かるように、読売新聞の 2014 年の一年分の一面の助詞止めの主

見出しの181本の内「へ」で止める見出しは92本で、「に」で止める見出しは49本で、「へ」、「に」で止める見出しの数が上位の2位であるが分かった。実は見出しの文末だけでなく、見出しの文中にも「へ」、「に」の多用が見られる。

以下、このように文中に「に」「へ」が現れる見出しを、格助詞の種類によって、二つのグループに分けて、いくつか例をいくつか挙げておく。

(1)a 商品不当表示に課徴金　(東京朝刊・ 2014.06.07)

b 自然・史跡保全に入域料　(東京朝刊・ 2014.05.11)

c ピーク時節電に協力　(東京朝刊・ 2014.08.06)

d 子宮移植に倫理指針　(東京朝刊・ 2014.08.16)

e 日韓首脳　会談に意欲　(東京朝刊・ 2014.11.14)

(2)a 子供の貧困解消へ12指標　(東京朝刊・ 2014.07.27)

b 地方人口維持へ戦略　(東京朝刊・ 2014.07.26)

c 女性登用促進へ新法　(東京朝刊・ 2014.07.14)

d 再生医療普及へ保険　(東京朝刊・ 2014.09.14)

e 「イスラム国」壊滅へ決意　(東京朝刊・ 2014.09.25)

f アフリカ成長へ投資　(東京朝刊・ 2014.01.15)

(1)は文中に格助詞「に」が現れる例であり、(2)は文中に格助詞「へ」が現れる例である。

上の見出しの格助詞の前に現れる名詞(1)の「表示」、「保全」、「節電」、「移植」、「会談」と(2)の「解消」、「維持」、「促進」、「普及」、「壊滅」、「成長」などは、すべて動作性名詞である。しかし、それらは、格助詞の違いによって意味解釈が違ってくる。

次に、上で取り上げた例を、グループごとにひとつずつ記事本文と照らし合わせながらみていく。

(1)a 商品不当表示に課徴金　(東京朝刊・ 2014.06.07)

［ホテルや百貨店などの食材や食品メニューの虚偽表示問題を受け、消費者庁は、景品表示法の違反業者に対して課徴金を科す制度を導入する方針を決めた。現在の行政処分だけでは不当表示を防げないと判断した。違反業者にペナルティーを加えるとともに消費者の被害回復を図るため、違反業者が商品の購入者に返金すれば、課徴金を減額する仕組みも導入する考えだ。……］

(2)a 子供の貧困解消へ 12 指標　（東京朝刊・ 2014. 07. 27）

［貧しい家庭に生まれた子供の教育や生活を支援するため政府が定める「子供の貧困対策に関する大綱」の原案が判明した。貧困状況に置かれている子供の実態を的確に把握するため、「生活保護世帯の高校進学率」など 12 項目を「子供の貧困に関する指標」と定め、改善していくために政府が今後 5 年間、行う重点施策を盛り込んだ。政府は 8 月上旬にも閣議決定する方針だ。……］

記事本文と照らし合わせてみると分かるように、例(1)a の格助詞「に」の前の「商品部不当表示」は既に起こっていることであり、その現象に対して、対策として、「課徴金を科す制度を導入する」ことになる。

それに対して、例(2)a の格助詞「へ」の前の「子供の貧困解消」はまだ実現していない事柄であり、「子供の貧困解消」に向けて、「12 指標」を定めるということになる。本章の第一節では、新聞見出しの文末に注目して、見出しを止める格助詞「へ」の特徴を明らかにし、「へ」の前に来る動作性名詞は「へ」の働きによって、予定性や未来性を表すことができると指摘している。実は、今見てきたように、文末だけでなく、文中であっても、そのような「へ」の特徴が働いている。

また、格助詞「に」と「へ」については、従来、次のようなことが言われている。

格助詞「へ」の基本的な使い方は方向を表し、格助詞「に」の基本的な使い方は着点を表す。格助詞「に」と格助詞「へ」と置き換えが可能である一般的にされている（日本語記述文法研究会(2009)、益岡・田窪(1987)、野田(1991)）。

以下は先行研究を要約的に紹介していく。

移動を表す動詞では、「に」と「へ」がほぼ同じ意味を表す。一方で、接触を表す動詞の着点は、「へ」では表しにくい。

・糸くずが服{に／？へ}つく。

・お母さんがケーキ{に／？へ}ろうそくを立てる。

「に」は変化の結果を表すことができる。変化前の状態が想定できる場合は、「へ」でも表すことができる。

・信号が赤から青{に／へ}変わる。

・米をすりつぶして粉{に／へ}変える。

ただし、「なる」「する」という抽象性の高い動詞(例(1)(2))がとる「に」や、決定を表す動詞(例(3))がとる「に」は、「へ」では表せない。

・信号が赤から青{に／※へ}なる。・・・・・・・・・(1)

・米をすりつぶして粉{に／※へ}する。・・・・・・・(2)

・委員長を田中さん{に／※へ}決める。・・・・・・・(3)

なお、「へ」は「の」を介して名詞を修飾することができる。「に」は「の」をつけることができないため、名詞を修飾する場合は、もっぱら「への」が用いられる。

・駅{※にの／への}到着

・職員{※にの／への}採用

日本語記述文法研究会(2009：62-63)

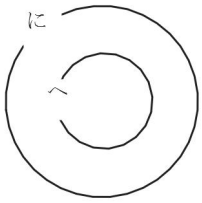
へは人や物が動いていく方向を示すが、目的地を示すニとほとんど区別なく使うことができる。

例（3）こちら｛へ／に｝おいでの節は、ぜひお立ち寄り下さい。

例（4）やっと故郷｛へ／に｝帰って来た気がした。

益岡・田窪(1987：56)

だいたい「へ」が使えるときは「に」に置きかえられますが、逆はだめです。図のように、「へ」のほうが狭く「に」のほうが広いということです。



野田(1991：48)

したがって、例(1)a の格助詞「に」は「へ」に置き換えられない。例(2)a の「へ」は「に」に置き換えようと思えば置き換えられるが、「に」に変えたら、ニュアンスは違ってくる。「へ」の場合は未来性や計画性が暗示されているに対して、「に」はただの目的性を表していることになっている。

3.　名詞句の名詞の意味的タイプに注目

次に、名詞句の名詞の意味的タイプに注目する。

以下は、同じ格助詞を伴った名詞句の型と格助詞の付いていない型との二つに分けて見て見よう。

3.1　同じ助詞を伴った名詞句の型

まず、同じ格助詞を伴った名詞句の型を見てみよう。

以下、タイプが違う例をいくつか具体的に挙げておく。

そのタイプとして、(1) (2) (3) (4) を取り出す[30]。

(1)a 沖縄知事に翁長氏　(東京朝刊・ 2014. 11. 17)

b 内閣人事局長に加藤氏　(東京朝刊・ 2014. 05. 20)

c 幹事長に谷垣氏　(東京朝刊・ 2014. 09. 03)

d 福島知事に内堀氏　(東京朝刊・ 2014. 10. 27)

e 監督にアギレ氏　(東京朝刊・ 2014. 07. 25)

f 経団連会長に榊原氏　(東京朝刊・ 2014. 01. 10)

g 五輪委会長に森元首相　(東京朝刊・ 2014. 01. 09)

h みんな代表に浅尾氏　(東京朝刊・ 2014. 04. 12)

i 都知事に舛添氏　（東京朝刊・ 2014.02.10）

j みんな代表に浅尾氏　（東京朝刊・ 2014.04.12）

(2)a 正力賞に秋山前監督　（東京朝刊・ 2014.11.06）

b 第65回　読売文学賞に6氏　（東京朝刊・ 2014.02.01）

c ゴールド・メダル賞に齊藤、東山、水島氏　（東京朝刊・ 2014.03.18）

(3)a 沖縄に日米新薬拠点　（東京朝刊・ 2014.01.28）

b 奄美・宮古・石垣に新部隊　（東京朝刊・ 2014.05.19）

c 中間貯蔵施設に「地上権」　（東京朝刊・ 2014.07.29）

(4)a 外国人に特区在留資格　（東京朝刊・ 2014.05.13）

b 中間貯蔵　福島に3010億円　（東京朝刊・ 2014.08.09）

(1)グループの見出しの例は、格助詞「に」の前は地位・肩書きを表す名詞であり、「に」の後ろは人名詞である。それに対して、(2)グループの見出しの例は、格助詞「に」の前は賞を表す名詞であり、「に」の後ろは人名詞である。そして(3)グループの見出しの例は、格助詞「に」の前は場所を表す名詞であり、「に」の後ろは物名詞[31]である。(4)グループの見出しの例は、「に」の前は人及び組織名詞であり、「に」の後ろは人に与えられたり、授けられたりする物名詞である。

次はタイプごとに例を見てみよう。

(1)のタイプは地位・役職を表す名詞が出現するタイプである。(1a)の「沖縄知事」は地位・役職を表すものであり、「翁長氏」は人の名前であり、人名詞と役職を表す名詞が来ている。これは、能動表現的に考えたら、「誰が何になる・就任する」と解釈でき、自動・受動表現的に考えたら、「何に誰が当選する・選ばれる」とか、[が　に]という文型が簡単に思い浮かぶことになる。言い換えれば、前の組み合わせによって、後ろに省略される動詞が推測できる。つまり、この見出しでは「翁長氏が沖縄知事になった・就任した」「沖

縄知事に翁長氏が選ばれた・当選した」のような事態を推定させる。同じように(1b)は「内閣人事局長に加藤氏が選ばれた・当選した」、(1c)は「幹事長に谷垣氏が選ばれた・当選した」というふうに、簡単に見出しで現れる出来事が読み取れるだろう。そして、(1d)～(1j)も同じように、「に」の後ろに来ている人が、「に」の前に来ている地位・役職を表す名詞になる、というように意味解釈ができるだろう。

それに対して、(2)のタイプは賞を表す名詞が出現するタイプである。(2a)の「正力賞」は賞の名前であり、「秋山前監督」は人を表す名詞である。その二つの名詞句の意味タイプによって、「正力賞に秋山前監督が選ばれた」、あるいは「正力賞に秋山前監督が輝いた」のような事態を推定できる。同じように、(2b)「第65回　読売文学賞に6氏が選ばれた」、「第65回　読売文学賞に6氏が輝いた」、(2c)は「ゴールド・メダル賞に齊藤、東山、水島氏が選ばれた」、「ゴールド・メダル賞に齊藤、東山、水島氏が輝いた」のように出来事が読み取れるだろう。(1)と(2)の格助詞「に」の後ろの名詞は同じような人名詞であるのに、なぜその後ろの省略されたと思われる述語が違うのかというと、「に」の前の名詞句の意味タイプが違うからである。

また、(3)のタイプは場所に関わる名詞が表されるタイプである。(3a)の「沖縄」は場所名詞であり、「日米新薬拠点」は物名詞である。これらの名詞句の意味タイプと格助詞「に」の機能によって、能動表現的に考えたら、「沖縄に日米新薬拠点を設置する」。自動表現的に考えたら、「沖縄に日米新薬拠点が出来る」。いずれにしても、この見出しで読み取れる出来事は同じである。同じように、(3b)は「奄美・宮古・石垣に新部隊を配備する」、(3c)は「中間貯蔵施設に『地上権』を設定する』というふうに読み取れるだろう。「中間貯蔵施設」は一次的には物名詞であるが、ここでは、「に」の使用から分かるように場所名詞の働きをしている。

それに対して、(4)のタイプは与えられたり、授けられたりする物名詞が現れるタイプである。(4a)の「外国人」は人名詞であり、「特区在留資格」は与えられたり、授けられたりする名詞である。この二つの名詞の意味タイプと格助詞「に」の機能によって、能動表現的に考えたら、「外国人に特区在留資格を与える」。自動的に考えたら、「外国人に特区在留資格が与えられる」。いずれにしても、この見出しで読み取れる出来事は同じである。また、(4b)「に」の前の「福島」は地名であるが、「に」の後ろに「3100億円」というものが来ているので、ここでの「福島」は組織を表す名詞として使われると思われる。

この見出しでは「中間貯蔵のため、福島に3100億円を供与する」、あるいは、「中間貯蔵のため、福島に3100億円を与えられる」のように意味解釈ができるだろう。

3.2　助詞が付いていない型

引き続き、格助詞が付いていない場合も少し見てみよう。

まず、格助詞の付いていない見出しを少しばかり例を挙げておく。

(1)ガニ氏　アフガン大統領　(東京朝刊・2014.09.22)

(2)沈没韓国船　不明277人　(東京朝刊・2014.04.17)

(3)ウルムチ爆発　死者31人　(東京朝刊・2014.05.23)

(4)広島土砂崩れ　死者39人　(東京朝刊・2014.08.21)

(5)広島　不明51人　(東京朝刊・2014.08.22)

(6)富士山　避難47万人　(東京朝刊・2014.02.07)

(7)大雪　死者13人　(東京朝刊・2014.02.10)

(8)大雪孤立　なお3601人　(東京朝刊・2014.02.19)

(1)の見出しは、「ガニ氏」は＜人＞を表しており、「アフガン大統領」は人でもあるが、＜資格・地位・役職＞といったものであり、「ガニ氏」と「アフガン大統領」との二つの名詞の意味タイプによって、[ガ　ニ]の文型に想定でき、(1)の見出しでは「ガニ氏がアフガン大統領になる」のような事態を推定させる。これは格助詞「に」は付いていないが、3.1の(1)と同じようなタイプの見出しと言えるだろう。

それに対して、(2)(3)(4)の「沈没韓国船」、「ウルムチ爆発」、「広島土砂崩れ」は出来事場面であり、その後ろに来る「不明277人」、「死者31人」、「死者39人」はそれぞれの場面で起こった出来事の結果である。(2)では「韓国船が沈没した事件で不明者が277人になった・達している」、(3)では「ウルムチ爆発事件で死者31人になった」、(4)では「広島土砂崩れで死者が39人になった」のように意味解釈ができるだろう。また、(5)の場合は、(4)に近いが、出来事場面を表す表現は異なる。「広島土砂災害」の代わり、「広島」だけが使われている。(5)は広島土砂災害発生後3日目の記事であるので、テレビや新聞などを通して、既にこの災害についての情報を持っている読み手にとっては、比

較的容易に「広島土砂災害で不明者が 51 人になった」のような事態を推定させるだろう。

それに対して、(7)の「大雪」は自然現象を表す名詞であり、「大雪」と「死者 13 人」との意味タイプによって、容易に「大雪で死者が 13 人になった」との事態を推定させるだろう。同じように、(8)では「大雪で孤立した人はなお 3601 人になった」のように意味解釈ができるだろう。(8)の「大雪」と「孤立」の間に助詞なしでくっ付いているが、それぞれの意味タイプによって、「大雪で孤立した」のように読み取れる。実は次の(9)のように原因的で読める助詞「で」が明示されるケースもある。

(9)大雪で孤立なお 7700 人　(東京朝刊・ 2014.02.18)

引き続き、以下の用例を見てみよう。

(10)近畿・北陸など豪雨　(東京朝刊・ 2014.08.18)

(11)台風　那覇 50 メートル暴風　(東京朝刊・ 2014.07.09)

(12)巨大台風　命奪う雨・風・波　(東京朝刊・ 2014.03.14)

(13)都心　また週末大雪　(東京朝刊・ 2014.02.15)

(10)～(13)は自然現象を表す名詞が現れるタイプである。(10)の「近畿・北陸など」は地域を表す名詞であり、「豪雨」は自然現象を表す名詞である。地域を表す名詞と自然現象を表す名詞が来ている。これは、「どこそこにこんな自然現象が発生する」のように意味解釈ができるだろう。(11)の「台風」と「暴風」は自然現象を表す名詞であり、「50 メートル」は「暴風」の修飾語であり、「那覇」は地名である。それぞれの名詞の意味タイプによって、「台風で、那覇 50 メール暴風が吹き荒れる」のように事態が推測できるだろう。(12)の「台風」「雨・風・波」は自然現象を表す名詞であり、それぞれ修飾語も付いている。「巨大台風」、「命奪う雨・風・波」、この二つの名詞句は意味タイプによって、並列的に読んでもいいし、原因的に読んでもかまわないだろう。つまり、「巨大な台風がある。命を奪う雨・風・波が発生する」、あるいは、「巨大な台風で命を奪う雨・風・波が発生する」のように意味解釈ができるだろう。もちろん、台風の影響で雨・風・波が発生するケースが多いので、後者の読み方が一般的であると思われる。そして、(13)は「都心はまた週末大雪が降る(恐れがある)」のように意味解釈ができるだろう。

4.　知識を利用

最後に、知識を利用することに触れていく。

新聞は私たちの身の回りに起こった出来事、起こる予定の出来事を伝えている。したがって、新聞の読み手は、本文の内容が伝える出来事・事柄について、既にかなり程度に知っていることが少なくない。そのような、読み手の既に持っている知識・常識が、名詞句の組み合わせしか出現しない見出しに出くわした時に働くことになる。

以下、言語知識と背景知識・常識との二つに分けて述べていく。

4.1　言語知識

まず、言語知識の利用について見ておく。以下、少しばかり例を挙げておく。

(1)熱戦火ぶた　(東京朝刊・ 2014.02.07)

(2)新人　働き方にメリハリを　(東京朝刊・ 2017.04.02)

(3)大みそか　老舗の味を　(東京朝刊・ 2014.12.30)

(4)「登山　命守る意識を」　(東京朝刊・ 2014.11.11)

(5)外国人観光客に快適な環境を　(東京朝刊・ 2014.12.27)

以上の見出しは、常に慣用表現の力を借りて簡単に見出しの表している事態が推定・理解できる。たとえば、(1)「熱戦火ぶた」の「火ぶた」の語義につながる慣用表現である「火ぶたをきる」あるいは「火ぶたがきられる」が自然に浮かんでくることができる。なので、(1)の見出しは「熱戦(が)火ぶたをきる」のように読み取れるだろう。同じように、(2)は「新人が働き方にメリハリをつける」(3)は「大晦日　老舗の味を味わう」(4)は「登山　命を守る意識をもつ・高める」のように簡単に見出しの表している事態が推定・理解される。

そして(5)の場合は、「環境を」だけを見たら、難しいかも知れないが、前の「外国人観光客に」「快適な」などを一緒に見たら、「外国人観光客に快適な環境を作る・提供する」のように簡単に読み取れるだろう。実は、この見出しは「に」の使用により、「ニ　ヲ」という文型の力により、意味が簡単かつ正確に読み取れる。もし、格助詞「に」を抜いてしまうと、「外国人観光客　快適な環境を」だったら、一般的には「ガ」格で読まれて、「外国人観光

客が快適な環境を楽しむ」のような意味解釈が普通であろう。前でも触れたように、名詞句に現れる助詞、名詞の意味タイプ、そして知識の利用、この三つの要素が総合的に働いている。

4.2　背景知識・常識

それから、背景知識・常識の利用についても触れておく。以下、二三例を挙げておく。

(1)内村　2度目の栄冠　(東京朝刊・ 2014.01.18)
(2)羽生　不屈の舞　(東京朝刊・ 2014.11.09)

「内村」が日本の有名な常勝の体操競技選手であり、「羽生」が有名なフィギュアスケート選手であることを知っている人間には、体操の選手は試合に出ることがあり、そして一番いい試合成績、勝利のしるしとしての名誉である「栄冠」をとり、今度は「2度目の栄冠」であるし、フィギュアスケート選手はハードル・目標に挑み、怪我をしても何をしても諦めず、一生懸命に演じてくれた舞である。このようなことを知っている読み手には、(1)を「内村が2度目の栄冠を獲得した」、(2)を「羽生が不屈の舞を演じた」として理解することは、さほど難しいことではない。

5.　まとめ

まとめると上述したように、名詞句の組み合わせのみの見出しに出くわした時、新聞の読み手は、上で述べたような【1】助詞に注目、【2】名詞句の意味タイプに注目、【3】知識を利用、などのような情報を利用して、見出しの表している事態のおよそを推定・理解している。

第五章　全体のまとめと今後の課題

本章では、本論文の全体のまとめを行い、それから、残された今後の課題について述べる。

1.　全体のまとめ

まず、本論文における論証を総括する。

本研究は、読売新聞のデータベースを利用して、読売新聞の 2014 年一年分の一面の主見出しを取り出し、考察対象として、新聞見出しの表現形式と構文的な特徴を明らかにした。

本稿は、五章から構成されている。各章の概要は、次の通りである。

第一章では、本研究の研究背景、研究対象、目的、方法、意義などについて述べた。そして、先行研究をまとめた後で問題点を示した。

第二章では、新聞見出しに関する基本的な概念と新聞見出しの特徴について検討した。先行研究を踏まえ、新聞見出しの役割と効用性は次の七つにまとめた。(1)選択性、(2)誘引性、(3)代行性、(4)要約性、(5)暗示性、(6)速報性、(7)予告性・予測性の七つである。

第三章では、収集した 2014 年一年分の一面の総本数 1479 の主見出しについて、止め方、臨時一語の使用、テンスやアスペクト、そして、モダリティ、の四つの面から見出しに現れる表現形式を検討した。止め方について名詞止め、助詞止め、動詞止め、形容詞止め、形容動詞止め、副詞止めとその他七つに分類してみた。そして、更にその中で一番多くを占める名詞止めについて、見出しを止める名詞の下位分類を試みた。また、臨時一語の多用についても触れた。そして、記事本文と照らし合わせながら、テンスとアスペクトの不明示、モダリティの欠如についても検証した。それに、テンスとアスペクトの不明示、モダリティの欠如の要因についても究明した。

第四章では、新聞見出しの構文的な特徴を検討した。まず、日本語の新聞見出しの典型的な特徴である助詞止めの中で注目されるべき、客観的な事実報道のタイプの「へ」、「に」止めについて検討した。それから、それと少し違う、主張型であり、提言を表すタイプの「を」止めの新聞見出しについて検討した。最後に、述語に相当するものが現れない、名詞句と名詞句のみ組み合わせの新聞見出しについて検討した。

「へ」止めの新聞見出しについては、次のようにまとめられる。通常の場合、「へ」の基本的な使い方は方向を表す。それに対して、見出しを止める「へ」の使い方は豊かになる。「へ」の意味役割はその前に現れる語によって変わってくる。見出しでよく使われる使われ方としては、未来性や予定性などを意味するものがある。「へ」で終わる見出しが多いことと、通常の文での格助詞「へ」が持っていない使われ方を、見出しではしていることが、見出しの大きな特徴だといえる。「へ」なしの動作性名詞止めでは、「予定」、「既定」または「進行」、いずれも表わすことができるが、「動作性名詞＋へ」は「予定」しか表わせない。これが動作性名詞止めと「動作性名詞＋へ」止めの違いである。

「に」止めの新聞見出しの特徴としては、次のようにまとめられる。通常の場合の「に」の使い方には、10 種類以上あるのに対し、見出し末の「に」の使い方は少ない。「に」の意味役割はその前に現れる語に深く関わっているが、見出しでの使われ方としては、「に」の中心的な使い方である変化の結果を表すものがほとんどである。人間の意志の場合は未定のことが多い。それに対して、自然現象の場合は「既定」のことがほとんどである。自然現象か、人間の意志に関わるか、によって、「既定」か「未定」かに分かれる。

「を」止めの新聞見出しの特徴としては、次のようにまとめられる。「を」で止める新聞見出しは、客観的な情報伝達ではなく、提言を表すのがほとんどである。その見出しのヲ格はほとんど動作性名詞であり、見出しはその動作性名詞の表している動作と動作を求めていることとの二つの部分から意味的には成り立っている。その二つの部分からなっている二重構造の中の部分が見出しとして現れる。提言されている内容の動作主体は特定されなく、個人的ではなく、政府や団体、公的機関などがほとんどである。そして、見出しに現れていない提言者は提言できるなんらかの資格を持った存在である。以上は「を」で終わる新聞の見出しの特徴である。

そして、述語に相当するものがなんらかの形で存在しない、名詞句と名詞句のみの組み合わせの見出しに出くわした時、新聞の読み手は、【1】助詞に注目、【2】名詞句の意味タイプに注目、【3】知識を利用、などのような情報を利用して、見出しの表している事態のおよそを推定・理解していることを明らかにした。

第五章では、全体のまとめと今後の課題について触れた。

2.　今後の課題

最後に、これから検討すべき課題について触れる。

本稿では、日本語の新聞見出しの表現形式と構文的な特徴について考察を行った。しかし、新聞見出しには、本稿で論述した以外に、色々な表現形式や構文的な特徴があるが、今回の分析だけですべてをカバーできるものではない。そして、今回主に主見出しについて検討したが、脇見出しなどについての分析にはほとんど触れていない。今後、それをも含めて、もっと視点を広げ、より全面的に新聞見出しについて検討する。また、中国語の新聞見出しとの比較の視点から考えていくことも、今後の課題としたい。

注：

[1] http://www.yomiuri.co.jp/database/rekishikan/

ヨミダス歴史館：データベース：YOMIURI ONLINE(読売新聞)

[2]「を」で終わる用例だけ、範囲を広げて収集した。

[3] 読売新聞のデータベースの分類を参照。

[4] 見出しそのものにスペースがあるが、本稿では、すべて全角の空白で示す。以下同。

[5] その中の(2)(3)(4)は朱(1992：289)の要点まとめの(1)(2)(3)からの引用。ただ、割合を示す数字はアラビア語の数字に変えた。

[6] 田中(1997)の調査結果は次の表のようになる。

見出しの最後		本数	割合(%)	本数	割合(%)
名詞	動作性名詞	179	25.8	553	79.7
	名詞のみ,ノ＋名詞	246	35.4		
	属性叙述(～ハ～)	41	5.9		
	名詞＋格助詞＋名詞	60	8.7		
	連体修飾節＋名詞	27	3.9		
名詞＋ヲを除く格助詞		57	8.2	57	8.2
名詞＋ヲ		6	0.9	6	0.9
名詞＋副助詞		5	0.7	5	0.7
動詞	ル形	29	4.2	54	7.8
	タ形	7	1		
	連用形	5	0.7		
	動詞＋ズ	7	1		
	動詞＋ヌ	4	0.6		
	動詞＋ナイ	2	0.3		
形容詞	イ形	1	0.15	4	0.6
	ク形	2	0.3		
	形容詞＋ナイ	1	0.15		
形容動詞	語幹のみ	4	0.6	6	0.9
	連用形	2	0.3		
その他		8	1.2	8	1.2
合計		693	100	693	100

[7] 本稿では「見出し」と略する場合もある。

[8] 水内(2002b)を参照。新聞見出しの実例は読売新聞データベース(ヨミダス歴史館)から抜き出したものである。

[9] このことについて、田中(1998)は共同通信社の『記者ハンドブック――用字用語の正しい知識』(第6版, 1990)から引用したが、内容は共通通信社(2012)と同じである。

[10] 田中(1998)では、(21)(22)(23)(24)のように番号を付けたが、ここでは(1)(2)(3)(4)で表記する。

[11] 田中(1998)では(22)と表記されている。

[12] 次の4.1～4.5は菅野謙(1988：823)を参照。

[13] 田中(1998)によって、田中(1997)では、「止め方」によるより詳しい分析を行うため、1996年7月1日と2日の朝日新聞東京版の朝・夕刊に掲載された社説やコラムを除く一般記事のすべての見出し693例について調べた。結果としては、最後に「名詞で終わるもの」が圧倒的に多く、次が「名詞＋ヲを除く格助詞」、そして「動詞で終わるもの」となっており、この三つを合わせると全体の95%を超えると述べている。

[14]『読売新聞』のデータベースを利用して、『読売新聞』(読売新聞社　東京　朝刊のみ)の2014年一年分の一面の主見出しを取り出し、「編集手帳」と「解」という欄の見出しを除いたものである。

[15] 時名詞について、仁田(2010a：294)では、次のように述べている。

時の成分になり得る名詞は、当然の事ながら、時といった意義特徴を有する名詞でなければならない。これを、＜時名詞＞と仮称する。この事は、いうまでもないことであるが、次のような＜物名詞＞や＜所名詞＞が時の成分に成りえないことや時の成分として解釈されえないことを考えれば重要である。

(17)※石ニ私ハ本ヲ読ム。

(18)※仙台ニ私ハ本ヲ読ム。

(19)月曜日ニ私ハ本ヲ読ム。

「石」や「仙台」といった物や場所を表す名詞は、＜物名詞＞＜所名詞＞と名づけられ、＜時名詞＞とは区別されなければならない。(19)は、＜時名詞＞であることによって、逸脱性のない時の成分を形成する。

[16] 田窪(1984：96)によれば、場所名詞とは、次のような特徴を持つとされている名詞である。

①「のところ」がつかない,

②「どこ」できける,

③移動の goal, source になる,

④場所の状況語句の「NP で」の NP になれる,

⑤存在を表す文において「位置」を表す「NP に」の NP の位置に現れる。

[17] このことについては、田中(1998)も指摘している。

[18] [　]内には記事内容の一部である。その中の「……」は省略を表す。下線は筆者が付けたものである。以下同。

[19] このことについては、田中(1998)も指摘している。

[20] 田中(1998)では「イ形容詞は、見出しの最後に来る場合は絶対に「イ形」にならず、「タ形」が使われる。」と指摘しているが、今回の考察では、3.4 の例(1)「月の中心　今も熱い」のような「イ形」で終る見出しもあった。しかし、稀である。引用内以外「ク形」がほとんどである。

[21] 本節は、劉 (2017a) をもとに、加筆修正を加えたものである。

[22] 李(2008)では、「に」格が関与する事象は記事の掲載時点では既に実現されたことを「既成」と呼んでいる。本稿では「既成」ではなく、「既定」と呼ぶことにする。

[23] 読売新聞　東京版　一面　2014 年一年分。

[24] 本節は、劉 (2017b) をもとに、加筆修正を加えたものである。

[25]「労働力」は、典型的な物名詞ではなく、抽象的な名詞である。

[26]「公益活動」も「個人被爆量」も、典型的な物名詞ではなく、抽象的な名詞である。

[27] 仁田(2010a：117)は、述語成分という用語を使って、それについて、「述語成分は、文の中核であり、文の第一次的な主要素(Governor)である。他の諸成分は、述語成分に依存・従属していく従要素(Dependent)である。」と述べている。

[28] 従来の、「でも」を統一的に解釈せず、「で」＋「も」に分析できるものと、一語化しているものに分けて考えるのに賛成する。

[29] 沼田(1986：120)では、自者と他者の概念について、つぎのように述べている。

自者と他者は、とりたて詞の意味の最も基本的概念である。次の例を見てみよう。

(1)太郎も学校に行く。

この文の中のとりたて詞「も」は、その直前の「太郎」を自者としてとりたてていると考えられる。そして、この文はまず、次の文の意味を明示している。

(2)太郎が学校に行く。

(2)には、(1)の「も」がなく、「太郎」には主格助詞の「が」がついている。しかし、(2)の文はそれだけである。ところが、(1)のように「も」があると、「太郎」以外にも「学校に行く」他者――例えば次郎や三郎――が存在していることが含意される。その他者が誰であるかは、文脈がなければ分からないが、とにかく(1)だけでも自者「太郎」に対する他者の存在が認められる。

このように、とりたて詞は単文中のある要素を自者としてとりたてると共に、その自者に対する他者の存在をも示すのである。

[30] 今回の考察では、四つのタイプの中(1)のタイプの方が、他の3つより多かった。

[31] (3)aの「日米新薬拠点」やcの「地上権」は、典型的な物名詞ではなく、抽象的な名詞であり、ここでは場所的な名詞である。

付記

本研究は中国国家留学基金の助成を受けたものである。

調査資料

http://www.yomiuri.co.jp/database/rekishikan/

ヨミダス歴史館：データベース：YOMIURI ONLINE(読売新聞)

参考文献

赤間啓之・清水由美子(2001)「共起語情報を用いた新聞見出しに現れる略語の考察」『言語処理学会年次大会論文集』(第7回),pp.2-9.

朝日新聞整理部(1989)『あなたも編集者―広報・社内報・機関紙・会報の作り方』大阪書籍.

宇野隆保(1956)「(新聞の見出しについて――)お答え」言語生活編集部(編)『言語生活』第6号,筑摩書房.

奥田二弘(1970)「英語新聞見出しの研究」『大分大学経済論集』21(4),pp.139-181,大分大学経済学会.

落合由治(2008)「新聞報道記事の見出しの表現的特徴--「客観性」に対するレトリック分析の観点から」『台灣日本語文學報』23,pp.87－111,台灣日本語文學会.

尾谷昌則・二枝美津子(2011)『構文ネットワークと文法:認知文法論のアプローチ』研究社.

菅野謙(1988)「マスコミとことば」金田一春彦・林大・柴田武『日本語百科大辞典』大修館書店.

菅野謙(1993)「マスコミ言語の省略表現」『日本語学』12－10,pp.34 - 40,明治書院.

共同通信社(2012)『記者ハンドブック――用字用語の正しい知識』(第12版),株式会社共同通信社.

木村洋二(2004)「「新聞見出し(活字サブリミナル)」は拉致をいかに報じたか--四大紙徹底全調査全分析」『諸君』36(6),pp.128-138,文芸春秋.

金田一春彦(1978)『日本人の言語表現』講談社.

金田一春彦(1988)『日本語(下)』岩波書店.

黒崎佐仁子(2007)「話題提示に見られる無助詞文の条件―ニュース見出しを中心として―」『早稲田日本語教育学』第1号, pp. 67-80, 早稲田大学大学院日本語教育研究科.

黒須俊夫(2000)「松本サリン事件報道におけるメディアの実態(1):新聞見出しからみた報道枠組みの変容について」『群馬大学社会情報学部研究論集』7, pp. 169-223, 群馬大学.

後藤利枝(1999)「論説文の文章構造と見出しの反復」『日本女子大学大学院文学研究科紀要』5, pp. 37－48, 日本女子大学.

後藤利枝(2001)「論説文における表題の反復表現を含む「段」の機能」『会誌』20, pp. 1－9, 日本女子大学.

国立国語研究所(1951)『現代語の助詞・助動詞：用法と実例』秀英出版.

小宮千鶴子(2011)「新聞の文体」『文章・談話・表現の事典』明治書院.

斎藤秀夫(1972)「転機に立つ新聞見出し(第69回新聞講座[整理研究会]から)」『新聞研究』(253), pp. 59-66, 日本新聞協会.

佐藤有紀(2006)「新聞見出しにおける擬音語・擬態語の動詞欠如表現」『留学生教育』8, pp. 17-31, 埼玉大学.

澤木美奈子・萩田紀博(1995)「補完類似度に基づく新聞見出し文字の領域抽出と認識」『電子情報通信学会技術研究報告. PRU, パターン認識・理解』95(278), pp. 19-24, 一般社団法人電子情報通信学会.

朱京偉(1992)「量的構造から見た新聞見出し」『文化言語学一その提言と建設』pp. 275－290, 三省堂.

杉村泰(2004)「格助詞で終わる広告コピーに見る「に」と「へ」の使い分け」『名古屋大学言語文化論集』第26巻第1号, pp. 39-54, 名古屋大学大学院国際言語文化研究科.

鈴木繁幸(2006)「ある英字新聞見出しに現れるメタファーに関する一考察」『東京家政大学研究紀要』1, 人文社会科学46, pp. 159-165, 東京家政大学.

高橋太郎(1993)「省略によってできた述語形式」『日本語学』明治書院.

田窪行則(1984)「現代日本語の場所を表す名詞類について」『日本語・日本文化』12号, 89-117, 大阪外国語大学.

田中哲哉(1997)「「純粋命題表現」としての新聞の見出し――「文の概念レベル」からの分析」

神戸市外国語大学大学院修士論文.
田中哲哉(1998)「新聞見出しの文法的特徴と機能」『龍谷大学国際センター研究年報』7, pp. 67-78, 龍谷大学.
谷川陽香(2011)「新聞見出し表現の類型とその変遷：「省略」の観点から(二〇一〇年度卒業論文要旨集)」『札幌国語研究』16, pp. 21, 北海道教育大学国語国文学会・札幌.
寺川みち子(1991)「新聞見出しに見る装定と述定」『日本語論究 3：現代日本語の研究』pp. 109-128, 和泉書院.
長谷川信子(1995)「省略された代名詞の解釈－言語系－」『日本語学』Vol. 14, pp. 27-34, 明治書院.
名嶋義直(2013)「福島第一原子力発電所事故に関する新聞記事報道が社会にもたらす効果について」『ハノイ大学第二回国際シンポジウム紀要』pp. 247--260, ハノイ大学.
仁田義雄・益岡隆志(1989)『日本語のモダリティ』くろしお出版.
仁田義雄(1995)『複文の研究』くろしお出版.
仁田義雄(1997)『日本語文法研究序説――日本語の記述文法を目指して――』くろしお出版.
仁田義雄・益岡隆志. (2000)『日本語の文法』岩波書店.
仁田義雄 (2007) 『辞書には書かれていない言葉の話』岩波書房.
仁田義雄(2009)『日本語のモダリティとその周辺』ひつじ書房.
仁田義雄(2009)『日本語の文法カテゴリをめぐって』ひつじ書房.
仁田義雄(2010a)『日本語文法の記述的研究を求めて』ひつじ書房.
仁田義雄(2010b)『語彙論的統語論の観点から』ひつじ書房.
日本語記述文法研究会(2007)『現代日本語文法』3, くろしお出版.
日本語記述文法研究会(2009)『現代日本語文法』2, くろしお出版.
沼田善子(1986)「とりたて詞」(第 2 章), 奥津敬一郎・沼田善子・杉本武『いわゆる日本語助詞の研究』pp. 105－225, 凡人社.
野口崇子(2002)「「見出し」の"文法"--解読への手引きと諸問題」『講座日本語教育』38, pp. 94-124, 早稲田大学日本語研究教育センター.
野田春美(2006)「新聞の見出し末における格助詞・とりたて助詞の特徴」上田功・野田尚史(編)『言外と言内の交流分野小泉保博士傘寿記念論文集』pp. 433－443, 大学書林.

野田尚史（1991）『はじめての人の日本語文法』くろしお出版.

林四郎(1997)「臨時一語の構造」斉藤倫明・石井正彦(編)『語構成』pp. 268－280, ひつじ書房.

日比野茂夫(1992)「新聞見出しの文章」『愛知女子短期大学研究紀要』(25 巻), pp. 31-38. 愛知女子短期大学.

日比野茂夫(1995)「新聞見出しの字句省略法」『愛知女子短期大学研究紀要』(28 巻) pp. 1－10, 愛知女子短期大学.

堀太一(1973)「新聞見出しと取材姿勢」『総合ジャ-ナリズム研究』10(4), pp. 64-72, 東京社.

益岡隆志・田窪行則（1987）『格助詞』（日本語文法セルフ・マスターシリーズ(3)）くろしお出版.

益岡隆志(2013)『日本語構文意味論』くろしお出版.

益岡隆志(2014)『日本語複文構文の研究』ひつじ書房.

三上章(1975)『三上章論文集』くろしお出版.

三上章(2002)『構文の研究』くろしお出版.

水内純清(2001)「新聞の見出しに見る助詞の省略と効用」『東アジア日本語教育・日本文化研究』3, pp. 181-188, 東アジア日本語教育・日本文化研究学会.

水内純清(2002a)「統語論にみる新聞見出しの形態研究」『東アジア日本語教育・日本文化研究』5, pp. 129-133, 東アジア日本語教育・日本文化研究学会.

水内純清(2002b)「統語論にみる新聞見出しの特徴的な文法形態研究」福岡大学博士論文.

南不二男(1974)『現代日本語の構造』大修館書店.

宮崎彰男(1996)「報道雑誌の見出しの文体特徴」『三重大学教育学部研究紀要』(人文・社会科学) 47, pp. 45-51, 三重大学.

森山卓郎(2009)「新聞見出しの文法 ･序説」『日中言語研究と日本語教育』第 2 号, pp. 13-20.

森山卓郎・仁田義雄・工藤浩(2000)『モダリティ』岩波書店.

山田丈美(2006)「新聞見出しに着目した擬音語・擬態語の指導研究」『名古屋短期大学研究紀要』(44), pp. 221-233, 名古屋短期大学.

山梨正明(2009)『認知構文論:文法のゲシュタルト性』大修館書店.

湯浅千映子(2014a)「ネットのニュース記事における見出しの機能:Yahoo トピックスを用いて」『早稲田日本語研究』(23), pp. 13-23, 早稲田大学日本語学会.

湯浅千映子(2014b)「Yahoo きっず「気になるニュース」の見出しの機能一般の新聞の見出しとの比較から」『埼玉大学日本語教育センター紀要』(8), pp. 13-23, 埼玉大学日本語教育センター.

李欣怡(2008)「広告コピー及び新聞見出しの文末に現れる格助詞「へ」について―格助詞「に」との互換性という観点から―」名古屋大学博士論文.

劉吉香(2017a)「格助詞「へ」で終わる新聞見出しに関する一考察」『比較文化研究』No. 126, pp. 55－64, 日本比較文化学会.

劉吉香(2017b)「格助詞「に」で終わる新聞見出しに関する一考察」『比較文化研究』No. 129, 日本比較文化学会(12 月末日に発行予定).